

(3) 中項目3「教育の実施体制等に関する目標」の達成状況分析

小項目の分析

小項目1「教育分野の変化を的確に判断し、公正で一貫性のある採用のもとで、適切な人材の登用を目指すとともに、業績と能力に配慮して、適材適所の配置を目指す」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画1-1「教育の実施状況と問題点を把握し、教員配置の適正化を図る。」に係る状況

「人事会議」を平成17年度に設置し、学長のリーダーシップの下、教育分野の変化等への対応を含め全学的視野で教員配置の適正化を図る体制を整備した【資料1-1-1】。人事会議では学部長等が策定した教育研究診療分野の人事基本方針を審議して教員配置の適正化を図った。さらに、全学的な視点から必要な人的資源を確保・配置するために「全学定数配置に関する基本方針」を平成17年度に策定した【P174 資料1-1-2】。

資料1-1-1 人事会議要項等

<p>国立大学法人福井大学人事会議要項</p> <p style="text-align: right;">平成17年7月13日 学長 裁定</p> <p>(設置) 第1 国立大学法人福井大学役員会に人事会議を置く。</p> <p>(審議事項) 第2 人事会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。 (1) 各学部、医学部附属病院、高エネルギー医学研究センター及び遠赤外領域開発研究センターの教員の採用及び昇格における当該ポストに係る教育研究診療分野に関する事項 (2) 産学官連携本部、学内共同教育研究施設等(高エネルギー医学研究センター及び遠赤外領域開発研究センターを除く。)及び保健管理センターにおける教員の採用及び昇格に関する事項 (3) その他職員の人事に関し、役員会として必要な事項</p> <p>(組織) 第3 人事会議は、役員のうち、学長及び常勤理事をもって組織する。</p> <p>(議長) 第4 人事会議に議長を置き、学長をもって充てる。 (構成員以外の者の出席) 第5 人事会議は、必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。</p> <p>(役員会への報告) 第6 学長は、人事会議の審議結果について、役員会において報告する。</p>	<p>中項目3 教育の実施体制等「計画1-1」</p>
<p>国立大学法人福井大学人事会議における審議事項について</p> <p style="text-align: right;">平成17年7月13日 学長 裁定</p> <p>国立大学法人福井大学人事会議における審議事項は、会議要項第2第1号及び第2号に定めるもののほか、第3号に規定する事項については、次のとおりとする。</p> <p>1 福井大学における人事の企画に関すること 2 組織・人員配置に関する基本方針 3 その他</p>	

(福井大学規則集より)

資料 1-1-2 全学定数配置に関する基本方針

全学定数配置に関する基本方針について

平成 17 年 10 月 12 日
学 長 裁 定

福井大学は、創設の理念及び地域の特性を踏まえ、地域、国際社会に貢献する人材の育成と基礎研究を重視しつつ、本学の有する世界的水準の研究をはじめとした独創的研究及び高度先端医療を実践し、地域、国、国際社会に貢献することを目標とする。

この目標を達成するため、全学定数配置に関する基本方針を次のとおり定める。

- 1 教育研究診療分野の新たな改編を行うためには、全学的視野からの人的資源の配分が不可欠である。
- 2 そのためには、選択と集中及びスクラップアンドビルドの方針に基づいた既存組織の見直しを行う。
- 3 学長は、全学の組織及び人員配置等について、教育研究評議会で審議の上、役員会の議を経て決定する。

(事務局資料)

平成 18 年度に策定された「総人件費削減対策と定数管理について」に基づき、平成 19 年度から人件費の管理にポイント制が導入され、助教のポイントの一部について職種を越えた競争的配分に使用する等、教育・研究分野の柔軟な人事計画・人事の適正化が進められた【資料 1-1-3～6】。

資料 1-1-3 総人件費削減対策と定数管理

総人件費削減対策と定数管理について

平成 18 年 11 月 15 日
一部改正 平成 19 年 7 月 18 日
役 員 会 決 定

効率化係数による運営費交付金の削減、政府の総人件費改革の実行計画に基づく人件費 5%（平成 21 年度までに 4%）の削減にあたり、以下のとおり人件費削減等の取組みを行う。

平成 18 年度以降の人件費については、以下のとおり一定率の削減を行う。

平成 18 年度	2.0%	総人件費改革(1 年目) 1%	地域手当支給相当額 1%
平成 19 年度	1.0%	総人件費改革(2 年目) 1%	
平成 20 年度	1.0%	総人件費改革(3 年目) 1%	
平成 21 年度	1.0%	総人件費改革(4 年目) 1%	
平成 22 年度	1.0%	総人件費改革(5 年目) 1%	

平成 18 年度以降の定数及び人件費の管理は、職種別に定めるポイント数によることとし、この取組みをポイント制と称する。

学長は、全学における総ポイント数を管理・運用する。

学長管理ポイントを創出し、柔軟かつ機動的な体制の確立を目指す。

(事務局資料)

資料1-1-4 ポイント制の概要

ポイント制とは、各職種の平均給与を10万円あたり1ポイントに換算し、学内の各部局ごとに総額と削減目標を示して、その枠内であれば職種や人員の構成を弾力的に運用する制度である。(教員だけでなく、事務職員及び看護師など全ての教職員を対象とした制度の導入は、国立大学法人初。)この中で、団塊世代の退職による人件費を「学長管理ポイント」として活用し、本学の重点的教育・研究分野に配分する制度を設けた。

ポイント制の導入について

基本方針

- 1) ポイント制は、全ての教職員に適用する。
- 2) 学長管理ポイントを創設し、柔軟かつ機動的な体制の確立を目指す。
- 3) 学長は、全学における総定数を管理する。
- 4) 今後の大学予算等の増減に応じて見直しを行う。

導入の効果

- 1) 各部局のポイント総数の範囲内において、雇用等する職種、人数は各部局の判断に委ねることが可能となる。
- 2) 法人へ移行したことに伴い定数の縛りがなくなる。予算の用途制限が緩やかになる。

運用方法

- 1) 平成17年度の職種毎の年間給与支給総額(時間外手当等実績給を除く。)を基に職種別ポイント数を定め、各部局の職種別定数を掛け合わせ、各部局別のポイント総数(部局別の限度持分)を算出する。
- 2) 各部局は、原則として年度毎の削減率を乗じた後の総ポイント数の範囲内において、雇用等する職種、人数について、その裁量により人員の管理を行う。
- 3) 学長は全学的観点から、必要に応じて学長管理ポイントを行使する。

(事務局資料)

資料1-1-5 ポイント制による重点の人員配置の例

「学長管理ポイント」の創設による重点領域教育・研究分野への人員配置として、下記の取組が挙げられる。

- 産学官連携本部：専任教員(3人体制) (平成20年4月)
- 高エネルギー医学研究センター：事務職員、技官の配置 (平成19年4月)
- 工学研究科、医学系研究科：ポスドクを重点領域に配置 (平成19年4月～)
- 教育地域科学部：教職大学院みなし専任教員の優先的配分 (平成20年4月)
- 特命教員の採用(平成19年11月～：工学部2名、平成20年4月：医学部3名)

(事務局資料)

資料 1-1-6 国立大学法人福井大学の平成 18 年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

..... 特に、教員、事務職員及び看護師等のすべての教職員の定数と人件費の管理は職種別に定め、学長が全学のポイント数を管理する「ポイント制」を導入しており、先進的な取組として評価できる。今後、ポイント制を活用して、職種を超えた弾力的な人事管理により教育研究の活性化、事務の効率化を図り、全学一元的な人件費管理のモデルとなることが期待される。.....

(「国立大学福井大学の平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果」より)

地域手当支給のため平成 21 年度までに人件費を 3 % 削減することとしていたが、地域手当の支給率を当分の間 1 % に据え置き、人員の確保に努めることとした【資料 1-1-7】。

資料 1-1-7 地域手当の削減について

「総人件費削減対策と定数管理について」(平成 18 年 11 月 15 日
役員会決定)の一部改正について(抜粋)

〔平成 19 年 11 月 15 日
役員会決定〕

1. 大学にとって人材は、最も重要な資産であるという観点から、ポイント削減率を 6 % に止める。
2. 総人件費 5% の削減を実行しつつ、ポイント削減率を 6% に止めるため、地域手当の支給率を当分の間 1 % に据置き、今後の財政状況等の推移を見ながら引き続き検討する。

政府の「総人件費改革の実行計画(閣議決定(17.12.24))」及び「国立大学法人運営費交付金の改革(閣議決定(19.6.19))」等、運営費交付金に係る本学を取りまく厳しい現況を踏まえる。

(事務局資料)

学生教育の主責任者である教授(または准教授)の選考は原則公募制であり、各学部では教育・研究業績を有する優秀な教員を積極的に採用している。さらに、学部等の特性に合わせ適材適所の教員採用・配置の適正化を図るため、関連する専門委員会等が各学部に配置されている。

計画 1-2 「男女共同参画を実現するための取組みについて更に検討する。」に係る状況

本学女子職員の育児休暇取得率が96%であることなどにより、次世代育成支援対策推進法に基づく方策の基準適合一般事業主として本学が平成19年度に県内最初の認定を受けた。特に、この認定は全国の国公立大学において初めてのものであることは特筆される【資料1-2-1~2】。それに先立ち、男女共同参画に関わる「福井大学行動計画」を平成17年度に策定し、適切に計画案を実施した【P178 資料1-2-3~4】。

さらに、松岡キャンパスへの保育施設の設置が決定され、女性が働きやすい職場作りが進んでいる【P181 資料1-2-5】。

資料 1-2-1 次世代育成支援事業主認定通知

基準適合一般事業主認定通知書
平成19年 5月 8日
国立大学法人福井大学
学長 福田 優 殿
福井労働局
平成19年4月12日付けで申請のあった件について、次世代育成支援対策推進法第13条に基づき、認定しましたので、通知します。

**全国の
国公立大学初!!**

「子育てに優しい職場」として、次世代育成支援対策推進法に基づく仕事と家庭・育児の両立支援企業・福井県第一号に認定

認定マーク「くるみん」

資料 1-2-2 関連記事

日刊 福井
発行所 中日新聞福井支社
福井市中央三丁目1番6号
電話 0776(2)21950
FAX 0776-0002 郵便番号 910-0002
©1999NIPPON 2007

子育て支援福大優秀

行動計画達成 県内認定1号

福井労働局

女性の育児取得率96%

(日刊福井 H19.5.16)

教育 3
中項目 3
教育の実施体制等「計画 1-2」

第1期 国立大学法人福井大学行動計画

職員が仕事と子育てを両立させ、かつ、その能力を十分に発揮できる環境をつくるため、また、次世代育成支援に関し国立大学法人として地域社会に貢献するため、次のとおり行動計画を策定する。

1. 計画期間 平成17年4月1日から平成19年4月1日まで

2. 内 容

(男性の育児参加を促進するための措置)

目標1 子どもの出生前後に、子育てのため父親が取得できる有給の休暇制度を導入する。

<対策>

平成17年4月に制度を導入する。

【目標の達成状況】

平成17年4月1日から、全職員を対象に、「男性職員の育児参加」のための有給の休暇制度(特別休暇)を導入した。

常勤職員を対象とした「出産の付き添い」及び「子の看護」のための有給の休暇制度(年次有給休暇以外の休暇)を、平成17年4月1日から契約及びパート職員にも導入した。

(育児休業の取得促進に関する措置)

目標2 計画期間内の育児休業の取得状況を次の水準以上にする。

男性職員 計画期間内に1人以上取得。

女性職員 取得率80%以上。

<対策>

平成17年4月から

(1) 育児休業期間中は代替要員を措置する。また、交代制勤務を伴う職種にあっては、これに対応できる代替要員の確保に努力する。

(2) 育児休業取得の障害の有無について、職員の意識調査を行う。

(3) 管理職を対象に職員が育児休業できる雰囲気づくりに向けた啓発を行う。

【目標の達成状況】

男性職員 平成18年度1名取得 女性職員 取得率96%

(育児休業取得者51人/出産した労働者53人)

(3歳から小学校に入学するまでの子を持つ労働者を対象とする措置)

目標3 小学校に入学するまでの子を持つ労働者を対象に、一日の所定労働時間を変更することなく始業又は終業の時刻を繰り上げ、又は繰り下げる制度を導入する。

(事務局資料)

<対策>

平成17年4月に制度を導入する。

【目標の達成状況】

平成17年4月1日から、常勤職員を対象に、「育児を行う職員の早出遅出勤務」のための制度を導入し、平成19年4月1日から、契約・パート職員にも同制度の適用の拡大を図った。

目標4 小学校に入学するまでの子を持つ労働者を対象とした託児施設の設置又はこれに準ずる便宜の供与に関し職員のニーズ及び所要措置に必要な施設及び経費を調査する。

<対策>

平成17年度に職員の具体的なニーズ等を調査し、次期行動計画に引き継ぐ。

【目標の達成状況】

人事委員会のもとにワーキングを設置し、保育施設の設置に関して、職員のニーズ及び所要措置に必要な施設及び経費を調査した。

(所定外労働の削減に関する措置)

目標5 ノー残業デーを設ける。

<対策>

平成17年度中にノー残業デーを設ける。

【目標の達成状況】

平成18年7月18日から、事務系職員を対象に、「ノー残業デー」を週1日設定した。

(次世代育成に関する地域貢献の奨励)

目標6 国、県及び各市町村の次世代育成に関する施策立案や地域における子育て支援活動に積極的に参加、協力することを呼びかける。

<対策>

平成17年4月から

- (1) 国等の行政機関の要請に応じ、教職員が子育てや次世代育成支援対策の施策立案に積極的に参加することを呼びかける。
- (2) ボランティアとして教職員が、地域における子育て家庭の支援や子どもの体験活動支援等に積極的に参加することを呼びかける。

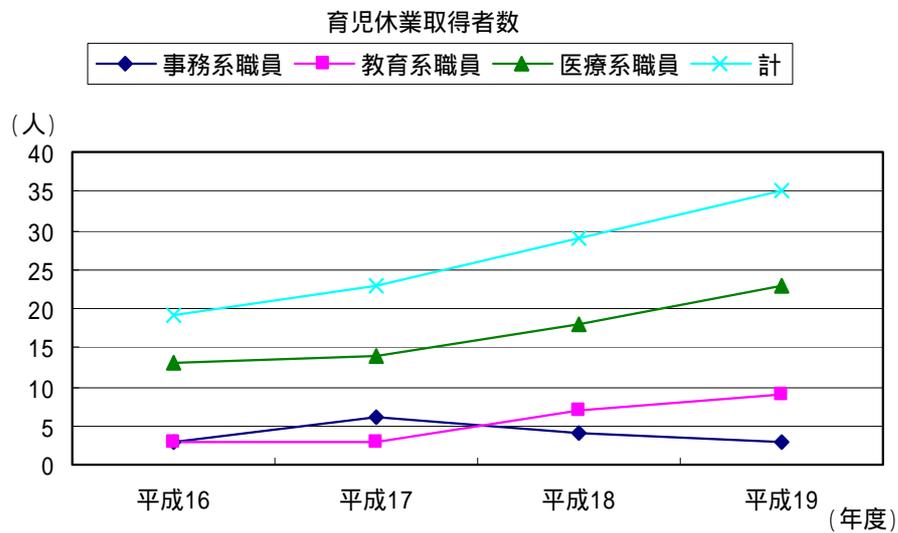
【目標の達成状況】

平成17年4月14日付けで、学長から全職員に対して、「国立大学法人福井大学行動計画の策定について」を通知し、子育て支援活動に積極的に参加、協力することを呼びかけた。

(事務局資料)

資料 1-2-4 次世代育成支援対策推進法に基づく方策

- ・「男性職員の育児参加」のための有給の休暇制度（特別休暇）を導入
- ・「出産の付き添い」及び「子の看護」のための有給の休暇制度（年次有給休暇以外の休暇）を導入
- ・「育児を行う職員の早出遅出勤務」のための制度を導入



（事務局資料）

資料 1-2-5 保育施設の設置

1. 運営概要について

- (1) 保育開始日 平成 21 年 4 月 1 日
 (2) 開所日 月～金曜日
 (3) 休所日 土・日曜日，祝祭日，年末年始（12/29～1/3）
 (4) 保育時間 基本保育 8：00～18：30
 (オプション)
 早朝保育 7：00～8：00
 延長保育 18：30～22：00
 夜間保育 22：00～翌8：00
 夜間保育は，週1回（月～金曜から曜日を特定して実施）
 一時保育 8：00～18：30
 (オプション)
 早朝保育 7：00～8：00
 延長保育 18：30～22：00
 一時保育は，定員に余裕がある場合のみ実施
- (5) 利用資格者 福井大学職員（大学を事業主として雇用保険に加入している者。非常勤職員を含む。）
 ただし，定員に余裕がある場合に限り，学生・外国人研究員等の利用も柔軟に対応
- (6) 入所対象児 0歳（産後休暇明け）から6歳（小学校就学前）まで
 (7) 入所定員 20名
 (8) 保育料金 基本保育 0～3歳未満 40,000円/月
 3～6歳 30,000円/月
 おやつ・食事代は別
 2人目以降は10,000円/月減額
 (オプション)
 早朝保育 200円/30分
 延長保育 200円/30分
 夜間保育 100円/時
 一時保育 400円/時
 ただし，基本保育時間内は1回につき3,000円を上限とする。
 (オプション)
 早朝保育 200円/30分
 延長保育 200円/30分

2. 病児・病後児保育について

病児・病後児保育は，当面は実施しないが，将来の実現性について再度検討する。
 当面は，保育中に熱が出た場合は，保護者の了解を得て保育士が本院に受診させ，小児科医又は救急医の判断により保育の継続を可能とする。ただし，医師の指示により保育施設での保育が困難な場合は，迎えに来てもらう。（医師が手術等で迎えが困難な場合に限り看護部から看護師派遣を検討する。）

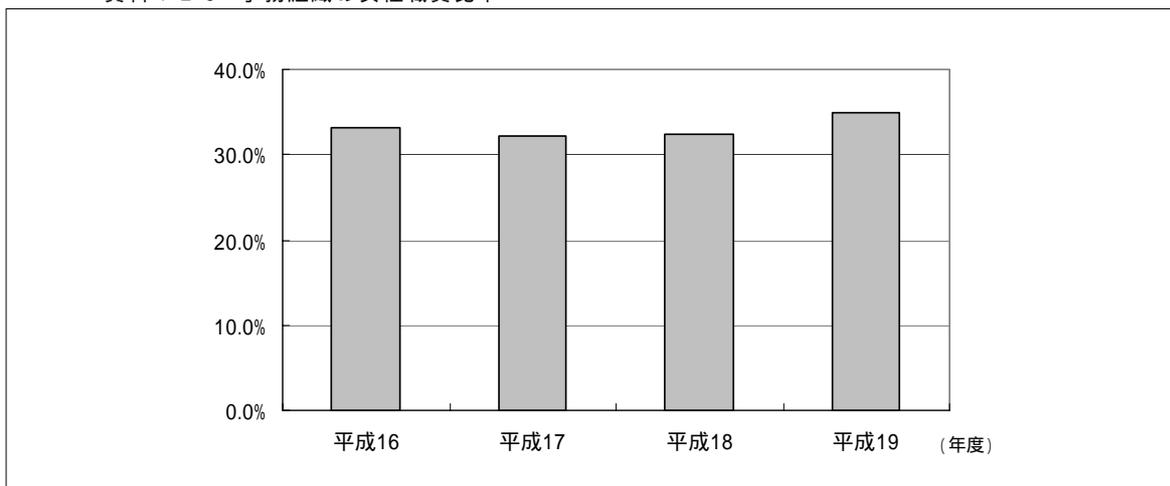
3. 給食等について

保育施設内で調理する。（外注により対応することもできるが，降雪等の理由により配膳が遅れることがあるため。）
 栄養士の配置については，本院の栄養管理部門長と相談する。

(事務局資料)

教育支援業務を担当する事務組織中の女性職員の比率は高い水準を維持している【P182資料1-2-6】。また，大学全体の教員中に占める女性教員の比率は，全国の研究者中に占める女性研究者の比率とほぼ同等の水準を維持している【P182資料1-2-7】。

資料 1-2-6 事務組織の女性職員比率



(事務局資料)

資料 1-2-7 女性教員の比率

学部・研究科等名	専任教員数	職位別割合								みなし専任教員数	研究指導教員数(研究科のみ)		研究指導補助教員(研究科のみ)	女性専任教員数	専任教員に占める女性教員割合	(当該学問分野の平均値)
		人数				構成割合					合計	うち教授				
		教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教							
教育地域科学部	96	59	33	4		61%	34%	4%						14	14.6%	17.7%
医学部	161	41	36	11	73	25	22	7	45					32	19.9%	18.3%
学部計	257	100	69	15	73	39	27	6	28	0	0	0	0	46	17.9%	
教育学研究科											70	54	23			17.7%
工学研究科	160	71	61	14	14	44	38	9	9		128	69	23	5	3.1%	3.7%
大学院計	160	71	61	14	14	44	38	9	9	0	198	123	46	5	3.1%	
地域共同研究センター	2	1	1			50	50				70					
高エネルギー医学研究センター	5	2	2		1	40	40		20		12					
遠赤外線開発研究センター	6	3	3			50	50									
総合情報処理センター	1			1					100							
アドミッションセンター	2	1	1			50	50									
留学生センター	5	3	2			60	40							2	40.0%	
総合実験研究支援センター	3		2	1			67	33								
保健管理センター	3	1	1	1		33	33	33						1	33.3%	
附属病院	92	3	6	25	58	3	7	27	63		6	1	21	10	10.9%	
その他計	119	14	18	28	59	12	15	24	50	0	6	1	21	13	10.9%	
合計	536	185	148	57	146	35	28	11	27	0	204	124	67	64	11.9%	
全国分布																
全国合計	80,625	33,683	25,666	6,037	15,139	42%	32%	8%	19%	105	31,245	19,417	9,968	8,505	10.6%	
中央値	608	254	204	38	107	45	34	6	15	0	295	214	105	68	11.6%	
平均値	959	401	306	74	182	44	33	7	16	2	440	273	144	101	12.3%	
標準偏差	927	371	287	140	242	9	6	4	13	4	427	247	180	91	6.5%	
入力数	84	84	84	82	83	84	84	82	83	65	71	71	69	84	84	

(大学情報データベース「達成状況判定用データ分析集 2007年度」より)

b) 「小項目 1」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 「全学定数配置に関する基本方針」などの人事基本方針の策定，人事会議設置による全学的審議体制の整備，特に人件費の管理のためのポイント制の導入により，学長のリーダーシップのもと柔軟な人事計画の推進が可能となり，適切な人材の登用など教員配置の適正化が進められた。
2. 社会的ニーズに対応した適切な教職員配置の一環として，男女共同参画に関わる「福井大学行動計画」の策定・具現化，保育所の設置などによって女性が働きやすい職場作りが進んでいる。特に，本学が「次世代育成支援対策推進法」に基づく基準適合一般事業主として県内最初の認定を受けたことは取組が優れている証左である。

小項目2「学生及び大学院生が高い満足度が得られるように教育環境を整備する。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画2-1「附属図書館，総合情報処理センターからなるメディアコモンの実現に努力する。」に係る状況

メディアコモンについては，中期計画策定時の構想をもとに検討を重ね，国立大学法人を取り巻く厳しい環境や学内事情を勘案し，ソフト面での整備を行うこととした。耐震改修される総合図書館において，オープン型のマルチメディアコーナー，グループ学習室の増強等アメニティーとコミュニケーション環境を整備することで，メディアコモン構想を結実することができた【資料2-1-1～2】。

資料2-1-1 当初のメディアコモン構想の概要

図書館の狭隘化の進行及び電子図書館に対する施設・設備の対応力不足を解消するため，全面改修を実施するとともに，総合情報処理センター等との複合館（メディアコモン）を目指し，書庫スペースの拡充，閲覧スペースの整備，電子図書館的機能の強化等の整備を図る。

（中期計画予定事業）

資料2-1-2 メディアコモン構想の検討経過

年 度	検 討 経 過
平成16年度	メディアコモンについて，総合図書館と総合情報処理センターを中心に検討開始。
平成17年度以降	諸般の事情の中で，ソフト面におけるメディアコモン構想実現を検討。
平成18年度	メディアコモン機能実現の一つとして，総合情報処理センターの技術的支援を受け，「福井大学機関リポジトリ」を構築。
平成19年度	20年度概算要求として総合図書館に係る改修（機能改善・耐震）と増築を提出。補正予算の示達。
平成20年度	改修工事期間中は学内の一角に臨時図書館を開設，3月新総合図書館が竣工予定。新総合図書館では，地震災害に対応する安全性を確保するとともに，書庫を増設することで収納力を強化し，更に貴重資料等を展示するスペースやオープン型のマルチメディアコーナー等の設置，グループ学習室の増強等アメニティーとコミュニケーション環境を整備することにより，メディアコモンの機能を実現する。

（事務局資料）

総合図書館の耐震改修を契機に本構想の一環である総合図書館の整備が平成20年度に概算要求事項として予算化され，構想が具体化した【資料2-1-3～4】。

資料2-1-3 総合図書館再生構想

知を求めて集う図書館

ラウンジ
 また，学習やクラブ活動の成果発表の場として活用するほか，企業説明会，新製品発表会等地域との連携の場としても利用する。

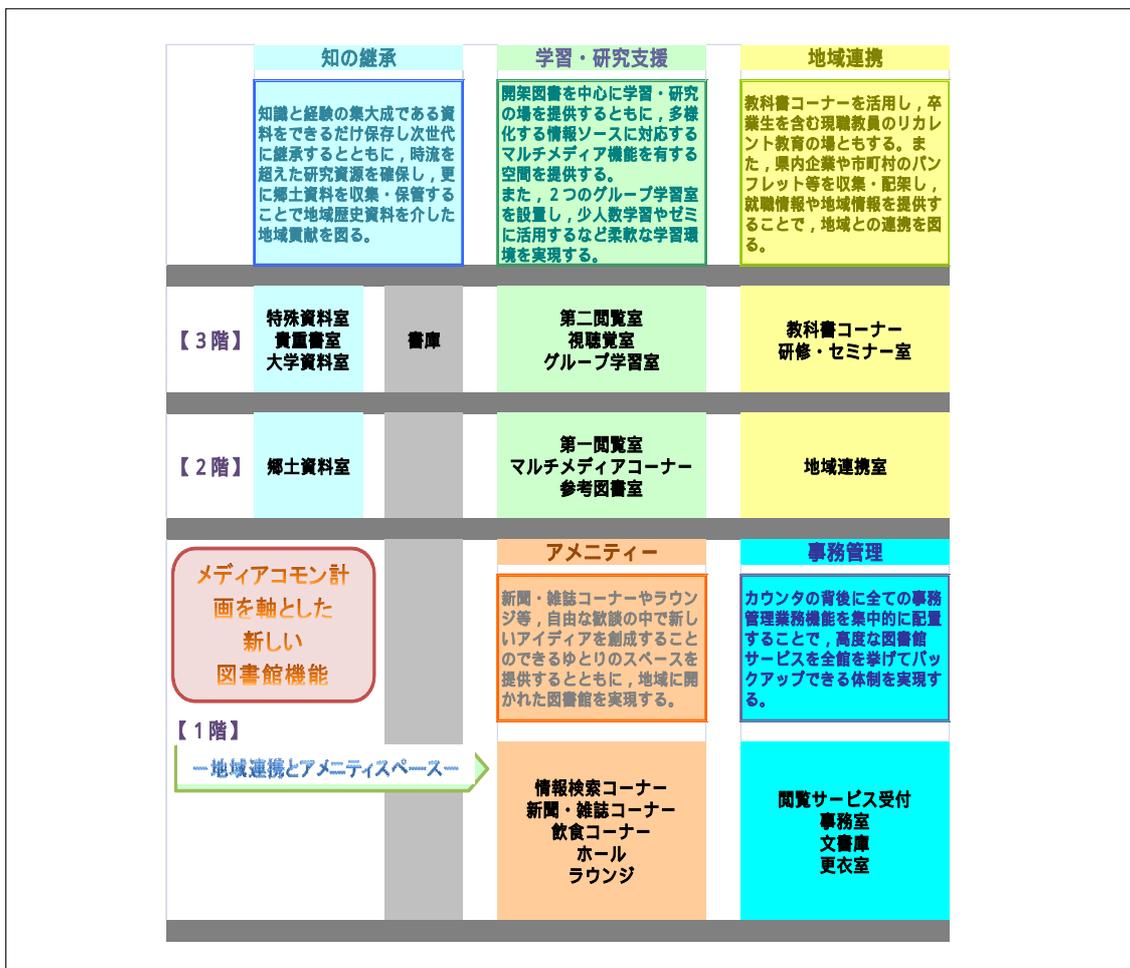
飲食コーナー
 学習に疲れた心身を癒すと共に，利用者間のコミュニケーションの場ともなるもので，図書館唯一の飲食の場でもある。

展 示
 ホールやラウンジでは，目的や規模，内容に応じた所蔵資料の展示や他の図書館が企画する巡回展示会にも対応する。
 また，ここでは複数の展示ケースを組み合わせることで，規模の大小にも柔軟に対応する。



（事務局資料）

資料 2-1-4 総合図書館整備計画について



(事務局資料)

本構想の一環である大学の学術情報発信の機能を持った「福井大学学術機関リポジトリ」システムを平成18年度に構築、平成19年度に公開し、教員の研究成果等の教育活動への活用が進められた【資料2-1-5】。

資料 2-1-5 福井大学学術機関リポジトリ

本学の様々な学術成果物(学術論文等)を全世界に向けて発信するシステム「福井大学学術機関リポジトリ」の一般公開を平成19年9月から開始した。
 当システムは検索機能も有しており、従来は学術雑誌や学会誌等でしか閲覧できなかった論文の全文が、無料で手軽に閲覧できるようになった。

「福井大学学術情報リポジトリ」トップページ

公開時期	雑誌論文	研究紀要論文	博士学位論文
学内公開 2007/7/2	0	298	0
一般公開 2007/9/28	80	298	0
2008/2/1 現在	197	498	10

雑誌論文 ... 197件
 研究紀要論文 ... 498件
 博士学位論文 ... 10件

(事務局資料)

計画 2-2 「附属図書館の学習支援機能を強化する。」に係る状況

附属図書館では様々な取組みによって学習支援機能の強化を図っている【資料 2-2-1】。学習支援の基盤である蔵書数(総蔵書および教育・学習図書)及び購入図書数は法人化に伴い増加している【資料 2-2-2~3】。さらに、図書館における資料の整備状況は学生に概ね好評である【P187 資料 2-2-4】。

資料 2-2-1 学習支援機能の強化基盤となる教育・学習図書の充実状況

1. シラバス掲載の教科書、参考書等は全点所蔵の方針で整備充実
2. 教員からの推薦図書を Web で受付、迅速、確実な受入の充実
3. 各種 GP に係る図書は、専用の関連図書コーナーを設置して購入、整備
4. 学部講演会等からの助成・寄付金により、図書の充実

(事務局資料)

資料 2-2-2 全蔵書構成

(冊)

	年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
総合図書館	蔵書冊数	464,616	445,752	454,362	464,538	473,237	484,250
		111.26	107.28	107.90	111.78	116.19	119.89
		1272.92	1221.24	1214.87	1283.25	1329.32	1356.44
	年間受入図書数	98.75	95.23	94.82	98.34	102.50	103.12
		7,928	7,629	8,636	10,182	8,727	11,013
		1.90	1.84	2.05	2.45	2.14	2.73
医学図書館	蔵書冊数	116,043	111,388	114,667	120,232	120,956	123,842
		116.86	109.42	106.17	113.00	115.42	121.41
		414.44	406.53	436.00	455.42	474.34	474.50
	年間受入図書数	61.92	58.63	60.38	63.55	64.13	69.50
		3,118	3,710	3,371	4,352	4,052	2,917
		3.14	3.64	3.12	4.09	3.87	2.86
合計	蔵書冊数	580,659	557,140	569,029	584,770	594,193	608,092
		112.33	107.70	107.55	112.02	116.03	120.20
		900.25	871.89	893.30	934.14	972.49	983.97
	年間受入図書数	88.26	84.66	85.04	88.39	91.37	93.91
		11,046	11,339	12,007	14,534	12,779	13,930
		2.14	2.19	2.27	2.78	2.50	2.75
	利用者当たり	17.13	17.74	18.85	23.22	20.91	22.54
		1.68	1.72	1.79	2.20	1.97	2.15

H17年度には古図書を整理

(事務局資料)

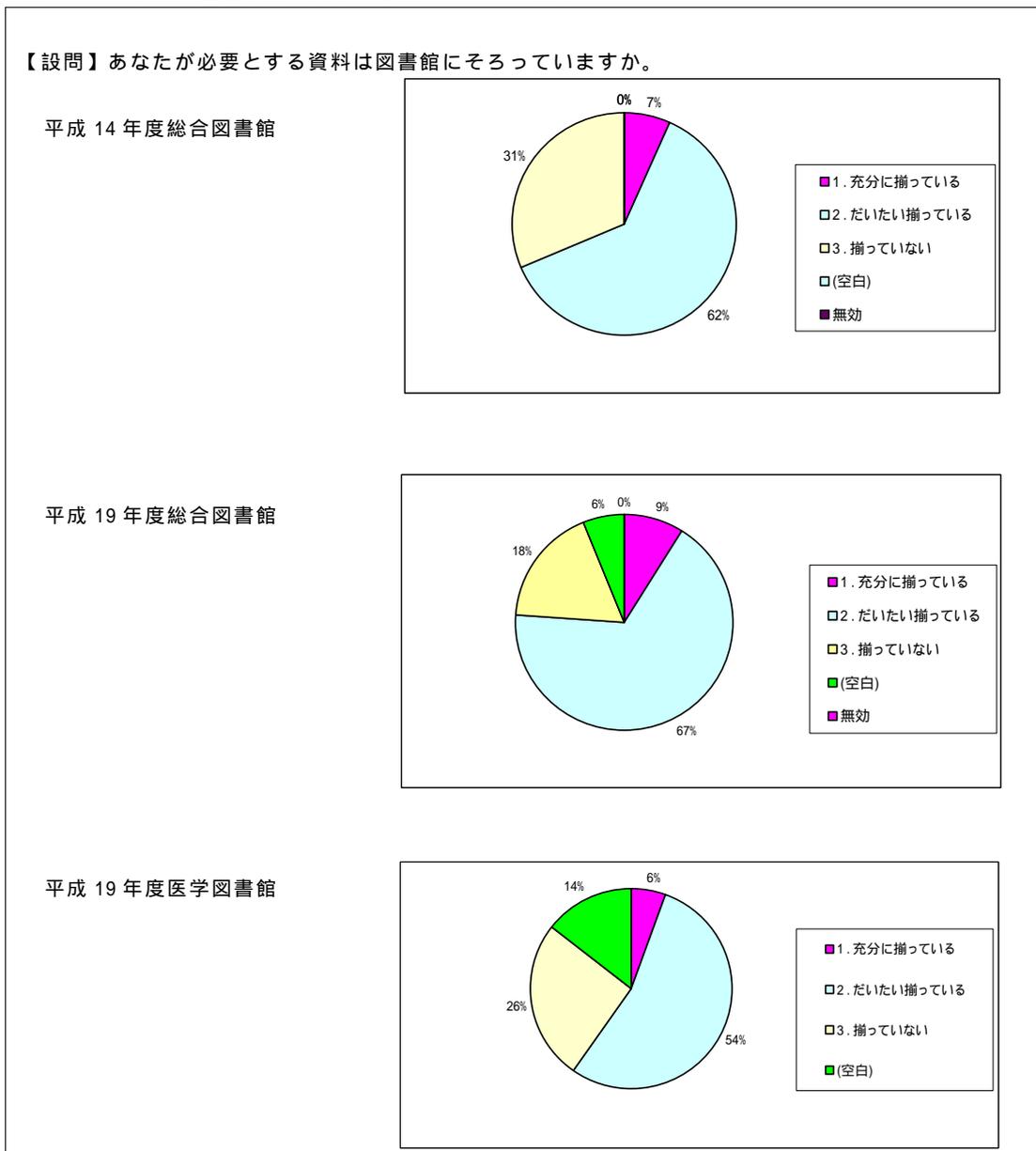
資料 2-2-3 教育・学習図書の充実状況(受入れ図書数)

(冊)

	年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
総合図書館	年間受入図書数	7,928	7,629	8,636	10,182	8,727	11,013
		1.90	1.84	2.05	2.45	2.14	2.73
		21.72	20.90	23.09	28.13	24.51	30.85
		1.69	1.63	1.80	2.16	1.89	2.35
医学図書館	年間受入図書数	3,118	3,710	3,371	4,352	4,052	2,917
		3.14	3.64	3.12	4.09	3.87	2.86
		11.14	13.54	12.82	16.48	15.89	11.18
		1.66	1.95	1.78	2.30	2.15	1.64
合計	年間受入図書数	11,046	11,339	12,007	14,534	12,779	13,930
		2.14	2.19	2.27	2.78	2.50	2.75
		17.13	17.74	18.85	23.22	20.91	22.54
		1.68	1.72	1.79	2.20	1.97	2.15

(事務局資料)

資料 2-2-4 資料の整備状況に関する学生アンケート結果



(事務局資料)

時間外開館を実施し、学習支援を強化している。医学図書館では平成 8 年度より終日開館とし、総合図書館では平成 19 年度より休日開館とし、学生の利便性は向上した【資料 2-2-5～8】。

資料 2-2-5 平成 18 年度学生による図書館の利用状況 (人)

	曜日	学生	総利用者数	学生/総利用者数	1日当たりの学生利用者数
総合図書館	平日	108,040	110,150	98%	445
	土曜	4,473	4,605	97%	91
	日曜	1,174	1,202	98%	23
	休日	235	241	0%	11
	小計	113,922	116,198	98%	311
医学図書館	平日	84,317	89,703	94%	347
	土曜	10,233	10,635	96%	209
	日曜	12,585	12,992	97%	242
	休日	3,738	3,883	96%	170
	小計	110,873	117,213	95%	303
合計		224,795	233,411	96%	614

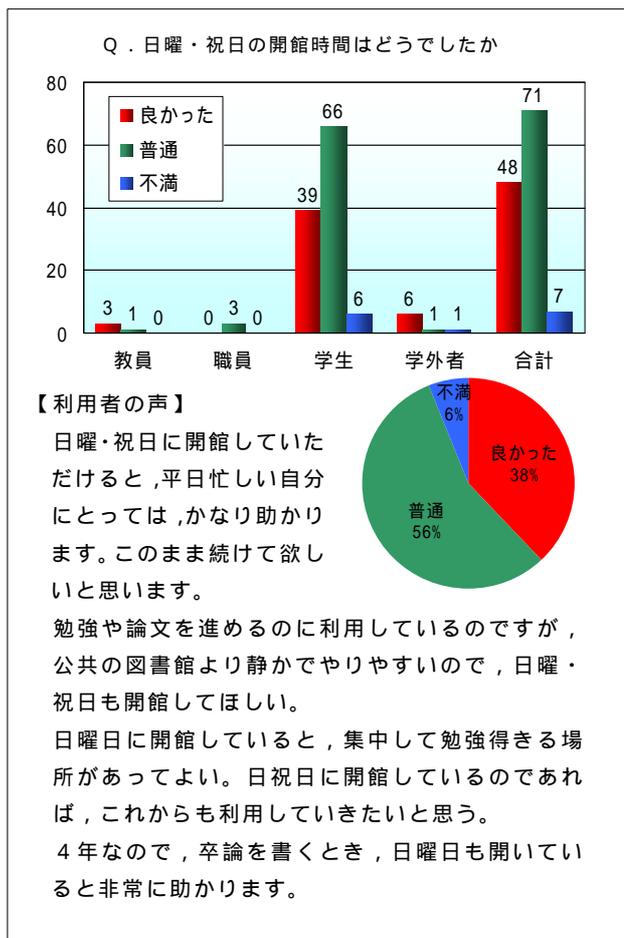
(事務局資料)

資料 2-2-6 休日の入館者数(平成 19 年度・総合図書館)

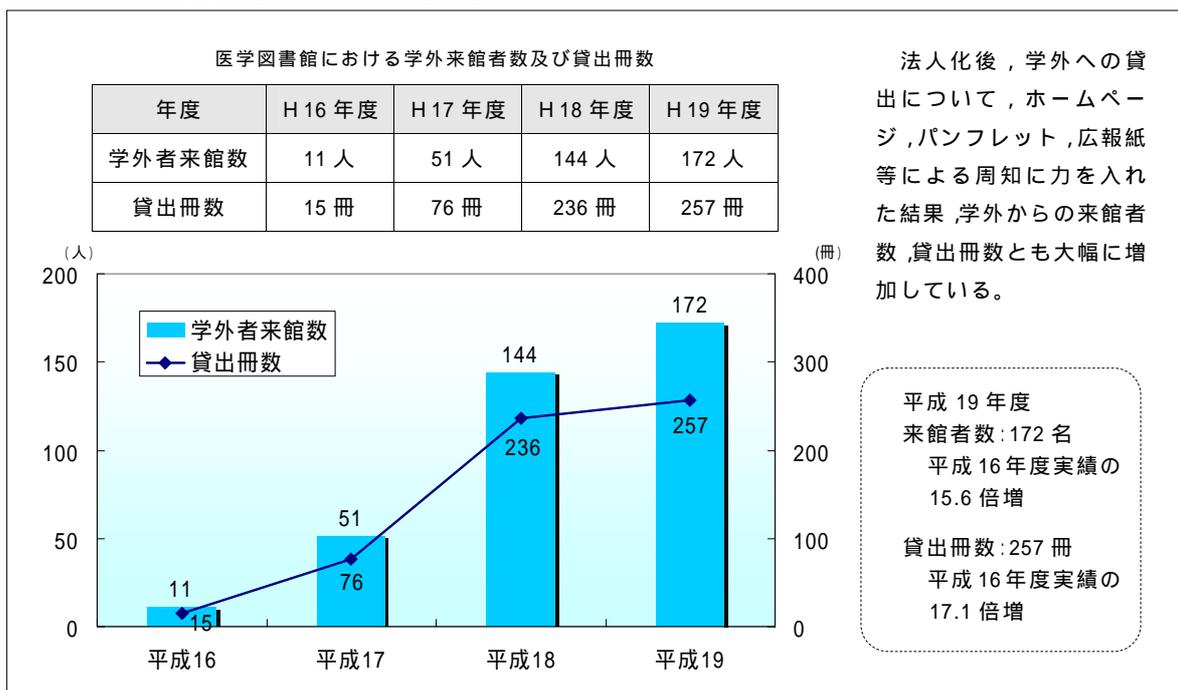
開館日	学生 教職員	学外者	合計
9月2日(日)	56	2	58
9月9日(日)	56	0	56
9月16日(日)	56	3	59
9月17日(祝)	57	0	57
9月23日(日)	62	1	63
9月24日(祝)	66	3	69
9月30日(日)	25	0	25
9月計	378	9	387
10月7日(日)	36	1	37
10月8日(祝)	50	2	52
10月14日(日)	30	0	30
10月21日(日)	59	5	64
10月28日(日)	56	7	63
10月計	231	15	246
総合計	609	24	633
			53人/日

(事務局資料)

資料 2-2-7 日曜・祝日開館に関するアンケート集計結果



資料 2-2-8 医学図書館における日祝日開館について



(事務局資料)

法人化後，図書館情報に関するリテラシー教育や情報アクセスに関する講演会の回数を増やし，学習支援を推進した【資料 2-2-9～10】。

資料 2-2-9 講演会等の開催実績

ガイダンスの種類		開催年度					
		14	15	16	17	18	19
ミニミニ講習会	回数					47	1428
	時間数(時間)					4.58	128.21
	参加人数(人)					28	680
大学入門セミナー	回数	5	5	5	5	5	5
	時間数(時間)	3.75	3.75	3.75	3.75	3.75	3.75
	参加人数(人)	813	780	780	752	777	746
テュートリアル教育	回数	1	1	1	1	1	
	時間数(時間)	1	1	1	1	1	
	参加人数(人)	85	95	95	95	95	
情報探索セミナー	回数	1	1	1	1	1	
	時間数(時間)	4	4	4	4	4	
	参加人数(人)	70	86	70	65	65	
大学院セミナー	回数		1	1	1		
	時間数(時間)		2	2	2		
	参加人数(人)		15	20	17		
SciFinder 講習会	回数			1	3	1	1
	時間数(時間)						
	参加人数(人)			26	83	30	39
情報処理基礎	回数		8	6	8	8	8
	時間数(時間)		12	9	12	12	12
	参加人数(人)		597	524	526	574	570
CINAHL 講習会	回数			1	1	2	
	時間数(時間)			2	2	4	
	参加人数(人)			5	30	15	
EBMR 講習会	回数		1	1	1	1	
	時間数(時間)		2	2	2	2	
	参加人数(人)		30	12	16	7	
UpToDate 講習会	回数			1	1	1	
	時間数(時間)			2	2	2	
	参加人数(人)			4	19	19	
電子ジャーナル講習会	回数			2		1	2
	時間数(時間)						2
	参加人数(人)			55		28	44
合 計	回数	7	17	20	22	68	1444
	時間数(時間)	8.75	24.75	25.75	28.75	33.33	145.96
	参加人数(人)	968	1603	1591	1603	1638	2079

(事務局資料)

UpToDate 講習会

医学図書館では、外部の講師を招いて、UpToDate講習会を開催します。

【UpToDate概要】

- ・医師が医師のために作成した臨床支援ツールで、各分野のエキスパートが平易な文章で指針を提供しています。
- ・毎月 270 誌を越える雑誌からの確かなデータに基づいたもので、かつ臨床に適用できる情報を収集しており、専門家の査読を経た5万ページ以上のオリジナルテキストからなっています。
- ・年3回全内容の約 30%が改訂・更新されており、図表やX線写真等のグラフィックス、薬剤情報、MEDLINE の抄録など関連情報を多数収録しています。

この講習会から今までの研究スタイルが変わる(?!)

日時 平成19年9月27日(木) 18:00~20:00
概要説明とデモ
場所 講義棟1階 情報処理演習室
対象 本学の教職員・学生、興味のある方はどなたでも結構です。
申込先 医学図書館医学情報サービス係(申込み期限:9月20日)

(「附属図書館ホームページ」より)

平成 19 年度に県立図書館と協定を締結し、蔵書の相互貸借を行う体制を整え蔵書を共有化することで学習支援機能を強化した【資料 2-2-11~13】。

福井県立図書館との相互協力協定の締結により、本学と県内 16 の公共図書館の蔵書を合わせた 460 万冊の一括検索や、県内各市町立図書館を介した相互借出が可能となった。

福井大学附属図書館と福井県立図書館の相互協力協定調印式



握手を交わす中川附属図書館長と桂屋県立図書館長

県立図書館

相互協力協定を結び、握手を交わす中川英之・福井大付属図書館長(写真左)と桂屋修・県立図書館長(福井市下馬町の県立図書館で)

蔵書共通に

福井大付属図書館

福井大付属図書館は、目の二つある、これまで総合図書館(福井市)でも福井市の住・勤務を交す(目)と「医学図書館」に貸し出していた。書庫(永平寺町松原下合)今後、県立図書館(福井市下馬町)との協定も図り、サービス向上を目指す。

協定締結 県民誰でも利用可能

この日、県立図書館で開かれた調印式で中川英之(小浜市南川町)と福井大付属図書館長(写真左)は、地域との連携を強め、開かれた大学を目指していきなさい、桂屋修・県立図書館長は、今後、他立図書館は、福井大付属図書館が60万冊、県立図書館が98万冊、県立図書館はすでに95年から、県内の16の公共図書館(蔵書数計304万冊)とともに蔵書を貸し、相互に借ることができるようにしている。

今回の福井大付属図書館と県立図書館の協力協定で、全460万冊が検索の対象となる(同大付属図書館の蔵書を借りる際の窓口は、県立図書館が若狭図書館センター)。

また、福井大では9月28日から、学術誌に掲載された教職員の論文などを無料で一般公開する「福井大学学術開視ポイント」も開始。同大のホームページから検索が可能。

検索対象は全460万冊

この日、県立図書館で開かれた調印式で中川英之(小浜市南川町)と福井大付属図書館長(写真左)は、地域との連携を強め、開かれた大学を目指していきなさい、桂屋修・県立図書館長は、今後、他立図書館は、福井大付属図書館が60万冊、県立図書館が98万冊、県立図書館はすでに95年から、県内の16の公共図書館(蔵書数計304万冊)とともに蔵書を貸し、相互に借ることができるようにしている。

(朝日新聞 H19.10.5)

資料 2-2-12 図書館間相互貸借システムについて



(附属図書館ホームページ)

資料 2-2-13 平成 19 年度県内図書館との蔵書の相互貸借状況

(冊)

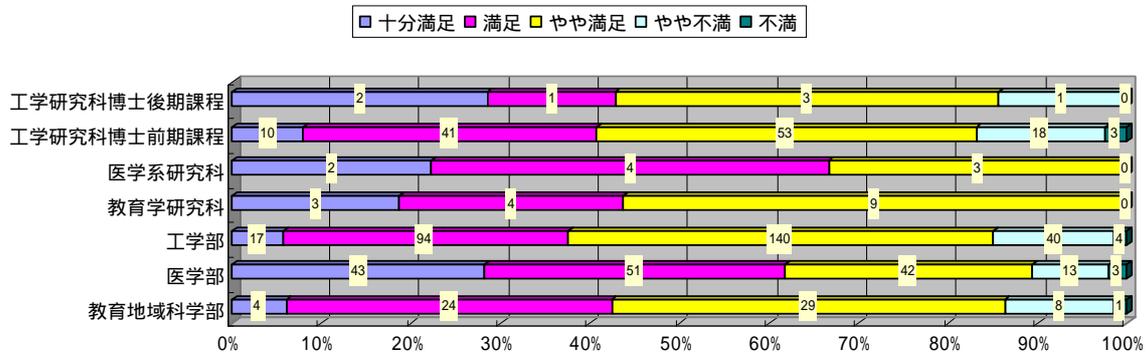
種別	館区分	館種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
借受	総合図書館	県立図書館	6	3	10	6	13	10	48
		市町立図書館	0	0	1	5	2	4	12
		小計	6	3	11	11	15	14	60
	医学図書館	県立図書館	4	8	4	10	2	1	29
		市町立図書館	0	0	0	0	2	0	2
		小計	4	8	4	10	4	1	31
合計			10	11	15	21	19	15	91
貸出	総合図書館	県立図書館	9	7	5	1	2	2	26
		若狭学習センター	8	3	0	1	5	1	18
		市町立図書館	0	6	9	12	16	4	47
		小計	17	16	14	14	23	7	91
	医学図書館	県立図書館	4	1	2	3	1	4	15
		若狭学習センター	3	0	0	1	0	0	4
		市町立図書館	0	0	6	3	0	5	14
		小計	7	1	8	7	1	9	33
合計			24	17	22	21	24	16	124

(「平成 19 年度県内公共図書館相互貸借統計」)

図書館の学習支援サービスは学生に概ね好評である。【資料 2-2-14】。

資料 2-2-14 図書館サービスに対する学生の満足度

【設問】図書館サービスについて、あなたはどの程度満足していますか。



(注) 数字は、回答者数を表す。

(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

計画 2-3 「情報リテラシー教育の施設・設備の充実を図る。」に係る状況

情報リテラシー教育の施設・設備を充実するため、財政的支援のもと、平成 18 年度より文京・松岡キャンパスともパソコンの更新や施設の改修等を行った【P11 資料 1-3-1, 2-3-1】。その結果、松岡キャンパスでは、一学年の学生全員が同時に情報端末を操作できるようになるとともに、医学科 4 年における Computer-Based Testing を一斉に受験することが可能となった。文京キャンパスでは、総合図書館の改修（平成 20 年度）に併せて、授業以外での学生のネットワーク利用環境を整備することとしている。学生は情報リテラシー教育の施設・設備に概ね満足している【資料 2-3-2】。

資料 2-3-1 松岡キャンパス設備の充実例

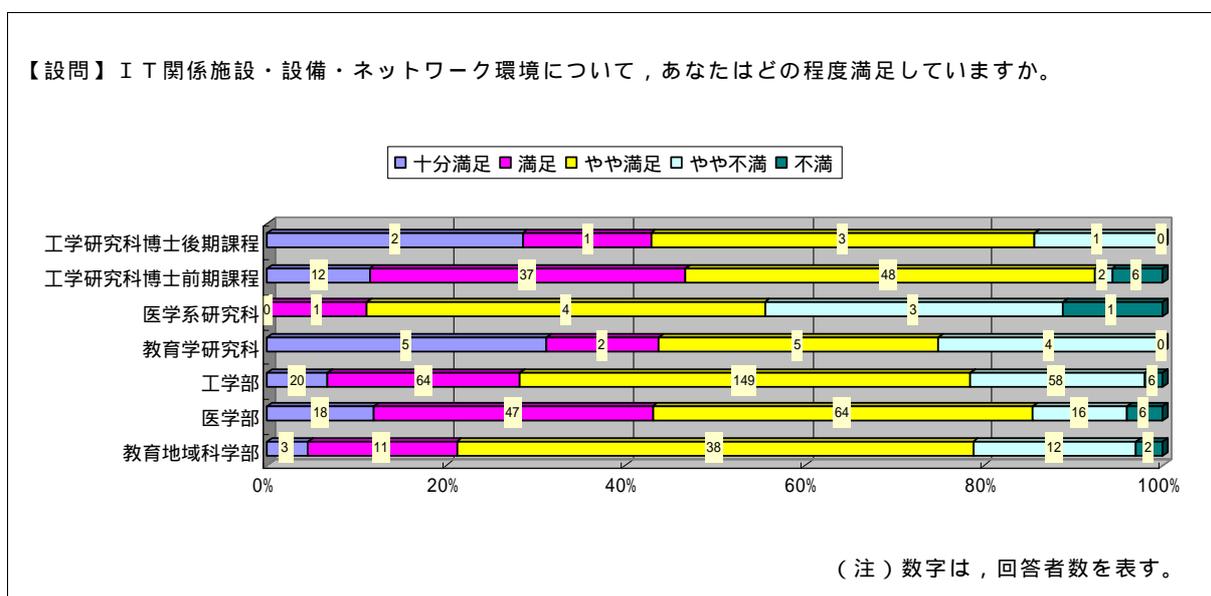
<p>情報処理演習室（医学科） 統計情報処理演習室（看護学科）</p>  <p>（平成 18 年度整備）</p>	<p>情報処理教育や学生の自主学習（課題レポート作成，文献検索など）などに利用 （情報処理演習室） デスクトップパソコン：105 台（更新），レーザープリンター，液晶プロジェクター，大型スクリーン，教育用ソフトなど</p> <p>（統計情報処理演習室） 学生用デスクトップ型パソコン：65 台（更新），レーザープリンター，液晶プロジェクター，大型スクリーン，教育用ソフトなど</p>
<p>組織病理実習室</p>  <p>（平成 18 年度整備）</p>	<p>組織・各臓器の構成，位置関係，原因と病態，病理学実習などに利用 1．ハイビジョンマルチモニタリングシステムによる組織・病理教育（双方向対話可能型顕微鏡画像配信・画像データ個人学習システム）</p> <p>ハイビジョンカラーカメラ，イメージファイリングシステム，液晶ペンタプレット P C，液晶ハイビジョンカラーテレビ，ビデオミキサー，液晶プロジェクター，大型スクリーンなど</p>

教育 3

中項目 3

教育の実施体制等「計画 2-3」

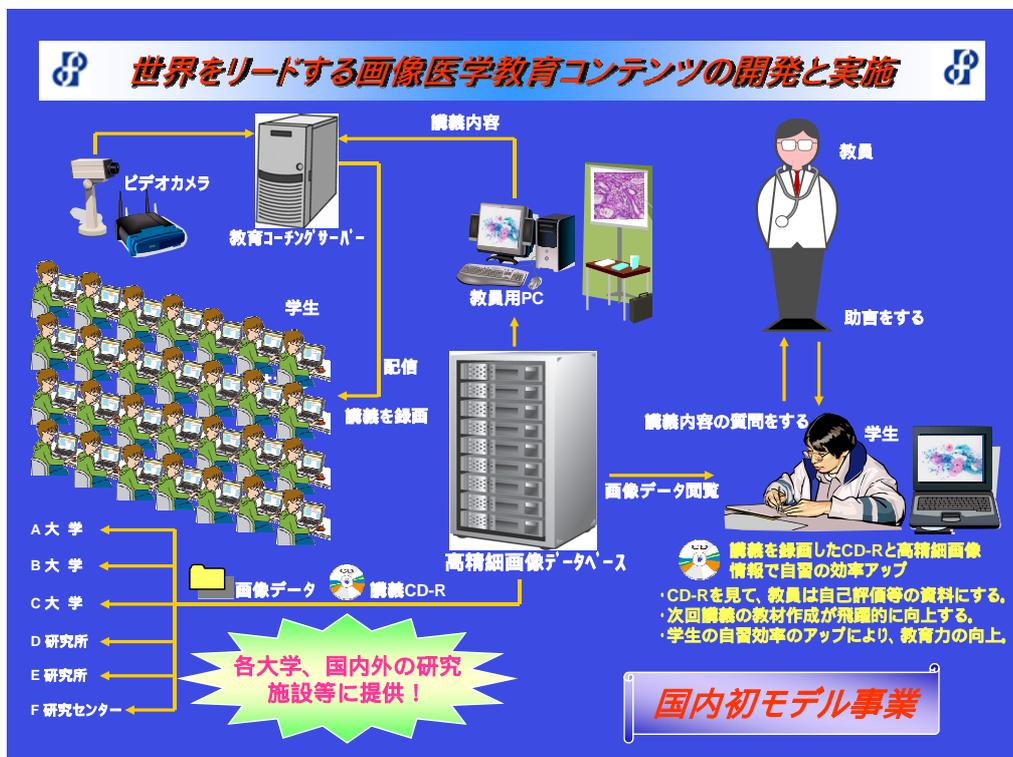
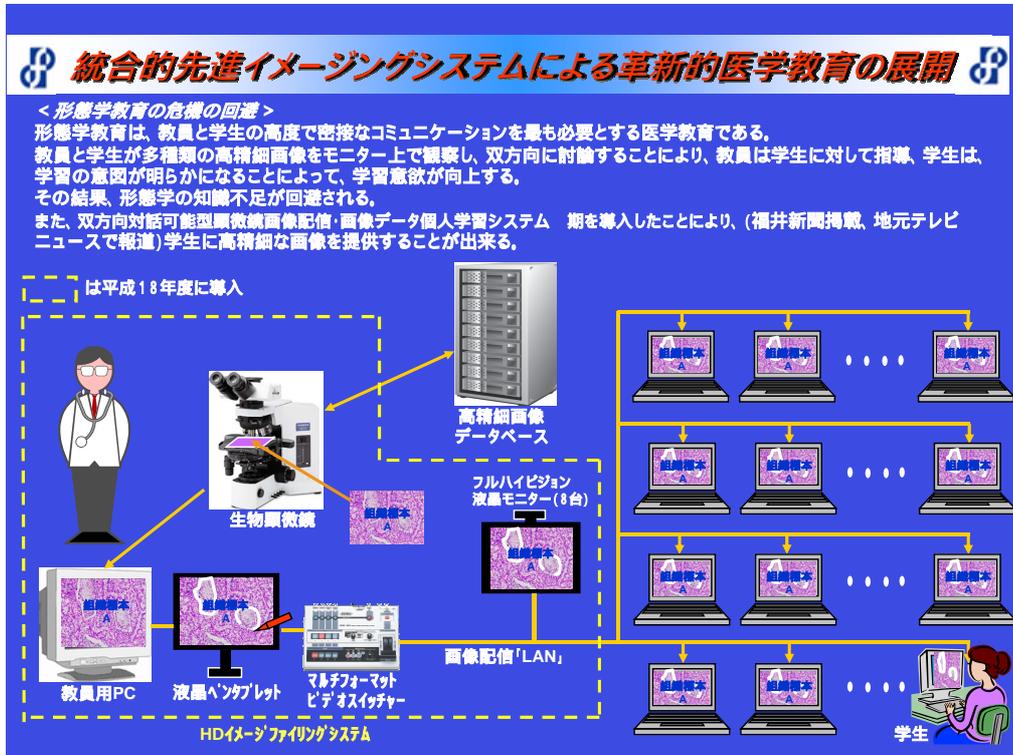
資料 2-3-2 情報リテラシー教育の施設・設備に対する学生の満足度



（平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査）

本学の自助努力により医学部組織病理実習室を整備し,平成 20 年度概算要求事業として予算化された「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラムを推進した【P193 資料 2-3-1, 2-3-3】。

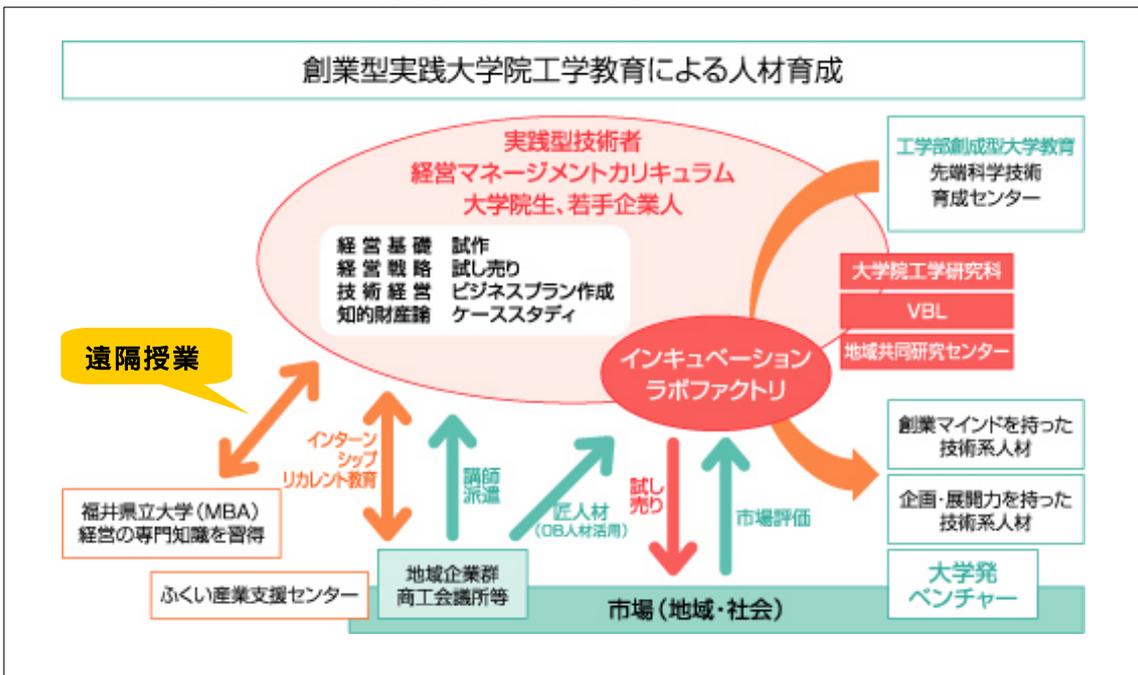
資料 2-3-3 「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラムの概要



計画 2-4 「学生・大学院生の教育環境の整備を図る。」に係る状況

授業の相互利用による単位互換を図るため、平成 16 年度より北陸地区 4 国立大学双方向遠隔授業支援システムを整備した【P149 資料 4-2-1】。さらに、大学院教育の履修科目数拡大のため、平成 19 年度に福井県立大学との技術者経営マネジメントに関わる大学院授業及び原子力教育大学ネットワークのための双方向遠隔授業システムを整備した【資料 2-4-1～3】。

資料 2-4-1 遠隔授業を含む実践的連携活動による人材育成



(福井大学ホームページ)

資料 2-4-2 遠隔講義開始を報じる新聞



(福井新聞 H19. 4 . 14)

教育 3
中項目 3
教育の実施体制等「計画 2-4」

資料 2-4-3 履修大学院生からのコメント

ネットワークを通じて離れた大学間で同時に授業を行うことが大学の新しい授業形態になっていくことが、今から楽しみに思います。
 東工大や金沢大学といった他大学の教授の授業が受けられることが嬉しく、今までの授業とは違う新鮮さを感じた。福井大学では行えない実験や授業内容を今後も期待したい。
 三大学間連携ネットワークの授業は、今までに無い授業形式で興味深く取り組みました。
 連携授業は講師側が学生側に一方的になりやすいと思っていたけど、回答を学生にスクリーンへ書かせたり、質問が他大学から頻繁にあることもあり、集中して授業に取り組むことが出来ました。
 去年の東海村の研修で、人形を使った線量実験をしました。そのような実体験があるので、理解しやすかったです。

(履修大学院生アンケート調査結果)

講義室をすべて冷房化し、また本学での予算措置及び積極的なG P獲得【P209 資料3-3-3】により、液晶プロジェクター等AV機器の整備を順次図っている。その結果、法人化後教育関連機器の整備が大幅に進んだ【資料2-4-4】。

資料 2-4-4 教室設備の整備状況

設備・備品等	教育地域科学部 講義室数		工学部・総合研究棟 講義室数		医学部・総合研究棟 講義室数		計	
	H15.4	H20.4	H15.4	H20.4	H15.4	H20.4	H15.4	H20.4
液晶プロジェクター	0	17	11	11	8	11	19	39
資料提示装置	1	1	14	15	10	10	25	26
OHP	0	0	4	4	5	0	9	4
VHS ビデオ装置	13	5	18	31	13	7	44	43
DVD ビデオ装置	0	6	0	0	0	1	0	7
DVD-VHS ビデオ装置	0	16	0	0	0	9	0	25
カセット装置	11	13	0	11	0	0	11	24
MD 装置	6	6	0	6	0	1	6	13
有線マイク	14	3	22	36	3	3	39	42
ワイヤレスマイク	0	6	0	0	11	11	11	17
固定机・椅子	14	11	16	30	7	7	37	48
移動机・椅子	8	14	12	20	8	8	28	42
手動スクリーン	20	12	20	40	7	4	47	56
電動スクリーン	0	7	7	7	6	10	13	24
講義室数	22	25	28	50	15	15	65	90

演習室，情報処理演習室，語学演習室等は除く。

(事務局資料)

チュートリアル教育やグループワーク等の様々な授業形態に対応できるインフラを整備した【資料 2-4-5】。

資料 2-4-5 授業形態に応じたインフラ整備

医学部における教室設備等の整備・活用状況

教室名	主な活用状況
 <p>(平成 17 年度整備)</p>	<p>授業科目：英語 1～4，医学英語 1～4（医学科） 英語 ～（看護学科）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーション教育（病室，病棟，検査室，外来，在宅医療などの現場を再現。） 2. 外国人や学生同士での英会話，グループコミュニケーションの練習 3. 英語によるチュートリアル教育（英語によるディスカッション，プレゼンテーション） 4. ラーニングセンターとしての活用（図書，DVD，ソフト等を整備） 5. 外国人模擬患者の導入し，英語でのコミュニケーション学習 <p>【主な設備】 無線 LAN ノートパソコン，液晶プロジェクター，大型スクリーン，DVD，医療書籍，医療用ベッド，医学教育シミュレーター，各種医療用具など</p>
 <p>(平成 18 年度整備)</p>	<p>授業科目：実用医学英語，基本的診療技能（医学科） 大学院セミナー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人模擬患者（SP）による英語での医療面接（インタビュー） 2. シミュレーション装置を利用した基本的診療技能を修得するための診断学実習 3. OSCE（客観的臨床能力試験）自習室 <p>【主な設備】 液晶プロジェクター，DVDプレーヤー，ストレッチャー，AEDリトリアルトレーニングシステム，採血静注シミュレータ，導尿トレーナー，前立腺触診トレーナー，注射シミュレーター，検眼・耳鏡セット，その他各種医療用具，テーブル付き椅子など</p>
 <p>(平成 14～19 年度整備)</p>	<p>授業科目：入門チュートリアル，チュートリアル 1，循環器系・消化器系・神経系チュートリアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チュートリアル教育（少人数グループ学習） 2. 診断学実習や OSCE の練習 3. 自主学習室（グループ学習など，学生の自主的学習に利用できるよう可能な限り便宜を図っている。） <p>【主な設備】 コピーボード，ビデオ付きテレビ，デスクトップ型パソコン，レーザープリンター，医学書籍など</p>

工学部における自習室の設置

 <p>(平成 19 年度整備)</p>	<p>学生のアンケートによる要望に基づき，学生が自由に利用し学生同士のコミュニケーションを深めるための場として設置。</p> <p>【主な設備】 机，椅子，エアコン，無線 LAN など （備品類は，工学部育成会（保護者による学生支援団体）からの寄付による）</p>
---	--

(事務局資料)

学生の要望を定期的に聴取し、講義室の椅子の更新や自習室の確保など改善を適宜図っている【資料 2-4-6】。学生は教育環境に概ね満足している【資料 2-4-7】。

資料 2-4-6 学生からの要望に基づく改善例

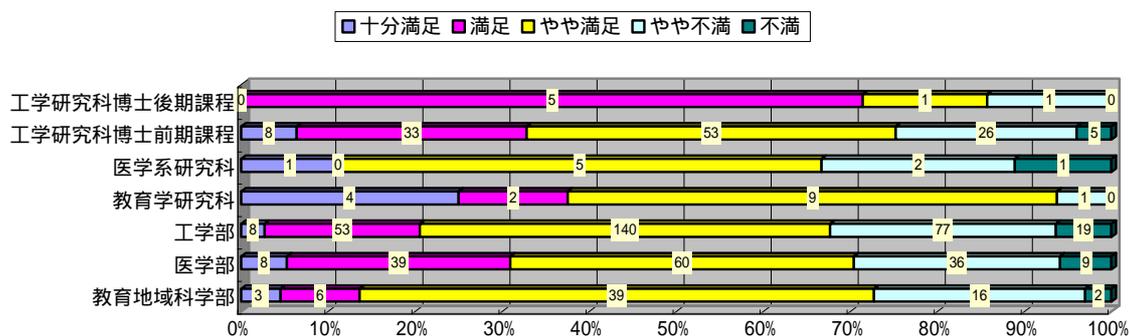
任意の学生 339 名から約 480 件の意見を聴取。その内、予算が必要な事項に対しては、別途予算措置（39,017 千円）する等対応。

- （要 望）講義室の机がガタガタする，椅子が硬い，冷たい。
（対応策）キャスター付長机，布座椅子に更新した。
- （要 望）教育地域科学部の建物が古い。
（対応策）共用講義棟を耐震改修した。
- （要 望）教育地域科学部のトイレが古い。
（対応策）教育地域科学部 3 号館のトイレを改修した。
- （要 望）教育地域科学部 3 号館の照明が暗い。
（対応策）照明不足のところは改修した。
- （要 望）情報処理演習室のパソコンが台数が少ない。
（対応策）情報処理演習室の拡張工事，パソコンの設置台数を医学科 70 台 105 台，看護学科 60 台 65 台に増設した。
- （要 望）医学図書館の利用時間を延長してほしい。
（対応策）医学図書館を 24 時間利用できるようにした。
- （要 望）医学図書館の利用者が満杯なので試験勉強できる自習室がほしい。
（対応策）テュートリアル室，演習室（16 室）の貸し出し，講義室の時間外解放を行っている。
- （要 望）大講義室の空調（冷房・暖房）の温度調整ができない。
（対応策）合併講義室に空気の循環がよくなる装置を設置し，改善を行った。

（事務局資料）

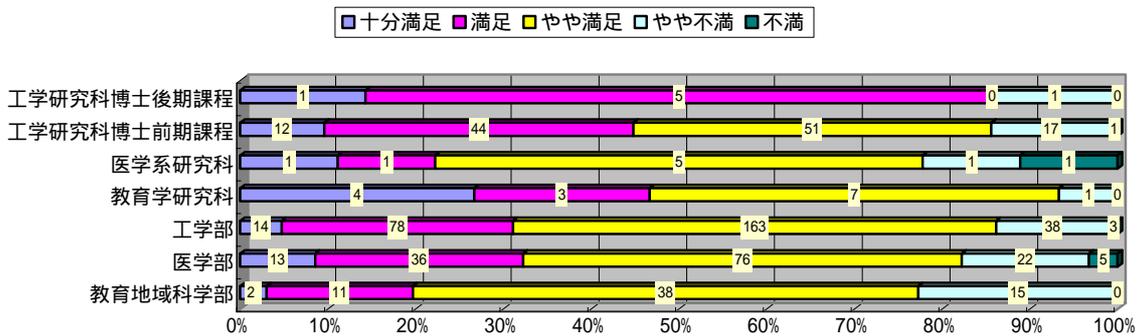
資料 2-4-7 教育環境に対する学生の満足度

【設問】教室の机・椅子について，あなたはどの程度満足していますか。

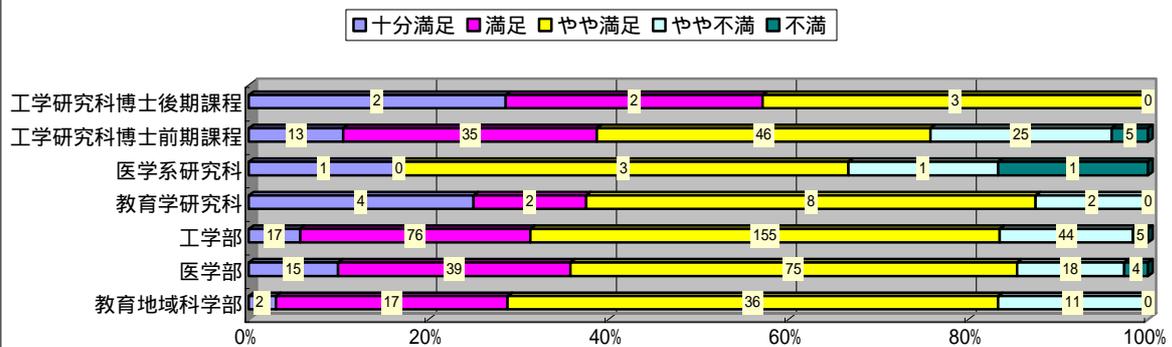


（注）数字は，回答者数を表す。

【設問】教室の設備（A V，プロジェクタ等）について，あなたはどの程度満足していますか。



【設問】実験室・実習室・演習室などの広さや設備について，あなたはどの程度満足していますか。



(注) 数字は，回答者数を表す。

(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 教育環境の整備に対応するメディアコモン構想が結実し、その一環として学術情報発信のための「福井大学学術機関リポジトリ」の運用が具体化された。
2. 蔵書の充実や県立図書館との相互貸借体制の整備などによる資料の整備促進、時間外開館の実施などによって附属図書館の学習支援体制が強化された。これら学生支援サービスに対する学生の評価は良好である。
3. 北陸地区国立4大学双方向遠隔授業支援システムや情報ネットワークの整備、情報リテラシー教育施設の整備や学生の視点も考慮した講義室等の学習環境の改善を推進し、学生・大学院生が概ね満足する教育環境が整備された。

小項目3「教育の質を向上させるために、教員個々人の教育業績及び共同の教育プログラムを評価するシステムを整備する。また、あらゆる教職員に対して職能向上の研修機会を提供し、その成果が実践に役立つ手段を講ずる。」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画 3-1「教員個々人の教育上の取り組みを評価し、それをフィードバックするシステムを構築する。」に係る状況

平成 16 年度に全学評価委員会を設置する等、全学的評価体制を確立した【資料 3-1-1】。当該委員会では平成 17 年度に「教員の個人評価基準」を策定した【P202 資料 3-1-2】。

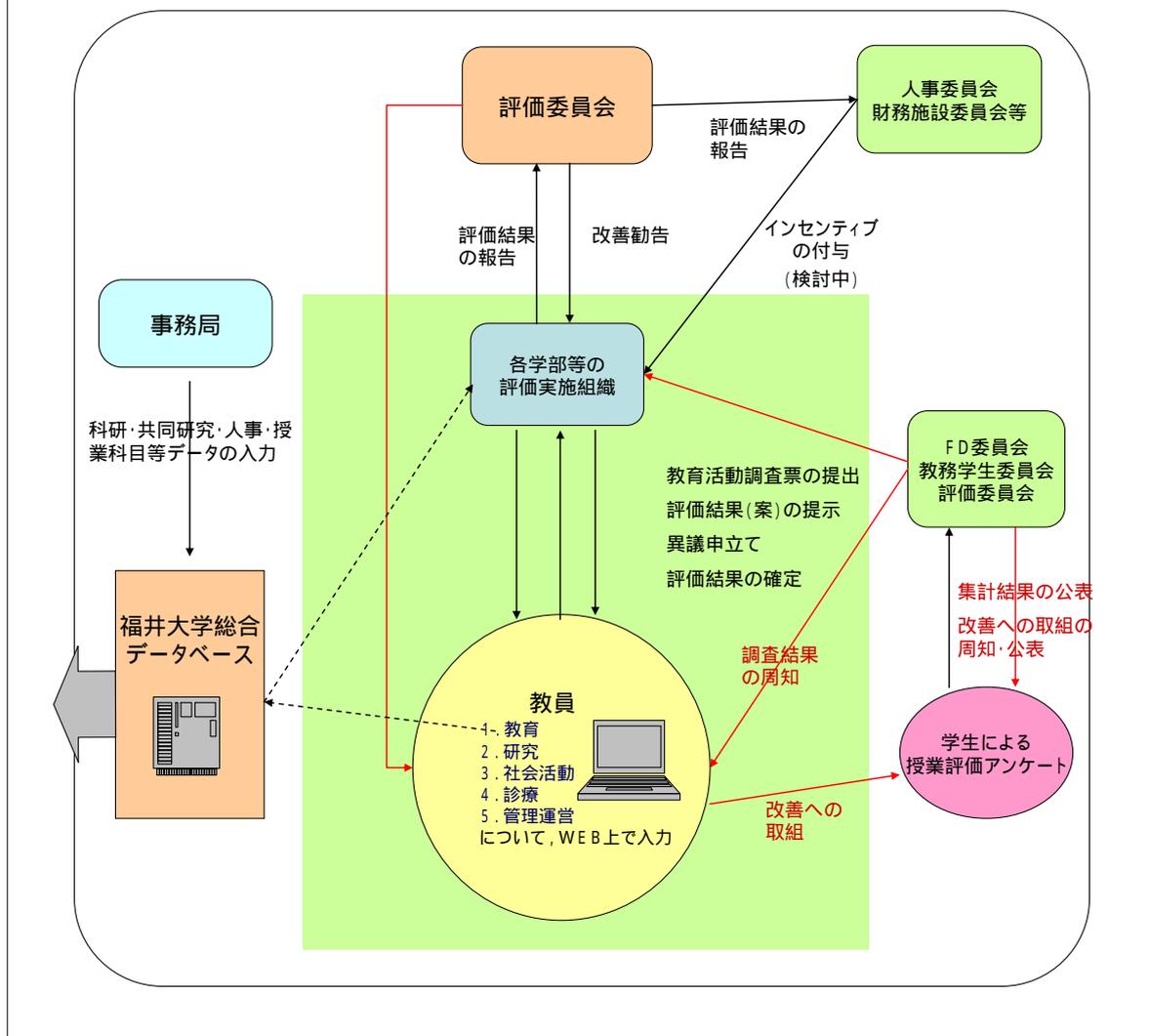
資料 3-1-1 教員個人評価に係る全学的評価体制図

平成 17 年度に評価委員会において全学的な個人評価基準を策定し、これに基づき各学部において、各分野の特性に応じた評価基準を作成した。平成 18 年度の試行評価を経て、平成 19 年度には全教員を対象とする個人評価を実施した。

評価に当たっては、「福井大学総合データベースシステム」により学内の各データベースを統合し、各教員・担当課が登録する各種データを評価資料として抽出できる体制を構築しており、先進的な取組として各大学からも注目されている。

評価結果は、各教員へフィードバックし、評価点の低い教員に対して個人面談を実施するなど、教育研究の質の向上への取組を推進している。

福井大学における教員個人評価 イメージ



(事務局資料)

平成 17 年 7 月 11 日
 評価委員会決定
 平成 19 年 3 月 22 日
 一部改正

教員の個人評価基準

1. 個人評価の目的

教員の教育・研究・社会貢献等諸活動の活性化を図るとともに、活動内容の社会への説明責任を果たすことを目的とする。

2. 個人データ及び評価結果の取り扱い

- ・ 個人データのうち活動実績等については、原則として公表する。ただし、公表に係る具体的な方法については、評価委員会が別に定める。
- ・ 個人の評価結果は、原則として被評価者のみに通知する。ただし、学部長及び附属病院長に通知するかどうかは各学部の判断による。
- ・ 個人評価結果による教員の序列化及び学部間の比較は行わない。
- ・ 評価結果の特に優れた教員に対し、顕彰制度等を導入する。
- ・ 評価結果については、全学的に集計を行い、大学運営の改善に役立てる基礎データとして活用する。
- ・ 全学的に集計を行った評価結果については、原則として公表する。ただし、公表に係る具体的な方法については、評価委員会が別に定める。

3. 評価実施体制

- ・ 各学部に評価実施のための組織を置く（センター所属の教員については別途取り扱う）。
- ・ 評価対象者は、教授・准教授・講師・助教、助手の全教員とする。
- ・ 評価は、3年毎に実施する。
- ・ 教員の活動実績等の個人データの輸入は、各教員自身で行うこととし、前年4月から3月までのデータを9月までに入力する。

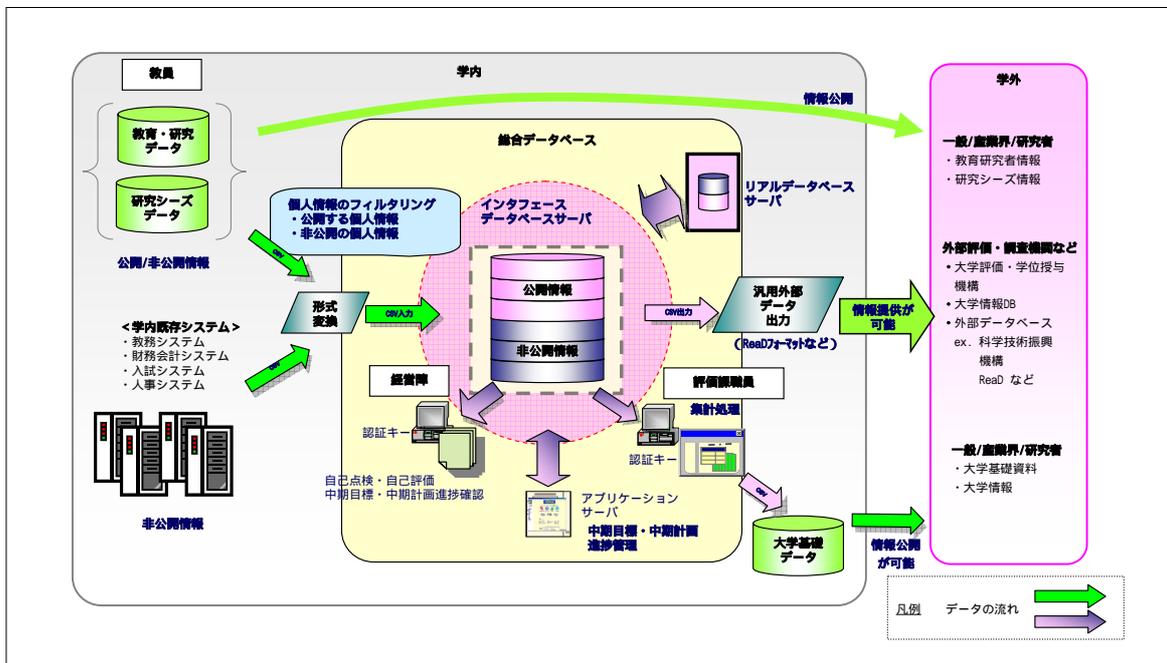
4. 評価方法

- ・ 原則として、教育活動 研究活動 社会貢献・国際交流活動 管理運営活動の4領域で実績に基づいた評価を行うものとする。
 ただし、医学部においては、特定活動として 診療活動を加えた5領域で評価を行うものとする。
- ・ 各領域の評価を点数化する。
- ・ 各領域の評価項目については、学生評価・同僚評価等の取り扱いを含め、各学部評価実施組織に一任する。
- ・ 4領域又は5領域を問わず評価点の合計は、上限を100点とする。ただし、各領域ごとの点数配分等、具体的な実施方法については各学部等の定めるところによる。

(事務局資料)

評価に関わる基礎資料の全学的管理のため、教員の教育への寄与、研究業績、管理・運営への寄与、社会貢献などのデータを収集管理する「福井大学総合データベースシステム」の運用を平成18年度より開始した【資料3-1-3~4】。

資料 3-1-3 福井大学総合データベースシステム



(事務局資料)

資料 3-1-4 福井大学総合データベースシステム内の教育に関するデータベース項目

項目	説明
担当授業	本学の学生に対する担当授業の状況を登録します。
授業外教育活動	本学の学生に対する、授業外学習指導、課外活動、FDに関する活動等を登録します。
研究指導	研究指導の実施状況を登録します。
学位審査数	主査及び副査として、学位論文を審査した数を登録します。
学外教育活動	非常勤講師、公開講座、学校医及び高大連携等に関する活動を登録します。
論文等	教育に関する学術原著論文、学際会議論文、資料解説、総論・レビュー等を登録します。
著書	教育に関する著書、教科書及び proceedings 等を登録します。
芸術作品・技術製品等	教育に関する技術製品、芸術作品、教材開発、教育プログラム、公開レッスン等を登録します。
学会発表	教育に関する学会発表題名、学会名等を登録します。
学会の開催・参加	教育に関する学会等の開催、座長、パネリスト等の活動を登録します。
受賞	教育に関する学術的な業績・功績に対して、国、地方公共団体及び学協会等により授与された賞を登録します。
学内競争的資金	教育に関する学部長裁量経費及び競争的配分経費等の採択状況を登録します。
教育活動におけるその他業績登録	教育活動における上記分類以外の活動を登録します。
教育活動における自由記述・特記事項	教育活動における自由記述及び特記事項を登録します。

(事務局資料)

教育上の取組や学生の授業評価に対する対応を含めた自己評価書等をもとに、平成19年度に教員の個人評価を学部ごとに実施した【資料3-1-5】。

資料 3-1-5 教員個人評価の実施状況

学部等	評価項目	実施期間	実施教員数
教育地域科学部	教育, 研究, 社会貢献・国際交流, 管理運営	9月～10月	87名
医学部	教育, 研究, 社会貢献・国際交流, 管理運営, 診療活動	1月～2月	212名
工学研究科	教育, 研究, 社会貢献・国際交流, 管理運営	9月～11月	160名

診療に携わる該当教員を対象とする。

・評価結果は、各教員にフィードバックし教育研究等の質の向上に活用している。

(事務局資料)

教育への取組を含めた評価結果は教員の昇給の根拠資料としても活用されており、教員のインセンティブの向上を図っている【資料3-1-6】。

資料 3-1-6 昇給に関する申し合わせ(抜粋)

昇給基準による評価の手順

定められた期限までに、上記の条項を満たす者に、資格者であることを通知する。

資格者は、指定された期限までに、当該期間における教育・研究・社会貢献(国際交流を含む)・管理運営等の自己点検・評価書(様式A4 1枚)を提出し、昇給を申請する。様式は研究科長が作成する。

研究科長は提出された自己点検・評価書により、申請者の教育・研究・社会貢献(国際交流を含む)・管理運営等の業績評価をおこなう。

A 昇給該当の場合の公表について

昇給基準による場合は、名前を伏して本人の申請書を公表する。

研究科長裁量による場合は、研究科長が本人にそのことを伝え、被評価者の名前を伏して、該当理由を公表する。

いずれの場合も、被評価者の名前が推定できる場合がありうる。

(工学研究科第二教授会資料「昇給に関する申し合わせ」)

計画 3-2 「講義の公開，講義ビデオの作成などを通して，教育の質の向上に資する。」に係る状況

医学部や工学部では，公開授業等を通じて教員の教育方法改善が図られている。特に，医学部の公開授業は学生による授業評価で評価の高い教員の授業を公開するもので，学生評価をフィードバックするものである【資料 3-2-1】。

資料 3-2-1 公開講義の実施と適切なフィードバック

目的：学生により授業評価で「優れている」と高く評価された講義を教員に広く公開し、優秀教員の行っている教授法を参考にして、もって教員の教育法の向上を図る。これは学生による評価を教員にフィードバックする一環として実施される。

対象授業：学生による授業評価に基づき、総得点の高いものから上位 10～20%以内の授業

公開講義実施状況（平成19年度より実施）

実施年度	学科	公開講義実施コマ数			参加教員数
		教養・準備教育	基礎医学系	臨床医学系	
平成19年度	医学科	7コマ	基礎医学系	10コマ	延べ50名
	看護学科		専門教育	6コマ	

公開講義の一例

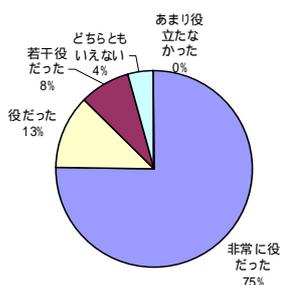
平成18年度「学生による授業評価アンケート」評価上位教員による公開授業について(後期分)

標記のことについて、ご協力いただける授業の公開は下記のとおりです。参観された教員方からは講義の導入法、学生を引きつける方法や、教材の工夫等大変参考になったと好評です。是非、多数の若手教員方の参観をお待ちしております。参観ご希望の方は、下記まで随時お申し込み下さい。（__学生の通常授業の参観となりますので、教室の関係上人数に制限があります。資料の準備もありますので、必ず事前に学務室までご連絡いたします。）

	教員名	授業科目・講義室	日 程			コメント
基礎系	飯野 哲 (人体解剖学・神経科学)	人体解剖学1 (第2中講義室)	9月25日(火)3限目	9月25日(火)4限目	9月26日(水)2限目	医学科2年生対象 後期科目のため日程の変更有り
	佐藤 真 (組織細胞形態学・神経科学)	人体解剖学2 (第2中講義室)	1月9日(水)3限目	1月10日(木)3限目	1月11日(金)3限目	医学科2年生対象 人数制限有り
臨床系	伊藤 春海 (副学長)	7D「リストコ-111 (画像診断-基礎から応用へ) (合併講義室)	12月11日(火)1限目	12月11日(火)2限目	12月12日(水)1限目	医学科4年生対象 3回の一連の内容ですが、一回毎にバージョンアップしていきます。いつ来られてもよろしいです。
	宇随 弘泰 (内科学(1))	循環器系 (第3中講義室)	10月2日(火)2限目	10月3日(水)5限目		医学科3年生対象
	大嶋 勇成 (小児科学)	免疫と生体防御 (第2中講義室)	11月7日(水)1限目	10月24日(水)1限目		医学科2年生対象
	片山 寛次 (外科学(1))	基本的診療知識 (合併講義室)	11月2日(金)3限目	11月2日(金)4限目	11月8日(木)2限目	医学科4年生対象 11/8(金)変更予定
	栗山 勝 (内科学(2))	臨床実習0-1771 (病棟5FカカリルM-A)	8月31日(金) (14:00-17:00)	9月21日(金) (14:00-17:00)	10月5日(金) (14:00-17:00)	4年生対象の神経内科の講義は4～5月に終了したため、5年生対象の臨床実習中にロールプレイ実習を行っているものを公開いたします。

公開講義の適切なフィードバック

設問 当該公開授業は先生の講義方法の向上に役立ちましたか？



	回答者数
非常に役立った	18
役立った	3
若干役立った	2
どちらともいえない	1
あまり役立たなかった	0
合計	24

公開講義により向上した教育方法等改善への意欲（アンケートより一部抜粋）

- ・以下の点が大いに参考になりました。

学生に理解させるための時間を持たせるように余裕を持った授業の進め方

多くのことを教えず、ポイントを絞って教示する授業の立て方

「演習」を取り入れ、学生の参加を促す授業の形態

書き込みができる配布資料の作成法

- ・授業の基本に忠実で、教育に熱意があり、時間をかけて講義の準備をしていることがわかった。
- ・わかりやすい講義プリントの作製、質問に対する丁寧な応答など準備に十分時間をかけ理解の向上に努めている姿勢に感銘を受けました。
- ・1．講義内容や疾患・病態の全体像や全体のイメージを持たせていること。2．講義の説明が丁寧で、ビニール袋やナツメグを用意して分かりやすく説明されていること。3．特に重要なポイントを強調していること。4．OHPを用いて書き込みを行い、適度な「間」をとって、学生の理解をはかっていること。等、講義に対して十分に準備されており、洗練された講義と感じました。これらのことは、私にとりまして、今後の講義方法の向上に役立つと思いました。
- ・次の点が参考になった。

1) 授業の展開

- ・ 授業の目的を最初（導入部分）に明確に示し、学生の motivation を up させている。
- ・ 適宜、学生に質問し、教員・学生との間の相互作用が行われている。
- ・ 重要な point は何度も repeat して強調しているのが大変良かった。

2) 教材の使い方

- ・ power point, OHP, 配布資料が豊富である。
特に OHP に hand で記載して説明する方法が学生の集中力を高めている。
- ・ 息抜きの工夫
- ・ 本日の授業の目標が最初に明確に提示され、何を学ぶのか伝えることは大切と再確認できた。
- ・ 講義前に今回の内容・目的を明確に説明されていて、講義に参加しやすかったです。非常に丁寧に話をされていて、ポイントや強調する部分の声のトーンもわかりやすく聴きやすかったです。また、具体例も印象的であり、考えさせられる内容でした。一つ一つを丁寧に説明したいとは思っていても、なかなか私はできていませんでしたが、今回の講義を聴けて、方法を勉強できました。
- ・ 公開授業の評価ではなく、あくまでも卓越した授業方法の公開を目的とする。
- ・ このような公開授業（講義）は、新たな基準（スタンダード・目標）をもつことができ、大変参考になりました。
- ・ 公開授業の授業数（科目数）を増やしていただくと、多くの教員が参加できると思います。
- ・ 実施日・実施内容を学期開始頃にあらかじめアナウンスしていただくと、参加できる日の予定が組みやすいと思う。

（資料「平成19年度受講教員による公開講義に対するアンケート調査結果」より抜粋）

（医学部現況調査表）

教育地域科学部では、特色 G P の事業として、教育実践研究や探求ネットワークの活動のビデオ収録・編集が行われ、教育改善に有効に利用されている。【資料 3-2-2】。

資料 3-2-2 講義ビデオ

平成 18 年度の教育実践研究（主免実習）（20 分と 40 分各 1 本）と探求ネットの記録（1 本）を DVD 化し、平成 19、20 年度に関係する講義で利用している。



【教育実習 学習ビデオ】

内容：学生の主免教育実習の様子（附属小・中学校）を撮影・編集した（約 25 分）。

利用：「教育実践研究」の授業で 1～3 年の学生が教育実習の流れを学習する。

【探求ネットワーク 学習ビデオ】

内容：探求ネットワーク各グループの活動など（約 20 分）。

利用：「総合学習研究」「学習過程研究」の授業で事前学習用として活用。

（事務局資料）

共通教育センターによって実施されている生涯学習市民開放プログラムにおいて、一般市民からの意見聴取結果をフィードバックし、教員は講義方法などを改善している。

【P6 資料 1-1-9～11】

計画 3-3 「教員の教育方法の充実並びに教育方法改善のための財政的措置を検討する。」に係る状況

教員の教育方法の充実並びに教育方法改善を推進する財政的措置として、平成 16 年度より競争的配分経費として「教育に関する評価経費」を創設し、学内公募により優れた教育活動に対し、財政的な措置を行った【資料 3-3-1～2】。

資料 3-3-1 平成 19 年度競争的配分経費（教育に関する評価経費）

当該経費は、教育活動に関する更なる競争的環境の創出・推進を図ることを目的とするものであり、本学の中期目標・中期計画に添った課題等の公募により、教育に関する諸努力・業績を評価し、各教員へ経費を配分している。年度末には、各教員に事業報告書の提出を義務付け、研究成果を学内電子掲示板（vDESK）で公開している。

平成 19 年度競争的配分経費（教育評価に基づく配分経費）配分一覧（抜粋）

応募分野	所属部局	役職名	代表者氏名	研究課題
6	教育地域科学部	教授	中根 貞幸	英語教育サブコース英語力増強合宿プロジェクト
4	生命科学複合研究教育センター	センター長	佐藤 真	生命科学複合研究センター所属他学部教員による工学研究科での教育交流推進
5	医学部	教授	上野 栄一	看護学科学士課程のカリキュラム改革の評価と評価後の授業改善の取り組み
5	留学生センター	准教授	桑原 陽子	初級日本語学習者向けかな教材の作成
1・6	工学研究科	准教授	水野 和子	Green Leaves Project：教員が推薦する図書を軸として展開する、学ぶ意欲を实らす大作戦
他 21 件				

（応募分野）

- G P 申請準備推進費
 - ・次年度以降の G P 申請のための準備（プロジェクト）経費補助
 - ・ G P 採択又は申請プロジェクトへの経費補助
- 双方向遠隔地教育システム活用推進経費
 - ・コンテンツ開発（又は準備）支援
 - ・システム運用にかかるソフト等の開発・作成支援
- キャリア教育・入試改善推進費
 - ・キャリア教育準備経費補助
 - ・入試改善のための調査・研究経費補助
- 学部間授業交流推進費
 - ・学部を超えた出講のための教材作成等補助
- 教科書等作成推進費
 - ・本学独自のテキスト（実験マニュアル等を含む）の作成支援
- その他
 - ・本学の教育環境・内容・方法等の改善に資する取組への支援

（事務局資料）

資料 3-3-2 競争的配分経費（教育に関する評価経費）選定状況

	応募状況		選定結果	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
平成 16 年度	35 件	38,704	15 件	8,500
平成 17 年度	24 件	19,199	21 件	8,500
平成 18 年度	32 件	27,019	24 件	9,500
平成 19 年度	26 件	20,578	26 件	9,500

（事務局資料）

G P等の教育推進経費，教育改善推進経費の積極的な申請を奨励し，多数のプログラムが採択された。これらの補助金によって，教育の改善が進められている【資料 3-3-3~4】。なお，本学のG P等採択率は，国立の総合的な大学の中で第3位であり，本学の取組が高く評価された証左である【P211 資料 3-3-5】。

資料 3-3-3 G P等の採択状況

特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 15～18 年度	松木 健一（教育）	地域と協働する実践的教員養成プロジェクト
平成 17～20 年度	鈴木 敏男（共通教育）	より高い現代的な教養教育をめざして
現代的ニーズ取組支援プログラム（現代G P）		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 16～19 年度	内木 宏延（医）	医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育
平成 17～19 年度	野嶋 慎二（工学）	地域教育活動の場の持続的形成プログラム
大学・大学院における教員養成推進プログラム		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 17～18 年度	寺岡 英男（教育）	学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院
地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 17～19 年度	寺澤 秀一（医）	「救急に強い僻地診療専門医及び専門看護師」養成コース
派遣型高度人材育成共同プラン		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 18～22 年度	高橋 謙三（工学）	地域産業との連携による派遣型高度人材育成
大学院教育改革支援プログラム		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 19～21 年度	鈴木 敏男（工学）	学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育
社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 19～21 年度	岩田 浩子（医学）	潜在看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力獲得プログラム
がんプロフェッショナル養成プラン		
年度	プロジェクト教員	プロジェクト名
平成 19～23 年度	共同申請（金沢大，富山大，福井大，金沢医科大，石川県立看護大）	北陸がんプロフェッショナル養成プログラム ICTによる融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築

(事務局資料)

資料 3-3-4 特別教育研究経費採択一覧（教育関連抜粋）

年度	区 分	事 項	備 考
17	連携融合	(工学) 地域研究機関との連携による原子力・エネルギー安全教育研究	H17～H19(3年)
	連携融合	(工学) 創成型工学教育システムの開発と地域先端技術教育拠点の形成	H17(1年)
	特別支援事業	国費留学生経費	
	特別支援事業	障害学生学習支援等経費	
18	連携融合	(工学) 地域研究機関との連携による原子力・エネルギー安全教育研究	H17～H19(3年)
	教育改革	(工学) 創業型実践大学院工学研究教育による人材育成 - 製品開発とビジネスプランの実践を通じた人材育成 -	H18～H20(3年)
	特別支援事業	教育研究活動活性化経費	
	特別支援事業	国費留学生経費	
	特別支援事業	障害学生学習支援等経費	
19	教育改革	(工学) 創業型実践大学院工学研究教育による人材育成 - 製品開発とビジネスプランの実践を通じた人材育成 -	H18～H20(3年)
	連携融合	(工学) 地域研究機関との連携による原子力・エネルギー安全教育研究	H17～H19(3年)
	特別支援事業	教育研究活動活性化経費	
	特別支援事業	国費留学生経費	
	特別支援事業	障害学生学習支援等経費	
	再チャレンジ支援経費	主婦が活躍し特別支援教育が充実する学校づくり支援プログラム	
	再チャレンジ支援経費	医療・社会福祉・保健分野に女性の力を生かせる支援プログラム	

(事務局資料)

資料 3-3-5 文部科学省大学教育改革支援プログラムの教員当たり採択率（国立の総合的な大学）

順位	大学名	採択件数 (H15～19)	教員数	件数/教員数 (指標 100)
1	お茶の水女子大学	7	240	2.917
2	横浜国立大学	16	731	2.189
3	福井大学	9	548	1.642
4	群馬大学	12	732	1.639
5	滋賀大学	5	311	1.608
6	熊本大学	15	1012	1.482
7	千葉大学	20	1353	1.478
8	埼玉大学	7	476	1.471
9	信州大学	16	1128	1.418
10	大阪大学	31	2546	1.218
11	筑波大学	25	2191	1.141
12	名古屋大学	21	1865	1.126
13	徳島大学	10	897	1.115
14	長崎大学	11	997	1.103
15	山口大学	10	907	1.103
16	九州大学	23	2338	0.984
17	北海道大学	21	2144	0.979
18	広島大学	18	1847	0.975
19	岩手大学	5	514	0.973
20	岡山大学	14	1443	0.970
21	島根大学	7	735	0.952
22	富山大学	9	965	0.933
23	神戸大学	26	2907	0.894
24	東北大学	23	2653	0.867
25	岐阜大学	7	825	0.848

地方大学では
第1位！

1) 対象としたプログラムは、下記のとおりである。

(福井大学事務局調べ)

- ・ 特色ある大学教育支援プログラム
- ・ 現代的教育ニーズ取組支援プログラム
- ・ 大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援【研究】を除く。）
- ・ 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム
- ・ 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
- ・ 大学・大学院における教員養成推進プログラム
- ・ 資質の高い教員養成推進プログラム
- ・ 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
- ・ 大学院教育改革支援プログラム
- ・ 専門職大学院等教育推進プログラム
- ・ 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム
- ・ 派遣型高度人材育成協同プラン
- ・ 先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム
- ・ ものづくり技術者育成支援事業
- ・ サービス・イノベーション人材育成推進プログラム

2) 上記の「国立の総合的な大学」とは、理工系大学 13 校（室蘭工，帯広畜産，北見工，東京農工，東京工業，東京海洋，電気通信，長岡技科，名古屋工，豊橋技科，京都工織，九州工，鹿屋体），文化系大学 8 校（小樽商科，福島，筑波技術，東京外，東京芸術，一橋，滋賀，大阪外），医学系大学 4 校（旭川医，東京医歯，浜松医，滋賀医），教育系大学 11 校（北海道教，宮城教，東京学芸，上越教，愛知教，京都教，大阪教，兵庫教，奈良教，鳴門教，福岡教），大学院大学 4 校（政策研究，総合研究，北陸先端，奈良先端）を除く計 47 大学を指す。

3) 「教員数」は、「平成 18 事業年度における業務の実績報告書」から抽出している。

計画 3-4 「教育目標の達成度について、卒業生を対象にした評価方法を検討する。」に係る状況

卒業生を対象とした教育目標の達成度に関する評価方法を検討する全学的な体制を整備した【資料 3-4-1~2】。

資料 3-4-1 全学教務学生委員会によるアンケート調査内容例

全学教務学生委員会が中心となって、学生が卒業・修了にあたって、福井大学の教育・研究に対してどのような意識や満足感をもっているかを調査し、今後の教育・研究環境の改善のための基礎資料とすることを目的とし、「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」を平成 19 年度に実施した。今後も継続的に調査を実施することとしている。

4. 自己分析

あなたは福井大学で学習や研究をすることによって以下に示す力がどの程度身についたと思いますか。

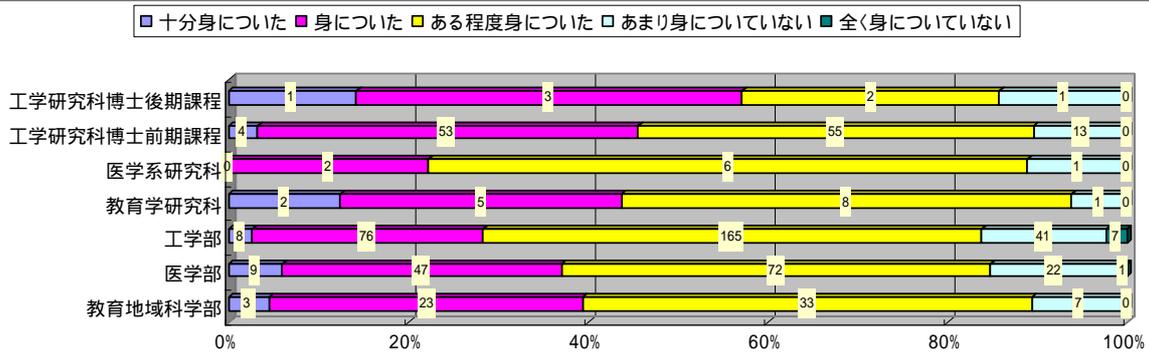
<回答> 5 十分身についた 4 身についた 3 ある程度身についた 2 あまり身につけていない
1 全く身につけていない

4 - 1 一般常識	5	4	3	2	1
4 - 2 基礎学力	5	4	3	2	1
4 - 3 専門知識や技術	5	4	3	2	1
4 - 4 実践的な能力	5	4	3	2	1
4 - 5 広い視野で物事を多面的に考える力	5	4	3	2	1
4 - 6 論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力	5	4	3	2	1
4 - 7 問題のポイントを素早く押さえ、まとめる力	5	4	3	2	1
4 - 8 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	5	4	3	2	1
4 - 9 事実や他者に対する誠実さ	5	4	3	2	1
4 - 10 日常的にコミュニケーションをする力	5	4	3	2	1
4 - 11 外国語でコミュニケーションをする力	5	4	3	2	1
4 - 12 プレゼンテーションをする力	5	4	3	2	1
4 - 13 ディスカッションやディベートをする力	5	4	3	2	1
4 - 14 文章作成や文章表現の力	5	4	3	2	1
4 - 15 情報を収集して適切に利用する力	5	4	3	2	1
4 - 16 情報機器を活用する力	5	4	3	2	1
4 - 17 社会や技術の変化に対応する力	5	4	3	2	1
4 - 18 ねばり強く仕事に取り組む力	5	4	3	2	1
4 - 19 他の学生と協調する力	5	4	3	2	1

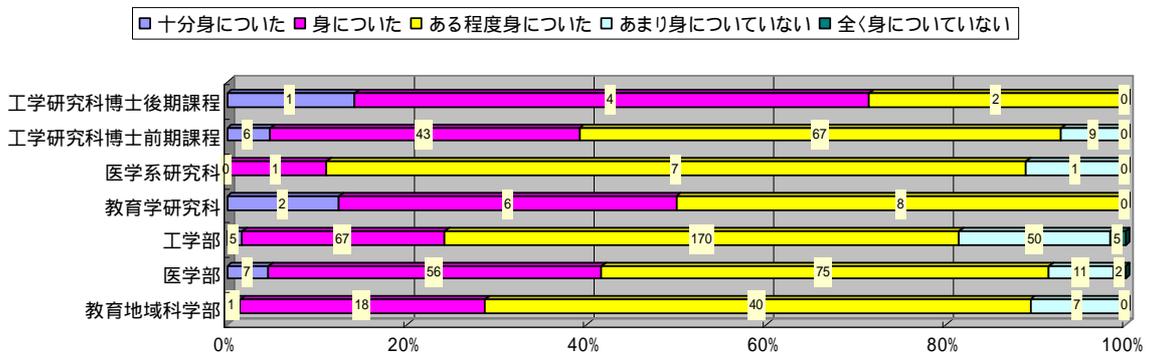
(「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」より一部抜粋)

資料 3-4-2 全学教務学生委員会によるアンケート調査例

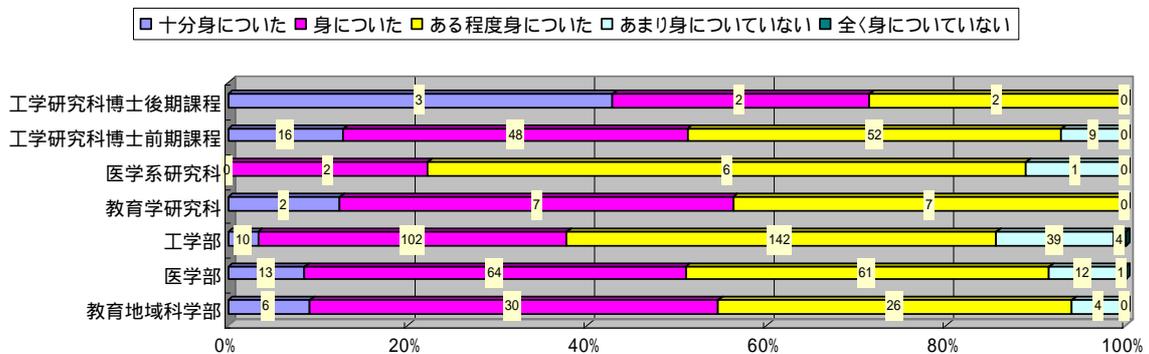
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって一般常識がどの程度身についたと思いますか。



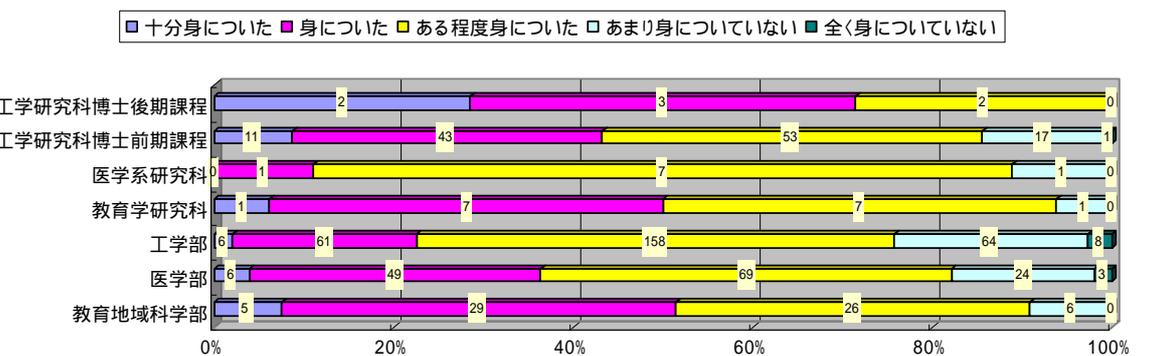
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって基礎学力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって専門知識や技術がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって実践的な能力がどの程度身についたと思いますか。



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

教育目標の達成度に関する卒業生による評価を聴取するため、各学部では、意見聴取方法を策定・実施した【資料3-4-3～4】。

資料3-4-3 卒業生に対する意見聴取の実施状況

	評価項目	評価者	実施状況	評価実施時期
教育地域科学部	学部卒業生・大学院修了者の達成度認識と満足度評価	学部卒業生，大学院修了者	卒業・修了時点における教育地域科学部学生等の達成度の認識と満足度に関する調査	平成19年3月27日卒業式の際
	企業による評価	これまでに卒業生を2名以上採用している企業10社	採用に際して重要視する能力や資質を評価	平成19年度
医学部	卒業生による教育課程評価	医学科・看護学科卒業生	医学科・看護学科教育課程全般に関する評価	随時
	就職先からの卒業生に対する評価	附属病院，関連病院ほか	医学科・看護学科卒業生に関する評価	随時
工学部	卒業生による教育課程評価	卒業（修了）予定者	達成度，満足度評価	平成19年度
	就職先からの卒業（修了）生に対する評価	各就職先	教養，国際性，実験・実習などのスキル・遂行能力等に対する評価	平成15，19年度
全学教務学生委員会	福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査	卒業（修了）予定者	卒業・修了時点における意識・満足度調査	平成20年2月

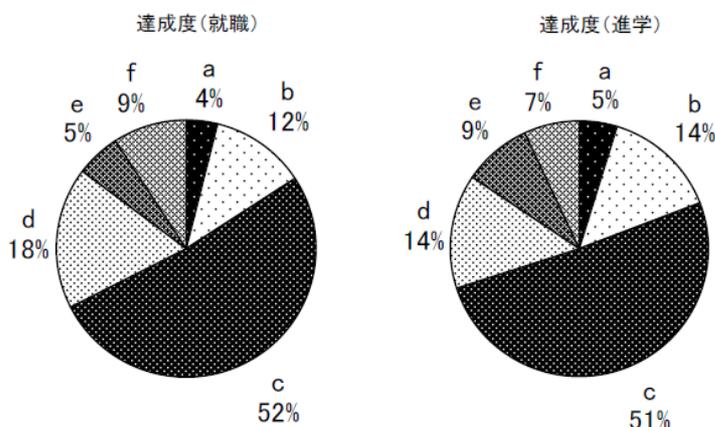
(事務局資料)

資料3-4-4 教育目標の達成度に対する卒業生の評価結果例（工学部）

アンケート調査は、就職内定者184名、進学内定者187名を対象に、平成18年度に行われた。工学部の教育目標を「ほとんど達成できなかった」と回答した学生は10%未満で、教育の成果は高い

工学部の教育目標は「高度な専門能力に加えて、想像力・批判力・自己学習力及び伝達力を併せた総合能力，すなわち、人間力を持つ高度専門技術者を育成すること」です。あなたはこれまでの大学教育でどの程度この目標を達成できたと思いますか。

	a	b	c	d	e	f	合計
	充分達成できた	かなり達成できた	少し達成できた	あまり達成できなかった	ほとんど達成できなかった	わからない	
就職	7	22	95	33	10	17	184
進学	9	27	95	27	16	13	187
未定	0	2	12	3	4	2	23
留年	1	0	0	0	0	1	2
合計	17	51	202	63	30	33	396



(平成18年工学部及び工学研究科自己点検・評価委員会報告書)

卒業生から教育に関する意見を直接聴取するため、学部ごとにホームカミングデーを毎年実施している【資料 3-4-5】。

資料 3-4-5 ホームカミングデーでの主な意見

- ・ 育児室設置やリハビリ施設の開放について、検討してはどうか。
- ・ 入試関係での「地域枠」について県と検討してはどうか。
- ・ 研究棟の冷暖房（特に国試合格率を上げるための学習時間確保について。土日祝日）の使用について、検討願いたい。
- ・ とても興味深いことばかりでした。病院・大学の繁栄のため、協力していきたいと思えます。
- ・ 卒業生と学校側の話し合いも必要と思えますが、卒業生と在学生の話し合いの機会があったらいいと思えます。
- ・ 大学と交流を持つ機会があれば、学生と交流を持つ機会が増えると思えます。
- ・ 近年、大学内の組織が私達の時代から随分と変わって来たこと。また、福井大学のニュースがマスコミに取り上げられるようになってきた。
- ・ 企業側から見るとどの大学へ行けば企業のニーズがマッチするか分かるようにしてほしい。
- ・ 企業としては、メンタルに弱い学生が多いのでそれを強くすることもブランドになる。また、平成 18 年度から名古屋地区で受験することができることになったことは非常に良いことである。



松岡キャンパス
ホームカミングデーの懇談風景

(事務局資料)

計画 3-5「教育方法や評価法を研究開発する大学教育に関するセンターの設置を検討する。」に係る検討状況

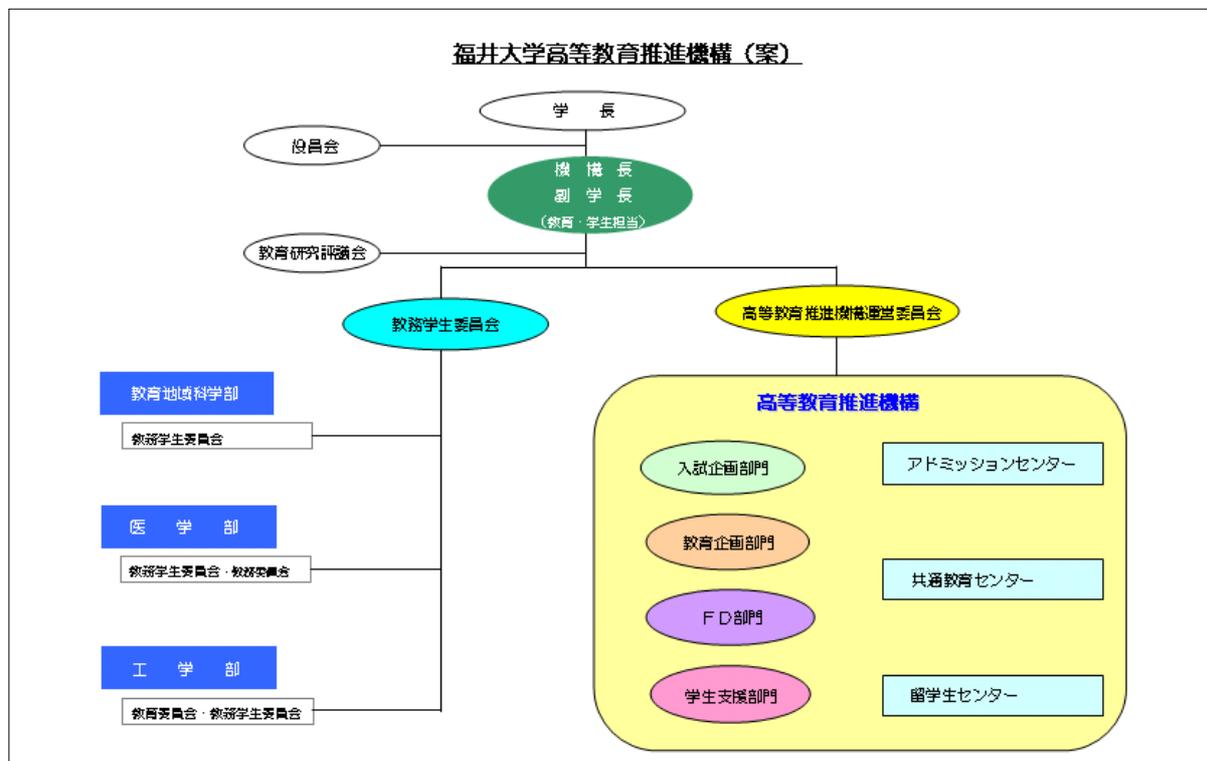
本学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援の強化を図ることを目的として、入試企画、教育企画、FD、学生支援の4部門からなる高等教育推進機構を設置する案が平成19年度に教務学生委員会において策定された【資料3-5-1～3】。

資料 3-5-1 高等教育推進機構検討経過

	検討組織	検討内容
平成16年度	高等教育センター構想検討ワーキンググループ	設置構想について、調査・検討
平成17年度	”	高等教育センター構想案（中間報告）を作成
平成18年度	教養教育ワーキンググループ	大学改革推進特別会議の下に教養教育ワーキンググループを設置し、文京キャンパスと松岡キャンパスとの教養教育の一元化等について考える機構（組織）が必要であると等の結果を得た。
平成19年度	高等教育センター検討ワーキンググループ	入試企画、教育企画、FD、学生支援の4部門からなる高等教育推進機構設置案を作成し、全学教務学生委員会において審議・承認された。

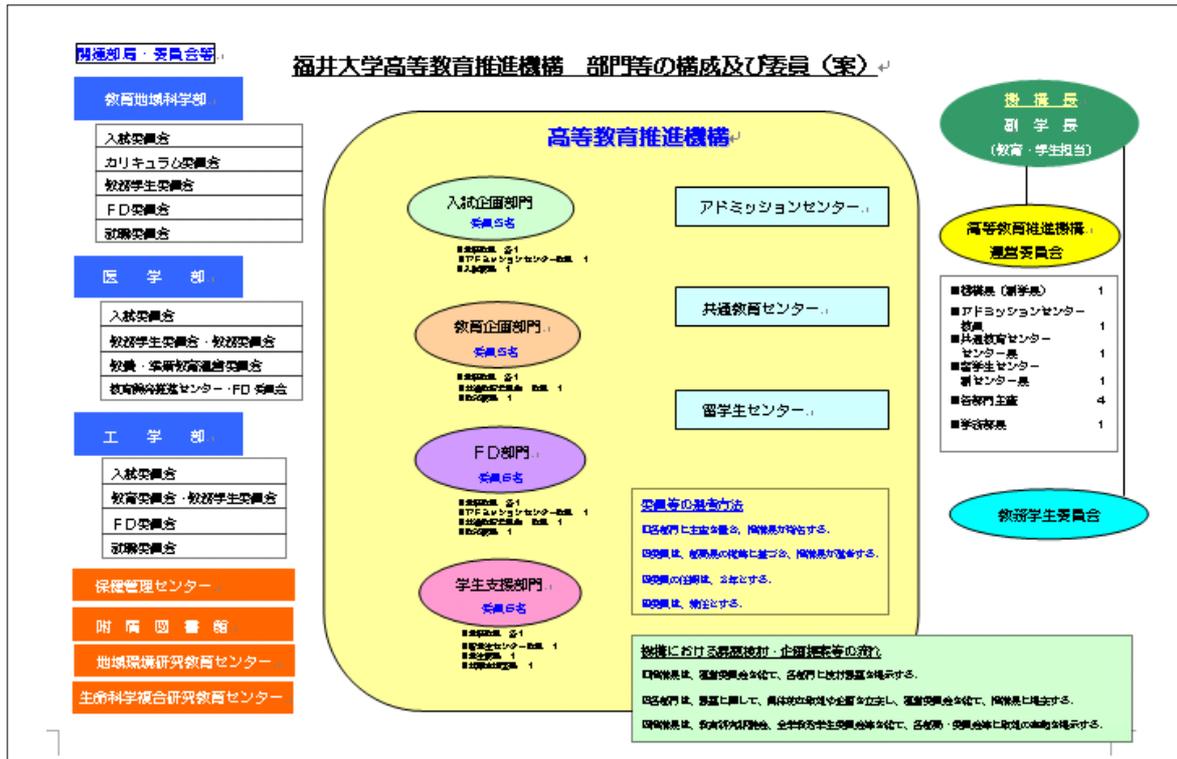
（事務局資料）

資料 3-5-2 高等教育推進機構の概要



（事務局資料）

資料 3-5-3 高等教育推進機構 部門等の構成



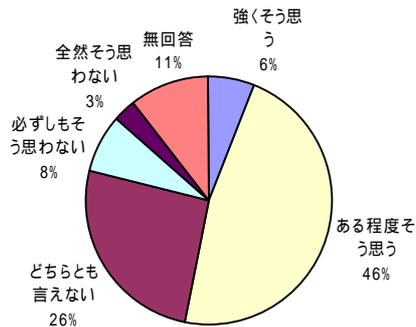
(事務局資料)

計画 3-6「同僚教員，卒業生及び学生による効果的な教育評価を取り入れる等の多様な方法を検討するとともに優秀教員表彰制度なども活用する。」に係る状況

各学部とも学生による授業評価アンケートを随時実施している【P35 資料 1-6-1】。その評価結果は教員にフィードバックされ、教育内容・方法が随時改善されている【資料 3-6-1】。

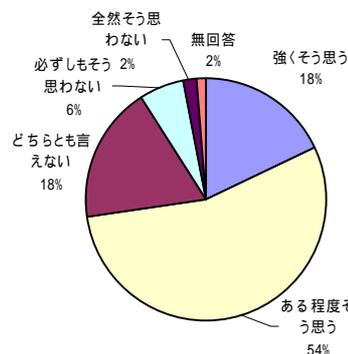
資料 3-6-1 授業評価の適切なフィードバック例（医学部）

設問：前年の評価アンケート結果を参考に、授業方法の改善を試み、学生へのフィードバックができた。



	回答者数
強くそう思う	4
ある程度そう思う	31
どちらとも言えない	17
必ずしもそう思わない	5
全然そう思わない	2
無回答	7
合計	66

設問：今回の評価結果を受け、次の講義を改善する予定である。



	回答者数
強くそう思う	12
ある程度そう思う	36
どちらとも言えない	12
必ずしもそう思わない	4
全然そう思わない	1
無回答	1
合計	66

(回収率64%)

授業評価のフィードバックによる改善例（アンケートより一部抜粋）

- ・ プリントを B4 A3orA4 に（学生の要望）。プリントに空きスペースを（学生の要望）。早口になるので内容を圧縮。一昨年に比べ昨年の学生達には好評で、基礎系教官 5 人のうちの 1 人に入った。
- ・ スライドを使って授業をしたが、内容を印刷したプリントを配布しなかったところ、配布してほしいという要望があったので、次年度配布した。
- ・ 板書で行っていたところ、わかりづらいなどの評価だったので、全てパワーポイントに変更しました。パワーポイントで時々インターネットの関連サイトやビデオを見せるなど、「飽きさせない」「眠らせない」ように工夫しました。配付資料をパワーポイントのプリントアウトで穴埋め式に変更しました。その結果、真剣に前を向いて授業を聞くようになりました。学生の反響は好評のようです。
- ・ 配布するプリントに、記入スペースが少ないという指摘あり。記入スペースを増やした。
- ・ 進行スピードが早いとの指摘を受け、進行をゆっくりとし、補講講義を 1 コマ追加した。
- ・ パワーポイントのスライドが早いとのコメントがあったので、メモが必要なスライドは、時間を十分とるように今年はしている。
- ・ 教材として映画を活用するさいに解説を丁寧に行うように改善した。分かり易かったと好評であった。
- ・ 学生が参加する講義になるよう実習的要素も取り入れた。反響は悪くなかったと思う。

(「平成 19 年度「学生による授業評価」のフィードバックに係るアンケート調査結果」より抜粋)

全学及び各学部で卒業生に対する教育に関するアンケートを実施し，教育の改善に資した【P38 資料 1-6-3，P214 資料 3-4-3～4】。

同僚教員を対象に公開授業を行うなど，授業改善に関して研鑽を積んでいる【P205 資料 3-2-1】。

工学部では優秀教員表彰制度を設け，教育改善努力をすすめる契機としている【資料 3-6-2～3】。また，教員の採用・昇任の際に候補者が模擬授業を行い，教育技法評価委員会の合格の判定を得ることを人事の条件とし，教育の質の確保を図る先駆的な取り組みがなされている【P220 資料 3-6-4～5】。

資料 3-6-2 優秀教員表彰制度

優秀教員の称号授与について

〔平成16年4月1日 制定〕
〔平成18年12月15日 第二教授会〕

1. 教育評価に基づく教育努力奨励体制の構築を目的とするため，工学部に年度優秀教員称号授与制度を設ける。
2. 優秀教員は，各学科から当該学科学生（3年生）の投票により，毎年度各学科1名の計8名を選出する。なお，学部長，前年度及び当該年度の学科長並びに過去3年度内に優秀教員の称号を授与された者は，対象者から除外する。
3. 優秀教員には，THE TEACHER OF THE YEAR の称号を授与する。
4. 優秀教員については学部長より表彰状を授与し，特別昇給の対象者とするとともに，奨学寄附金から旅費（10万円）の使用権利を付与する。
5. 上記4の旅費に係る使用権利は，当該年度を含めて2年間とする。
6. 優秀教員の称号を授与された教員は，当該記録を人事記録に記載する。

（福井大学工学部・大学院工学研究科規則集）

資料 3-6-3 優秀教員からの今後の教育への抱負

- ・ 今後は、更に工夫を重ね、1つの学科に所属し、分野を越えた教育を受けることの出来る環境の重要性を伝え、偏った知識だけでは無く、幅広い知識を持ち、1つの物事を多くの視点から考えられる学生が育っていく教育環境を他の先生とも協力しながら作っていききたい。
- ・ 今後とも、学生の目線で考える講義を行う。学生が私の講義の受講により、在学時には「学び」の充実感を、卒業後は「福井大学で学んだことを誇り」に持つべく教育に真摯に望みたい。
- ・ 今後は、学部講義を通しての教育、大学院講義を通しての教育、研究を通しての教育、の三つを柱として、単なる専門知識の提供だけでなく、リーダーシップを発揮できる総合的な人間力の育成にも尽力します。
- ・ 今後については、知識の詰め込みや「学び方」の話ばかりでなく、これまでの経験を生かし、できるだけ人間形成に役立つような話を講義の合間に織り込んでいきたいと考えています。最近、仲間や周囲の人とのコミュニケーションが十分にとれず、「引きこもり」に近い状態に陥る学生が院生も含め増えてきているように思います。以前と違い、「学生生活」についてもよりきめの細かい指導が必要になっているものと思われます。難しい問題ですが、担任教員制度を活用し、教員と学生間のみならず学生間のコミュニケーションの場を増やすことも一つの方策かもしれません。

(福井大学ホームページ)

資料 3-6-4 大学院工学研究科教員選考基準に関する内規

福井大学大学院工学研究科教員選考基準に関する内規(抜粋)

(平成16年4月1日制定)

第5条 教授、准教授、専任講師又は助教に係る被選考者は、教員選考委員会及び教育技法評価委員会が行う模擬授業による教育技法評価を受けなければならない。

2 被選考者は、前項の教育技法評価の結果に合格しなければ、教授、准教授、専任講師又は助教になることができない。

(工学部・大学院工学研究科規則集)

資料 3-6-5 模擬授業評価表

教員選考委員会及び教育技法評価委員会の委員がそれぞれの項目について評価する。

評価の留意点

平成 19 年度 教育技法評価委員会

授業目標・準備	
明確性	授業の目標は明確に示されたか(授業全体と今回の講義について)
総合性	他の授業科目との関連等，総合的な観点からの位置付けや把握方法が示されたか

授業内容	
難易度	適切な難易度で，必要な内容が講義されたか
基礎学力考慮	学生の基礎学力を考慮し，必要に応じた基礎事項の補足説明があったか

学習方法	
授業記録	十分な余裕をもって学生が授業内容の記録をとることができるように配慮がなされたか
自己学習指導	学生の自己学習（予習・復習・自己調査）のための適切な指導がなされたか

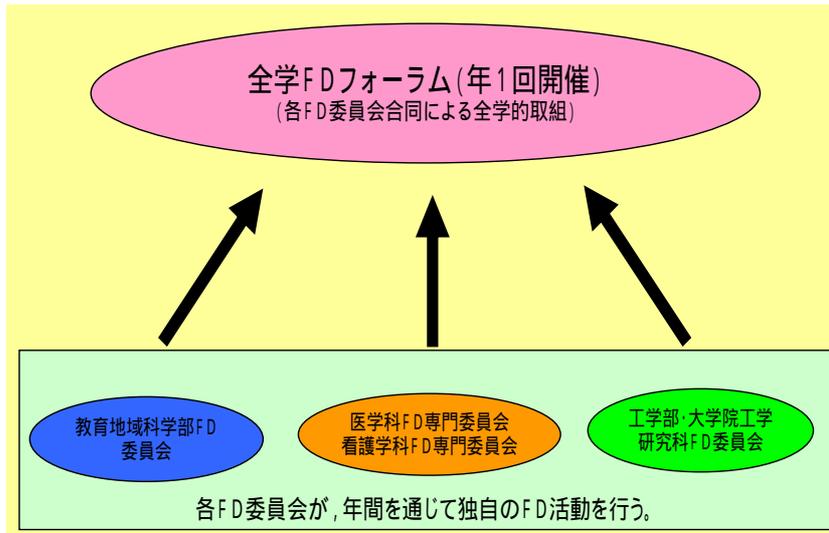
講義技法	
可聴性	声は十分聞き取れたか， 言葉は明瞭であったか， 言っている内容は理解できたか
明快性	講義内容が明快で基礎的原理を分りやすく解き明かすものであったか
熱意	主題についての講師の熱意が現れている講義になっていたか

(工学部現況調査表)

計画 3-7 「FDを積極的に実施する。」に係る状況

各学部のFD委員会が連携して全学FDフォーラムを平成18年度から毎年実施し、その研修内容を報告書として広く公表している【資料3-7-1】。同フォーラムは、全国的にも例をみない全学的な取組として特筆される。なお、全学部の新任教員については、FD研修会への参加を義務付けている。

資料 3-7-1 全学のFD体制



全学FDフォーラム分科会 招待後援者コメント

招待講演者 溝上慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター)のコメント
全学FDフォーラム分科会について

福井大学には、教育地域科学部、医学部、工学部の3学部があるが、私が聞いた限りでは、こうした学部を越えての全学FDフォーラムははじめてのことである。学部を越えるという部分の配慮からか、所属する教員の専門性が少しでもわかるようにするための配慮からか、分科会報告者の所属には学部名が書かれておらず、講座や学科のみが書かれていた。この点は印象深かった。直接拝聴できた分科会は第1分科会だけなので、他の発表は資料をざっと見ただけであるが、概ね「(自身の)授業実践を語る」という分科会テーマは「学生をどのように育てようとしているか」「学生のどの部分をもっと育てなければならないか」というように翻訳されて報告されていたようである。1分科会の中に異なる学部の授業実践が2つ並べて報告されているが、あまり専門特化した知識内容にこだわりすぎず(まったくないというのも不可能であるが)、学生をどのように育てるかという観点から報告するならば、学部を越えて議論を共有することができる。事前に十分に考えられて企画された分科会であったとつくづく感心した次第である。(平成18年度全学FDフォーラム報告書P34より抜粋)

(事務局資料)

各学部においてFD体制を整備し、それぞれのFD委員会によって講演会等のFD活動が積極的に実施されている。【資料3-7-2~5】。

資料3-7-2 教育地域科学部のFD活動について

FD研究会

年 度	内 容
16	テーマ「大学教育の改善と今後のFDのあり方を考える」 第1部 講演会:演題「これからのFD活動と大学評価のあり方」 第2部 講座別分科会
17	テーマ「FDの課題と授業改善の工夫」 第1部 講演会:演題「FDでいま何が課題なのか?」 第2部 講座別分科会
18	全学FDフォーラム「大学教育を直視し、自分の授業を省察する」

ワークショップ型授業FD研修

年 度	内 容
18	第1回 ワークショップ入門 第2回 応用編(学生を交えたワークショップ体験)

教材開発研究会の取組

年 度	内 容
18	・ワークショップ「教科専門の技」 ・シンポジウム「教材から考える学力形成ー豊かな学びを求めてー」

教材開発研究会セミナー

年 度	内 容
18	第1回 教材開発と海外での教育支援実践～大津波の被災地、インドネシア・バンドアチエ市での「物理教育ワークショップ」(福井大学・シヤクハラ大学共催)の報告会を兼ねて～ 第2回 地図で読み解く日本と世界 第3回 スウェーデンにおける現職教員教育の経験から 第4回 化学を生かした地域・学校-大学連携プログラム 第5回 米国プロジェクト・ゼロによる教育改革への挑戦・ハワード・ガードナーのMI理論(多元的知能理論)を中心として 第6回 IMP - 数学相互学習の紹介 第7回 ベルギーにおける高等美術教育の動向-学芸員養成コース(BMW/PCAプロジェクト)の紹介- 第8回 統計教育のいろいろ-福井大学から出前をした授業-
19	第1回 「リアルタイム教育モニタリング」 第2回 「ものづくり教育関連教材・教具について」 第3回 「音楽と数学」-【実験数学】によるカリキュラム開発の一事例- 第4回 批判的思考力を育てるカリキュラムと授業-アメリカの家庭科教育の事例に学ぶ- 第5回 「ポーニャ・プロセスの高等教育制度改革と歴史教育の現在」-東欧諸国におけるホロコースト教育の事例に学ぶ- 第6回 「教職大学院担当の教員になって」-児童生徒に夢の卵を持たせたい- 第7回 近代成熟期の社会における学びの模索-授業から見える高校生のリアル-

(外部評価資料「教育地域科学部・大学院教育学研究科の現状」)

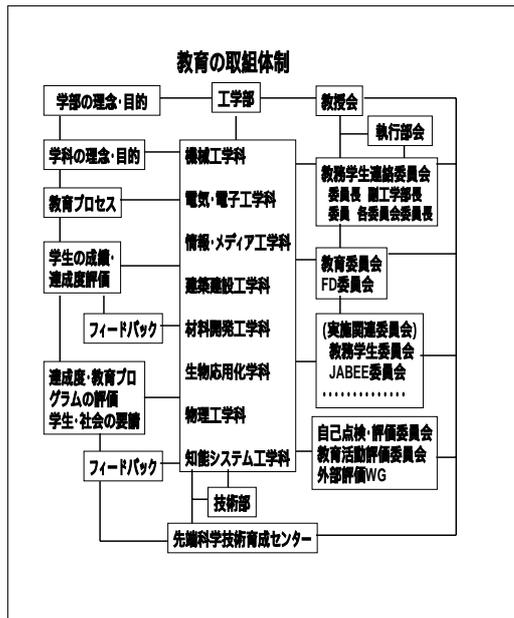
資料 3-7-3 医学部のFD活動について

年度	内 容
16	問題作成 (CBT)作成についてのワークショップ
	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会主催「FDを知る会」
	FD講演会 (工学部のFDの取組の現状と課題)
	授業改善のためのFD講演会
	クリニカルクラークシップにかかる講演会
17	問題作成 (CBT)作成についてのワークショップ
	授業改善のためのセミナー
	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会セミナー「実習に関するセミナー」
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (授業評価は本当に教育改善につながるのか?)
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (大学におけるカリキュラム改革ー看護学に焦点をあてて)
18	看護学科FD専門委員会セミナー「課題と取組に関する意見交換会」
	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (グループワークでのファシリテティング技術)
	卒後臨床研修指導医講習会
	全学FDフォーラム
19	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (初年次教育について)
	公開授業「H18年度授業評価上位教員による公開授業」
	全学FDフォーラム

(医学部現況調査表)

資料 3-7-4 工学部教育の改善にむけたPDCA体制

教育委員会は教育改革・改善，FD委員会は教育手法の改善に特化した活動，教育の実施は教務学生委員会をはじめ，各種実施委員会が担当する。教育担当副学部長を委員長とし，各委員長で構成される教務学生連絡委員会は，毎月1回開かれ，全体を統括する。自己点検・評価委員会は各委員会に改善を求められることができる。



Action

- ・教務学生連絡会委員会を始めとする全委員会

Check

- ・自己点検・評価委員会
- ・教育活動評価委員会
- ・外部評価WG

Do

- ・教務学生委員会
- ・日常の教育を実施
- ・JABEE委員会
- ・教育実施内容の管理
- ・FD委員会
- ・FD活動

Plan

- ・教務学生連絡会委員会
- ・教育全般のプラン策定
- ・教育委員会
- ・教育改革・改善策の策定

(平成 16 年度教育活動評価報告書)

資料 3-7-5 工学部・大学院工学研究科のFD活動について(特色あるFD)

区 分	取 組
1.教育改善の仕組み・体制をつくる	卒業研究の評価法の検討(機械工学科)
	学習目標の達成度を評価するフィードバックシステム(電気・電子工学科)
	教育点検システム(情報・メディア工学科)
	エビデンスチェックシート(情報・メディア工学科)
	学科FD委員会の実施(建築建設工学科)
	オープン講義の実施(材料開発工学科)
	FD関連委員会(理工工学科)
	外書の講読に対するアンケート(理工工学科)
	FD合宿研修(知能システム工学科)
	講義ノート(知能システム工学科)
	オープン授業(知能システム工学科)
授業担当見直し(知能システム工学科)	
2.学生の意見を聞く,学生とのコミュニケーション	サイバー空間を用いた教育の改善(情報・メディア工学科)
	教育への社会や学生の要望の反映(情報・メディア工学科)
	知能システム工学入門セミナー(知能システム工学科)
3.学生の学力の把握ときめの細かい対応を行う	学生の目標達成度の(試行)(電気・電子工学科)
	入学時に化学・物理の試験実験と祖その利用(材料開発工学科)
	入試別合格者成績の調査(材料開発工学科)
	能力別クラス分けの検討基礎科目の補修(材料開発工学科)
	履修状況調査・指導(知能システム工学科)
進路ガイダンス(知能システム工学科)	
4.新しい授業を試みる	機械創造演習(機械工学科)
	学生の自発的なまちづくり活動に基づく創成教育(建築建設工学科)
	新教科(サイエンス寺子屋化学分野)の立ち上げ(選択科目)(材料開発工学科)
	学部4年生対象に重要科目の補修(材料開発工学科)
	実験室開放について(生物応用化学科)
	読書教育について(生物応用化学科)
	AO合格者に対する事前学習(理工工学科)
	物理博物館(理工工学科)
	ロボット工房(知能システム工学科)
	実践物づくり道場(知能システム工学科)
知能ロボット・アドバンスコース(知能システム工学科)	
5.コース選択・研究室配属を工夫する	卒業研究における研究室配属方法の検討(情報・メディア工学科)
	学生のコース選択決定方法に関する検討(建築建設工学科)
	研究室配属方法の検討(建築建設工学科)
	研究室の早期配属(知能システム工学科)
6.JABEEに関連したFD	カリキュラムの改定(機械工学科)
	JABEE関連のFD活動(情報・メディア工学科)
	JABEE(日本技術者教育認定機構)受審への取組み(建築建設工学科)
7.大学院の教育改善	博士前期課程改善WGによる大学院改革(機械工学専攻)
	産学連携教育活動(情報・メディア工学専攻)
	専攻の理念の策定とカリキュラムの検討(知能システム工学専攻)

(FD-学科の取組 福井大学工学部・大学院工学研究科)

教員の経験交流を深めるため、共通教育センターでは「共通教育フォーラム」、工学部では「FDフォーラム誌」を定期的に発行し、全学的な啓発活動を実施している【資料3-7-6】。

資料3-7-6 共通教育フォーラム誌とFDフォーラム誌

共通教育フォーラム誌は年2回発行し、FDフォーラム誌は年4回発行して、工学部HPでも公開している。

福井大学(文京キャンパス)

創刊号 2005年12月
「共通教育フォーラム」創刊に際して
共通教育センター長

文京キャンパスの共通教育が実施されてから、今年度で7年目になります。その間、多くの教職員によって継続的な改善が図られ、今は当初の目的を凌駕するものがあります。平成14年度の中教審答申で謳われている教養教育の再構築は、ここでは既に実現されていると言って良いでしょう。その証は、今年度我々の取組が国立大学から唯一選ばれ、教育情報誌で紹介されていること、また、文部科学省「特色ある大学教育プログラム」に採択され、色々な大学から問合せがあることから伺えます。

しかし、我々の共通教育は、現在ますます進化しようとしています。来年度は、共通教養・副専攻科目(A群)4科目や情報処理応用コースが増設されます。ガイダンスの新たな取り組みや副専攻制度の改善、環境の整備も実施されます。実は、これらのアイデアは全て、構成員による共通教育センターへのメールやアンケートでの意見、あるいは提言、さらには日常的な会話に端を発しているものです。

教育の問題点を実感するのは、現場においてです。しかし、多くの場合、熱心な現場の教育論議も論議で終わりがちであることを、我々は長い間経験してきました。センターの大きな役割は、これからもそれらの問題を機敏に取り上げ、共有し、解決していくことであると思います。

この目的のために、今回、「共通教育フォーラム」誌を発刊することにしました。



学生座談会(第二回)を行いました



外部評価特集



優秀教員特集

2005年度の優秀教員に選ばれた先生方に「授業の玉手箱」について執筆していただきました。授業で大切にしていることや工夫など、各人の教育改善について語っていただきました。

それぞれの先生方は、各分野の授業内容ごとに様々な工夫を行い、教育改善を試みておられます。先生方の取組に心から敬意を表すと共に、教育も多様なんだなと実感いたします。

その中でも、多くの共通点が見られたのも事実です。その一つは、「勉強」でしょうか。どの先生も熱意を持って取り組んでおられます。熱意は学生によく伝わるんではないでしょうか。大変参考になるものでした。

(編集長 西島 邦雄)

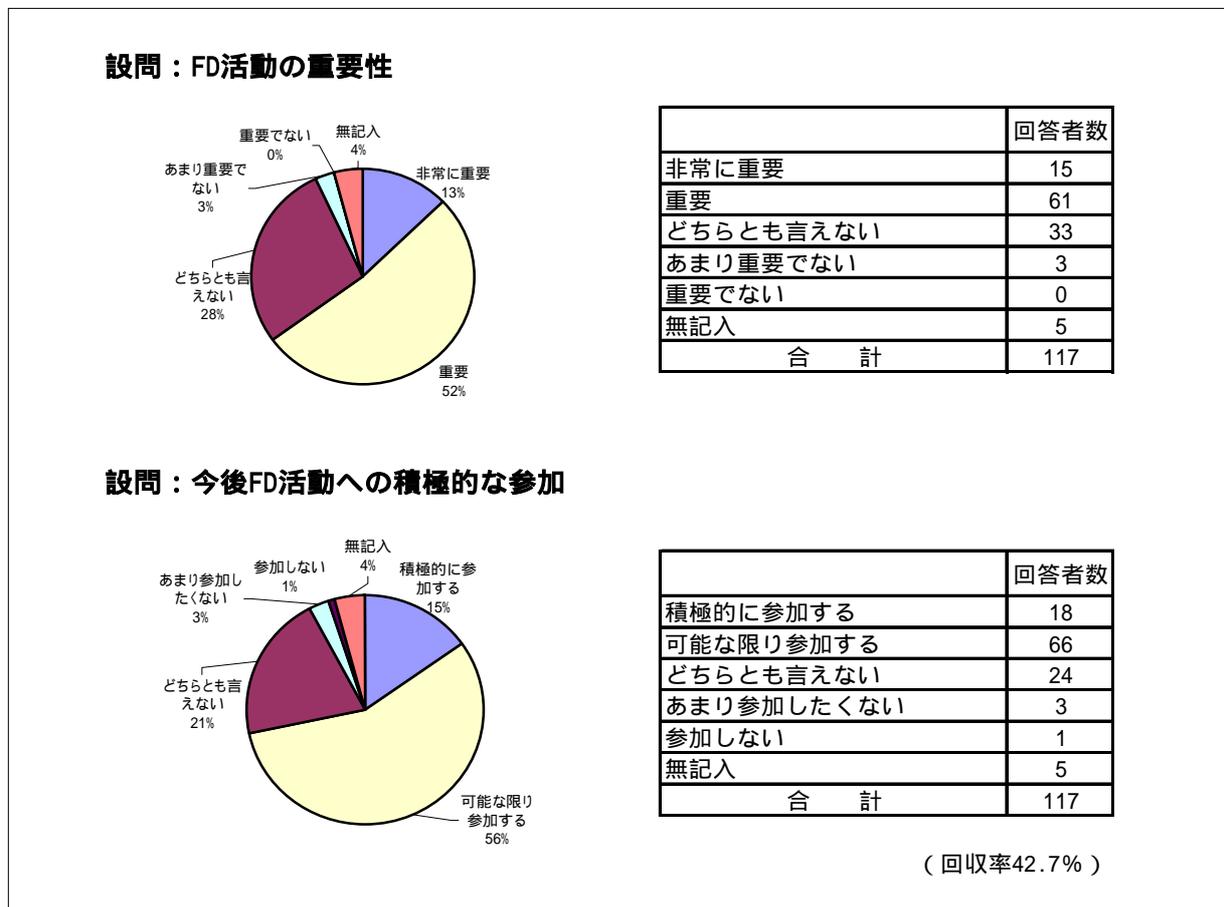
CONTENTS

- 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への展望 2
西島 邦 (機械工学専攻)
- 私の授業観と実践 4
藤生 伸 (機械工学専攻)
- 「玉手箱なんてありませんが」 5
田中 敦史 (機械工学専攻)
- 「優秀教員」のどこが素晴らしいのか ～生体応用化学科の学生の声～ 6
石川 梨 (生体応用化学専攻)
- 日頃の授業に対する工夫と実践 7
石井 雅也 (機械工学専攻)
- 「勉強がくり」の授業 8
高橋 望 (機械工学専攻)

(共通教育フォーラム誌創刊号とFDフォーラム誌10～12号)

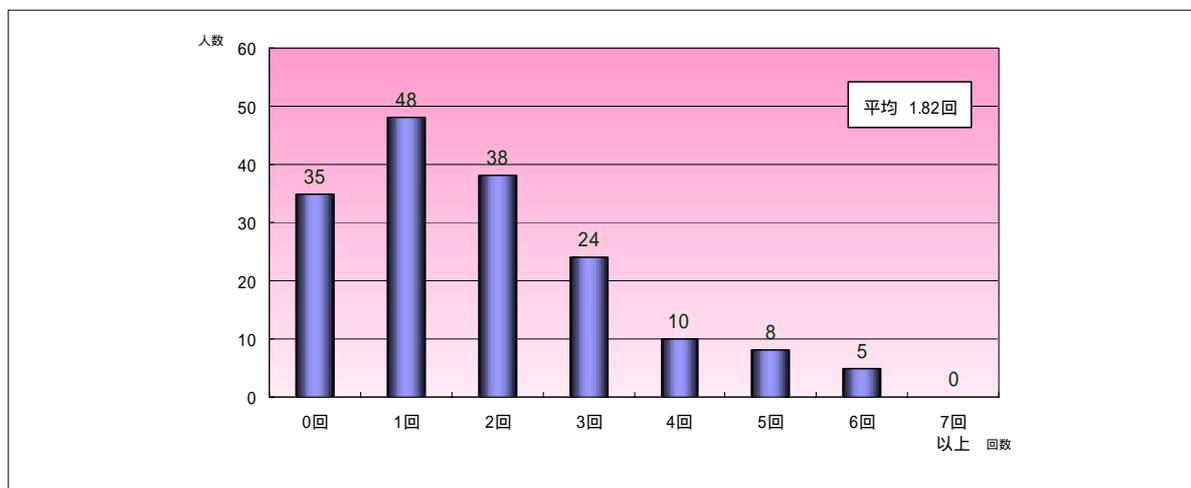
F D 活動に対する教員の意欲は高く , 教育内容・方法の改善が図られている【資料 3-7-7 ~ 8】。

資料 3-7-7 医学部教員の F D 活動に対する高い意欲



(「平成 19 年度授業改善 (学部教育) に係る教員アンケート集計結果」)

資料 3-7-8 工学部教員の F D 活動に対する高い意欲 (教員の F D 参加回数)



(平成 16 年度教育活動評価報告書)

b) 「小項目 3」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 教員の教育評価の基礎資料となる「福井大学総合データベースシステム」が構築・運用され、全教員に対する教員の個人評価が実施された。さらに、卒業生に対する教育目標の達成度や学生による授業評価等の意見聴取を実施しており、これら評価結果等は教員にフィードバックされた。これら取組は教員個々人の教育業績及び教育プログラムの評価システム整備の一環である。
2. 競争的配分経費として「教育に関する評価経費」を設け、学内公募により優れた教育活動に対し財政措置を行った。さらに、教育改善の財政的基盤を充実させるためにG P等への応募を奨励し、中期計画期間で10件のプログラムが実施された。教員当たり採択率は国立の総合的な大学法人中第3位(地方大学中第1位)であり、これは本学の多様な取組が高く評価されている証左である。
3. 各学部及び全国的には類例をみない全学における積極的なF D活動の実施、公開講義や関連報告書の刊行などによる教員の教育改善努力内容の交流、学生や卒業生による教育評価の実施とそのフィードバックによって、教員は研修成果を実践に役立たせている。

中項目 3 の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. ポイント制の導入や全学的な人事会議の設置など、学長のリーダーシップのもと柔軟な人事計画の推進が可能となり適正な教員配置がなされている。さらに、「男女共同参画」の取組は基準適合一般事業主として県内最初の認定を受けるなど、実績をあげている。
2. メディアコモン構想の結実、図書館の学習支援体制の強化、情報リテラシー教育設備や遠隔授業支援システムなど教育施設の整備、講義室など教育環境の改善など、学生・大学院生が概ね満足する教育環境が整備された。
3. 教員の教育評価の基礎資料となる「福井大学総合データベースシステム」の運用を契機に、全教員に対する教員の個人評価を実施した。さらに、卒業生からの評価など様々な意見聴取を実施しており、これら評価結果等はフィードバックされ、活発なF D活動とともに教育の質の向上に活かされた。これら取り組みに対して、競争的配分経費として「教育に関する評価経費」の設置など財政的措置もなされている。
4. 教育実施体制整備の一環として、教育改善の財政的基盤を充実させるためにG P等への応募を奨励し、中期計画期間中で10件のプログラムが実施された。教員当たり採択率は国立の総合的な大学法人中第3位であり、これは本学の多様な取組が高く評価されている証左である。

優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

1. 人件費の管理手法としてポイント制を導入し、従来の職種別定数の枠を超えた柔軟な人事計画を可能にした。(計画 1-1)
2. 総合データベースシステムの構築によって、全教員に対する教員個人評価を実施した。これは教員の教育力向上を図ることを目的とするものである。(計画 3-1)
3. 教育改革・改善の更なる推進を財政的に支援するため G P などへの積極的な応募を奨励し、文部科学省大学教育改革支援プログラム等に 10 件以上のプロジェクトが採択され、教育改革・改善が進んでいる。(計画 3-3)

(改善を要する点)

該当なし

(特色ある点)

1. 遠隔授業システムの活用、県立図書館との相互協力協定による蔵書の相互貸借が可能になるなど、他大学・機関との協力のもとに、学生・大学院生の学習環境の更なる整備が期待できる。(計画 2-2~4)
2. 「男女共同参画」の取組によって基準適合一般事業主として県内最初の認定を受けるなど実績があがっており、女性の働きやすい職場づくりの推進が期待できる。(計画 1-2)

(4) 中項目4「学生の支援に関する目標」の達成状況分析

小項目の分析

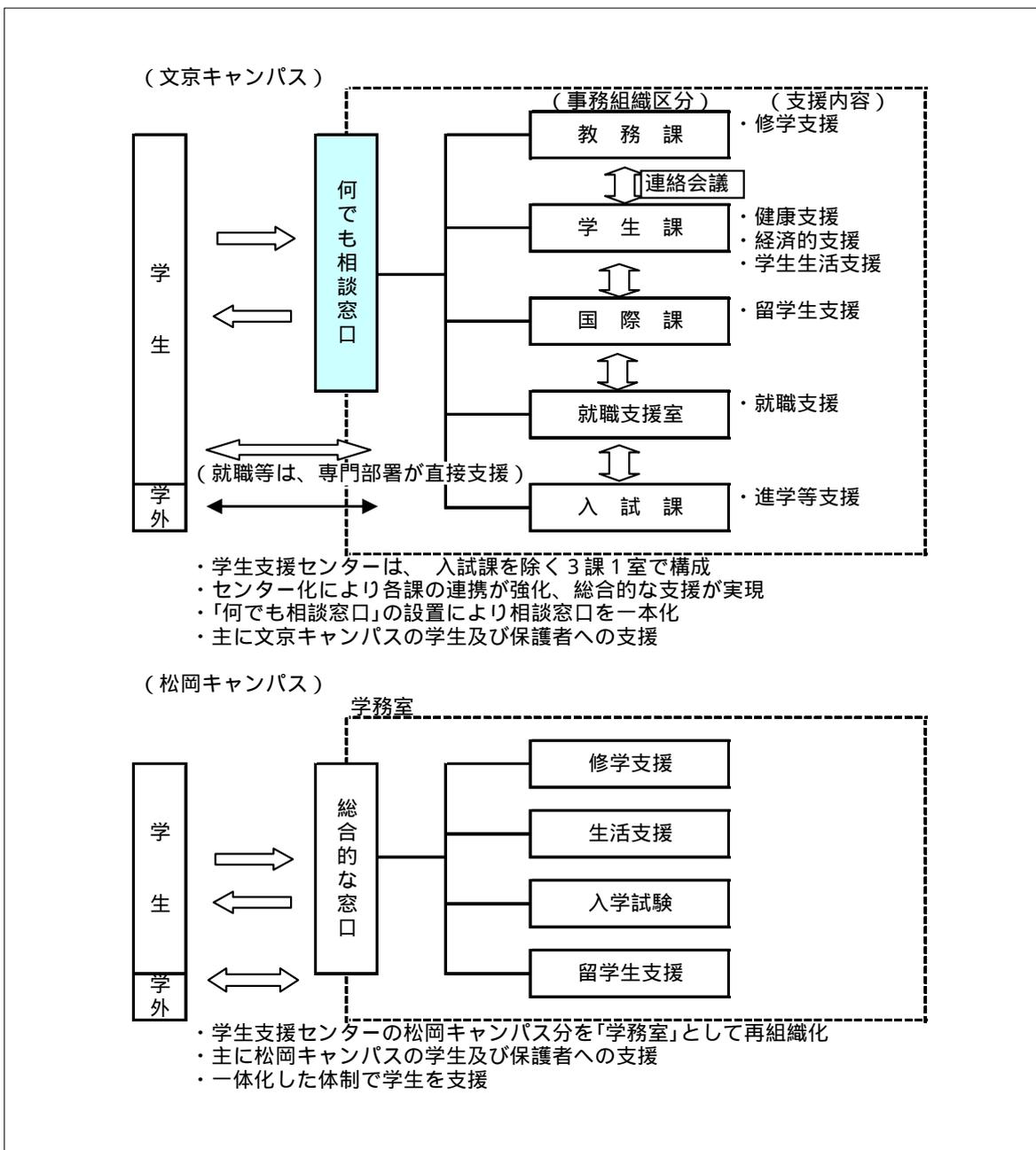
小項目1「全ての学生が積極的かつ意欲的に学習活動を展開できるように、学習支援体制の整備、充実を図る。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 1-1「学生の履修指導や生活指導等を総合的に支援するための学生支援センターの設置を検討する。」に係る状況

文京キャンパスでは、学生支援に関わる教務課・学生課・就職支援室・国際課が個別に担当してきた各窓口業務を有機的に連携させ、学生履修・生活指導等を総合的に支援する「学生支援センター」を平成18年度に設置した。松岡キャンパスでは学生課、教務課等を統合した「松岡キャンパス学務室」を平成17年度に設置し、学生支援に一括して対応できる体制とした【資料1-1-1】。

資料 1-1-1 学生支援センター組織図

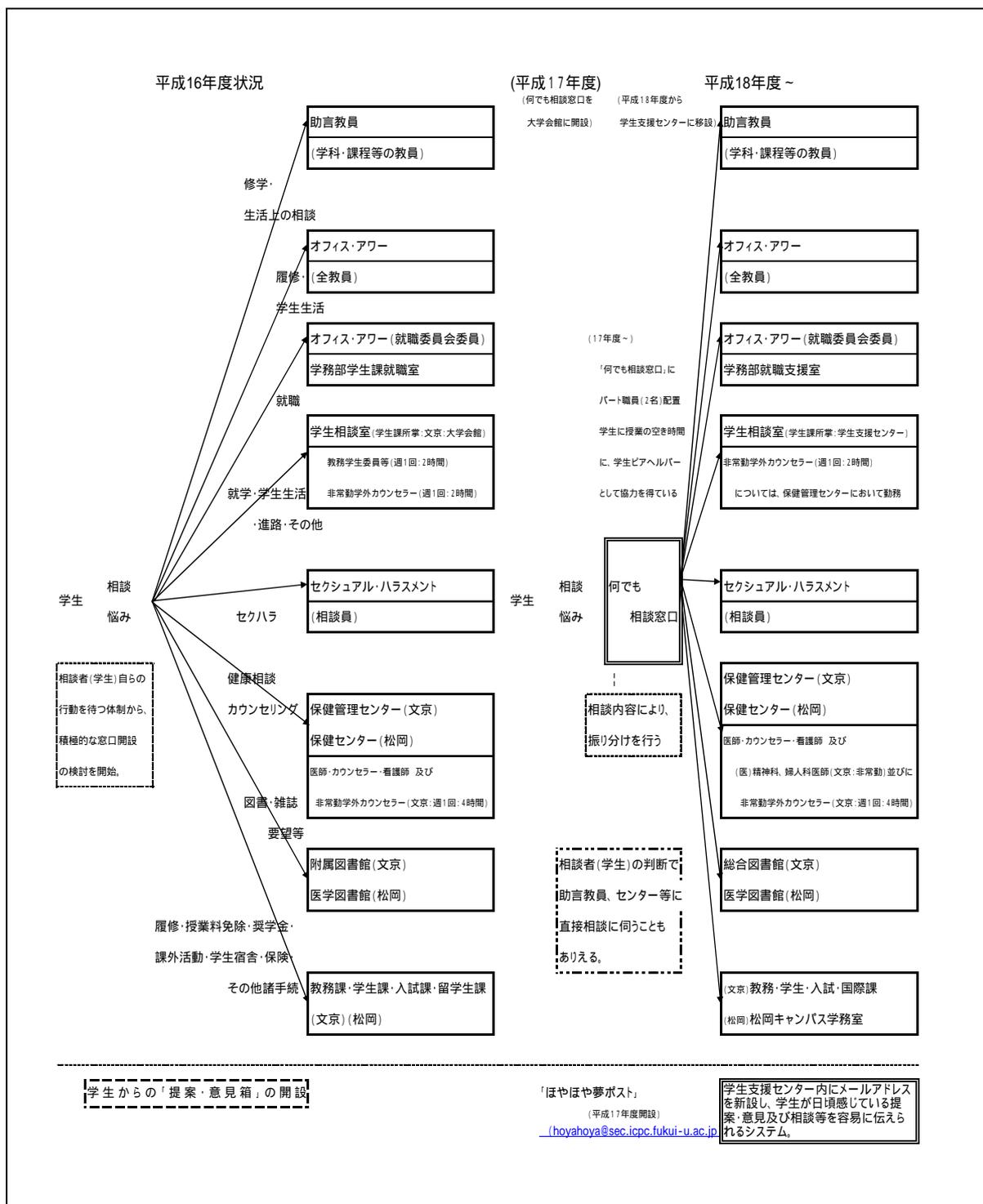


(事務局資料)

「学生相談室」に専任職員を置き「なんでも相談窓口」を平成17年度に設置し、学生からの相談内容に応じた適切な対応ができる体制とした。これによって、学習相談・助言・支援の組織的対応が促進された【資料1-1-2】。

学生が直接に大学に意見具申できるよう、平成17年度に同センター内にメールアドレス「ほやほや夢ポスト」を設置した。これまでに延べ38件の意見が寄せられた。

資料 1-1-2 学生相談体制



(事務局資料)

計画 1-2 「全教員が週 1 回以上の定期的なオフィス・アワーを設定する。」に係る状況

全教員に、毎学期週 1 回以上の定期的オフィス・アワーの設定を義務付けた。その結果、平成 17 年度から履修及び学生生活相談のためのオフィス・アワーが全教員に設定できた【資料 1-2-1】。

資料 1-2-1 オフィス・アワーの一例

教育地域科学部

所属	教員氏名	曜日	時間
言語教育講座	高山 善行	水	14:00~16:00
	越野 格	月	12:50~14:20
	澤崎 久和	月	14:30~16:00
	法水 光雄	木	14:30~15:30
	三好修一郎	月	10:00~12:00
	松友 一雄	金	10:00~12:00
	中根 貞幸	火	14:30~16:00

所属	教員氏名	曜日	時間
生活科学教育講座	村上亜由美	木	10:30~12:00
	服部由美子	木	12:50~14:20
	竹内 恵子	月	12:00~13:00
	荒井 紀子	水	12:00~14:00
	松田 淑子	木	14:45~16:15
社会系教育講座	山根 清志	木	10:20~11:50
	松浦 義則	月	10:00~12:00

医学部

所属	教員氏名	曜日	時間
人体解剖学・神経科学	野祭 良彰	月	19:00~20:00
	飯野 哲	月	17:00~19:00
組織細胞形態学・神経科学	佐藤 真	火・水	12:00~13:00
	竹内 聖二	木・金	12:00~13:00
分子生理学	老木 成稔	月	14:00~17:00
	今野 卓	月	14:00~15:30
統合生理学	樋口 隆	月~金	16:30~18:00

所属	教員氏名	曜日	時間
内科学(1)	上田 孝典	水	11:00~12:00
	岩崎 博道	金	15:00~17:00
内科学(2)	栗山 勝	水	15:00~16:00
	米田 誠	水	15:00~16:00
内科学(3)	宮森 勇	水	14:00~17:00
	此下 忠志	水	15:00~17:00
小児科学	眞弓 光文	水	9:00~10:00

工学部・工学研究科

所属	教員氏名	曜日	時間
機械工学科	山田 泰弘	金	10:30~12:00
	伊藤 隆基	火	11:00~12:30
	太田 淳一	火	16:10~17:40
	川谷 亮治	水	14:30~16:00
	新谷 真功	月	16:30~17:30
	永井 二郎	火	16:00~18:00
	本田 知己	火	16:00~18:00

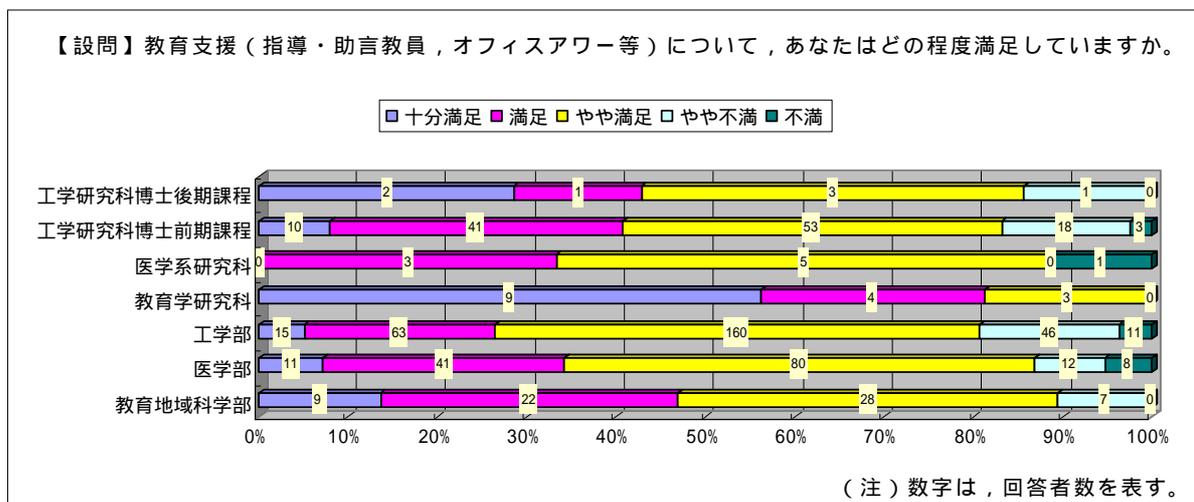
所属	教員氏名	曜日	時間
建築建設工学科	荒井 克彦	木	14:30~16:00
	石川浩一郎	月	11:00~12:30
	川上 洋司	水	16:00~17:30
	小林 克巳	月	18:00~20:00
	白井 秀和	水	16:00~17:00
	野嶋 慎二	木	13:00~14:30
	福原 輝幸	月	10:00~12:00

(教務課資料より)

設定したオフィス・アワーは一覧表として配布・掲示、シラバス等への掲載によって学生に周知した【P236 資料 1-4-1】。

オフィス・アワー等の学生支援に対する学生の満足度は良好である【資料 1-2-2】。

資料 1-2-2 オフィス・アワー等の教育支援に関する学生の満足度



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

計画 1-3 「助言教員，指導教員等の制度や学生相談室の機能の充実を図る。」に係る状況

全学生に対し全教員を助言教員等として配置し，学業成績，学生生活，進路等，学生生活全般にわたってきめ細かな指導助言を行っており，学生もこの制度を高く評価している【資料 1-3-1～2】

資料 1-3-1 学生指導助言要項

国立大学法人福井大学学生指導助言要項 (平成 16 年 4 月 1 日 学長裁定)		
(趣旨)		
第 1 この要項は，国立大学法人福井大学学生が学生生活をおくる上で，修学及び生活上起こる種々の問題解決のために教員が行う指導助言について必要な事項を定める。		
(助言教員等)		
第 2 指導助言は，各学部学科・課程の指導方針に基づき，学年主任若しくは助言教員又は両者（以下「助言教員等」という。）で行う。		
第 3 助言教員等は，当該学部等の専任教員が当たるものとする。		
(職務)		
第 4 助言教員等の職務は，次のとおりとする。		
(1) 担当する学生と個人又は集団で面談を行い，修学上及び生活上の相談に応じ，指導助言を行う。		
(2) 学生の指導助言に当たっては，必要に応じ関係の機関，委員会及び教職員と互いに密接な連絡を行い，最善の方法を導き出すよう努力するものとする。		
(3) 本学で定められた提出書類で助言教員の承認印が必要な場合には，学生と面談の上諾否について指導助言する。		
(担当)		
第 5 各学部においては，全ての学生に対し，当該学科・課程等の教員が分担して助言教員等の任に当たるものとする。		
(選定方法等)		
第 6 教育地域科学部学生は，毎年度始めに，学生が所属する課程（コース）等で予め指定された教員から，助言教員 1 名を選び学部長に届け出るものとする。		
第 7 工学部学生には，学生が所属する学科で予め助言教員を指定する。		
第 8 医学部医学科学生には，各学年に学年主任（主として修学面を担当）1 名を指定し，かつ，助言教員（主として生活面を担当）を予め指定する。		
第 9 医学部看護学科学生には，各学年に学年主任 2 名を予め指定する。		

(福井大学学生便覧)

資料 1-3-2 助言教員に対する学生の評価例 (教育地域科学部)

【設問】助言教員・指導教員は，親切でしたか。

(強くそう思う。 そう思う。 どちらともいえない。 そう思わない。 まったく思わない。)

選択番号 (評価)	学校教育課程			地域文化課程			地域社会課程		
	回答数	合計点	平均点	回答数	合計点	平均点	回答数	合計点	平均点
5	48	240	4.38	4	20	3.57	13	65	4.29
4	40	160		8	32		10	40	
3	4	12		5	15		5	15	
2	1	2		4	8		0	0	
1	2	2		0	0		0	0	
0	0	0		0	0		0	0	
計	95	416		21	75		28	120	

3課程の平均:4.24

(出典:平成 18 年度学部卒業生・大学院修了者の達成度認識と満足度アンケート)

(教育地域科学部現況調査表より)

「学生相談室」には平成 17 年度に「何でも相談窓口」を設置して、学生からの相談窓口を一元化した。さらに、学生支援に対する組織的対応を強化するため、平成 18 年度に「学生相談室」を「学生支援センター」に移管した。同窓口には平成 17 年度よりカウンセラーを配置し、学生のメンタルヘルスに対して積極的に対応した。同窓口では、平成 19 年度に 9,323 件の相談がなされており、適切な学生支援を行っている【資料 1-3-3】。

資料 1-3-3 何でも相談窓口相談件数と内容（平成 19 年度）

相 談 内 容	学 生	保 護 者	教 職 員	一 般	計 (名)
履修・単位	311	0	1	2	314
実習・インターンシップ	16	0	0	1	17
免許・資格	3	0	0	0	3
休学・退学	27	1	0	0	28
授業料免除・奨学金	3819	19	3	1	3842
寄宿舎	432	7	1	3	443
サークル活動	1016	0	0	2	1018
臨時入構許可申請	85	3	0	0	88
物品・施設借用	737	1	42	4	784
落とし物・拾得物	418	0	52	3	473
ハラスメント	1	0	0	0	1
留学生	82	0	0	1	83
就職	5	0	1	9	15
学内施設案内	403	7	9	40	459
保険・医療費請求	832	4	6	0	842
健康	8	0	0	0	8
その他（掲示・バイト・学生証・自動発行機）	585	2	3	66	656
その他（盗難被害，子供が大学に行かない）	196	3	1	14	214
その他（入試）	29	0	0	6	35
合計	9005	47	119	152	9323

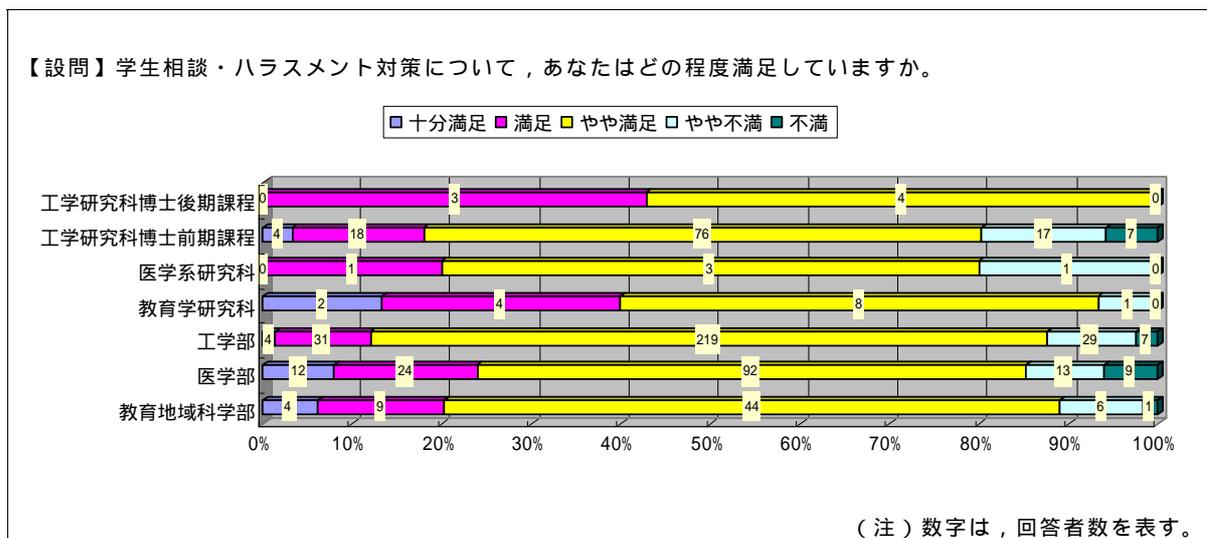


「何でも相談窓口」での相談風景

（事務局資料）

「学生相談」に対する対応は学生に概ね好評である【資料 1-3-4】。

資料 1-3-4 学生相談対応に関する学生の満足度



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

留学生の事故等に対応した財政面での支援を充実させるため、平成 18 年度に「外国人留学生支援会」を設置した【資料 1-3-5】。

資料 1-3-5 外国人留学生支援会

■ 福井大学外国人留学生支援会

福井大学外国人留学生支援会は、福井大学の外国人留学生(以下「留学生」という。)に対し、修学上及び生活上の支援を図り、福井大学の留学生交流の一層の促進を図ることを目的として立ち上げられました。支援会は、以下のような事業を行います。

- (1) 留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援
- (2) 留学生の不慮の事故・疾病に対する支援
- (3) その他、支援会の目的を達成するために必要な事業

なお支援会が行う事業に係る経費は、会員からの会費、寄付金等をもって充てられます。会費は以下の通りです。(年会費)

職員会員	一口 1,000円
留学生会員	一口 500円
賛助会員	任意

(本学HP「留学生センターHP」より)

福井大学外国人留学生支援会による支援状況の具体例

1. 留学生の賃貸住宅入居に伴う連絡保証

本学に入学する留学生のうち、本学の留学生会館や国際交流学生宿舎に入居できる者以外は、民間アパートに入居する。

この民間アパートを契約する際、「留学生住宅総合補償」の加入を絶対条件として、連帯保証を行っている。
2. 不慮の事故・疾病に対する支援

過去の実績として、留学生の火災事故に対して支援を行った。

この火災事故では、アパートの持ち主や被災した留学生等に保険料が支払われたが、火災で被害を受けた人々に対するお見舞い金が必要となったため、当支援会の会則を運用して、お見舞い金を無利子で本学を卒業するまでを条件として、貸し付けた。

(事務局資料)

計画 1-4 「シラバスの充実及び学生が利用しやすい方法を検討する。」に係る状況

シラバス内容を充実するため、記載事項(学習目標、評価方法等)を全学的に統一した【資料 1-4-1, P165 資料 5-1-2】。

資料 1-4-1 シラバスの記載例(医学部)

循 環 器 系

科 目 名		単位数又はコマ数	開 講 時 期
循環器系(必修)		46コマ	3年次生後期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
田中 國義 内木 宏延 井俣 彰夫 (略)	教授/外科学(2) 教授/分子病理学 准教授/外科学(2)	(略)	毎週金曜日 14:00~17:00 毎週火曜日 16:30~18:00 毎週金曜日 13:00~17:00

- 1 **学習目標**: 循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。
- 2 **授業の内容**: すべての医学生が臨床実習前に修得すべき必須の学習内容を精選し、(略)
- 3 **授業の形式**: 循環器における診断と検査の基本にはじまり、心不全、狭心症と心筋梗塞、(略)
- 4 **到達目標**
 1. 診断と検査の基本
到達目標:
1)胸部 X 線写真と断層心エコー図から心臓、大血管の画像診断を説明できる。
2)心カテーテル検査(心内圧、心機能、シャント率の測定)と結果の解釈を説明できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	循環器検査法 I	心電図記録法、心電図の読み方	1内: 李
2	循環器検査法 II	観血的検査法、心臓・冠動脈の構造と働き、心臓カテーテル法、左室造影、冠動脈造影	1内: 宇隨
3	循環器検査法 III	非侵襲的検査法、心エコー図・心筋シンチグラフィ	1内: 中野
4	循環器検査法 IV	心内心電図、電気生理学的検査法、カテーテルアブレーションなど	1内: 池口

(略)

- 5 **総合評価割合**
講義、実習、テュートリアルそれぞれにつき以下の方法で評価し、その結果にもとづき総合的に判定する。
- 6 **評価方法**
講義および実習については、その内容にもとづいて筆記試験を行い評価する。また、テュートリアルについてはレポート、出席状況、各テューターによる評価、ポートフォリオを総合して評価する。以上の結果を勘案して総合評価を行う。再試験については原則として一回のみ行う。
- 7 **参考書など**
- 8 **その他履修上の注意点等**

医学部授業要項(シラバス)



(医学部シラバス冊子)



(看護学科シラバス冊子)

(医学部現況調査表)

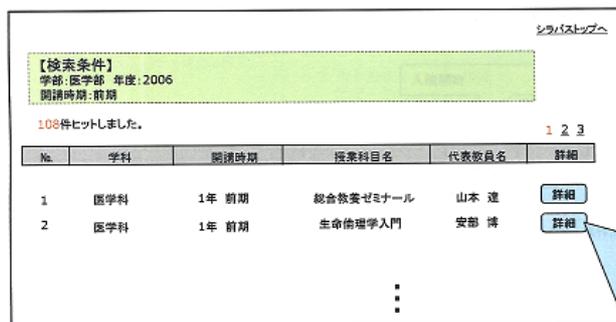
平成 16 年にシラバスを電子化し、HP で公開した。これにより学内ネットワーク及び学外からも検索・閲覧が可能となった【資料 1-4-2】。

資料 1-4-2 Web 版シラバスシステム概要

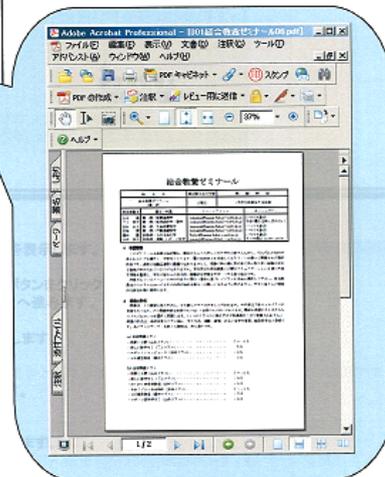
検索画面の一例



↓ 検索実行



1. 検索結果の一覧を表示します。
検索結果は学科ごとに区切り、以下の順番でソート一覧表示します。
学科、科目分類、学年、開講時期
2. 表示内容
学科、学年、開講時期、授業科目名、代表教員名
2. 検索条件、ヒット件数を表示します。
ヒット件数が多い場合は、50件ずつ表示します。
3. 「詳細」ボタンをクリックします。
登録されたPDFが別ウィンドウで表示されます。



(事務局資料)

医学部では全ての学生にシラバス冊子体を配布している。共通教育センターでは、学生によるシラバス活用の向上を図るため、学生の要望に応え平成17年度より冊子体として配布した【資料1-4-3】。なお、シラバスの学生による活用度は良好である【資料1-4-4】。

資料1-4-3 シラバス利用に関する改善例

平成16年度
共通教育に関する
アンケート調査報告書

平成17年3月
福井大学共通教育センター

序文(抜粋)

はじめに
.....
委員会は、アンケートの主目的を、平成12年度に実施されたアンケート結果と比較し、その後改善された点の成果は上がっているか、また、改善が十分でない点がないかを明らかにすることとした。そのために、アンケート項目は前回と同じ内容のものを基本とし、それに中期計画やその後の新しい状況に関する項目を加えて、実施された。
..... 共通教育委員会

**アンケートの結果平成17年度に
実施した主な改善点**
理念・目的の改正と周知策
共通教育センターの規定・要項の整備
共通教育の目的を周知させるために
「履修の手引き」を大幅改定
「情報処理基礎講義ガイドブック」の改定
Web化により減少したシラバスの利用度を
高めるため、冊子体の配布を復活
学生の要望に応え、Webによる履修登録
プログラムの改善

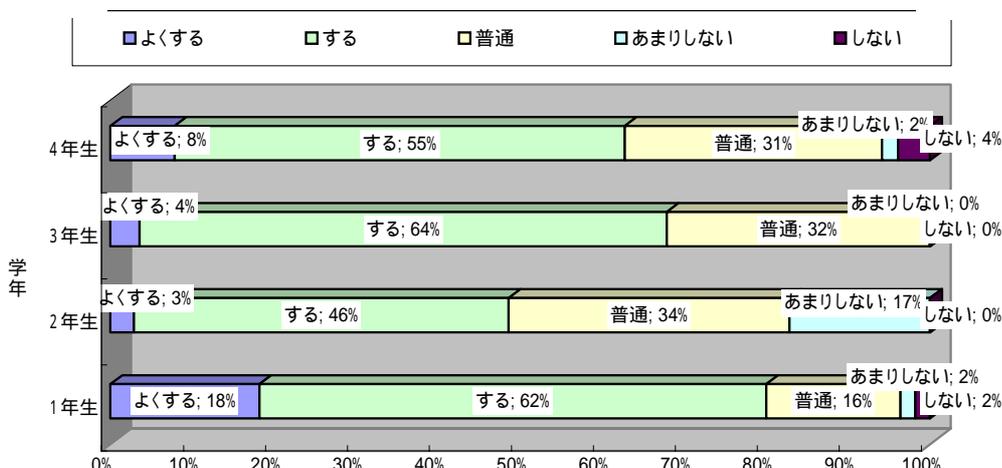
(共通教育センター)

資料1-4-4 シラバスの活用に関する調査結果例(医学部)

【設問】授業を受ける際に、シラバスをよく参考にしますか、よく利用しますか

	よくする	する	普通	あまりしない	しない	合計	回収率
1年生	10	34	9	1	1	55	91.7%
2年生	1	16	12	6	0	35	59.0%
3年生	1	18	9	0	0	28	43.8%
4年生	4	28	16	1	2	51	76.1%

(注)数字は回答者数を表す



(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

(資料「平成19年度看護学科カリキュラム評価アンケート(看護学科1~4年生)」集計結果より抜粋)

(医学部現況調査表)

計画 1-5 「T A の積極的活用，少人数クラスの編成，補習授業の開設を推進する。」に係る状況

ライフパートナー，教育実践研究やS P P（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）等の授業（教育地域科学部），テュートリアル教育科目（医学部）及び実験・演習科目（工学部）において，大学院生をT Aとして積極的に活用している。さらに，工学研究科では，平成19年度に採択された大学院教育改革支援プログラムに基づき新たなT Aの大幅な採用が可能となり，学部学生の実験・実習のサポートが充実した【資料1-5-1～3】。また，少人数クラスを積極的に編成し，きめ細かい学生学習指導を実施した【P240資料1-5-4】。

資料 1-5-1 S P PにおけるT Aの活用

年度	事業数	事業名	連携先	T A数(延べ)
平成17年度	1	原子・分子のかたちをみる	永平寺町立永平寺中学校	大学院生 9人
平成18年度	3	原子・分子のかたちをみる・考える・想像する	永平寺町立永平寺中学校・上志比中学校・松岡中学校	大学院生 28人 学部生 18人
		生物の細胞とふえ方-DNAって何だろう	あわら市立金津中学校	
平成19年度	4	原子・分子のかたちをみる・考える	永平寺町立永平寺中学校・上志比中学校・松岡中学校	大学院生 31人 学部生 23人 学外 3人
		遺伝子と放射線	あわら市立金津中学校・福井県立金津高等学校	
		福井の豊かな生物生態系と保全・外来種及び生息環境破壊を考える	福井県立丸岡高等学校	
		火山灰・九州からの使者	福井市立社中学校	

S P Pに参加したT Aのコメント

・私は，生物の分野は昔からあまり好きではなく，高校のときも化学と物理選択だったので，少し疎遠だったのですが，今回実験を自分自身も行い，さらに子供たちに説明する立場となり，生物の面白さを実感できました。

・色々な実験道具，面白い科学道具が多くある場所でのS P Pだったので，T Aとして入った自分も楽しく参加できた。教える側も子供たちの興味を引くものだと思えば相乗効果で良くなると思うので，楽しむ気持ちを忘れずに，色々参加していきたい。

・短い時間だったが，S P Pに参加する中学生は知識があり，科学的な考えができると思った。また，そのような生徒は何に興味をもつのかも分かった。（今回の実験を）教材として使ってみたら面白いのではないかと気づくことができた。

（出典：基礎資料）

（平成19年度S P P事業報告書）

資料 1-5-2 T A・R Aの状況

調査実施年度：2005年度

基準日：調査実施前年度実績

学部・研究科等	T A 従事時間総計	R A 従事時間総計
教育学研究科	2,547.0	0.0
医学系研究科	5,014.0	3,582.0
工学研究科	10,713.0	5,882.0
合計	18,274.0	9,464.0

調査実施年度：2006年度

基準日：調査実施前年度実績

学部・研究科等	T A 従事時間総計	R A 従事時間総計
教育学研究科	2,381.0	0.0
医学系研究科	4,269.0	3,454.0
工学研究科	12,086.0	5,860.0
合計	18,736.0	9,314.0

調査実施年度：2007年度

基準日：調査実施前年度実績

学部・研究科等	T A 従事時間総計	R A 従事時間総計
教育学研究科	2,489.0	0.0
医学系研究科	3,526.0	3,038.0
工学研究科	10,196.0	5,556.0
合計	16,211.0	8,594.0

（大学情報データベース「達成状況判定用入力データ集」）

資料 1-5-3 工学研究科における TA 配置状況 (平成 19 年度)

博士前期課程										
機械工学専攻	電気・電子工学専攻	情報・メディア工学専攻	建築建設工学専攻	材料開発工学専攻	生物応用化学専攻	物理学専攻	知能システム工学専攻	ファイバ・アモティ工学専攻	原子力・エネルギー安全工学専攻	合計
39	31	30	14	52	43	19	39	46	19	332
博士後期課程										
物質工学専攻				システム設計工学専攻				ファイバ・アモティ工学専攻	原子力・エネルギー安全工学専攻	合計
物理学	分子工学	生物応用化学	物質加工学	知識情報システム	電子システム	エネルギーシステム	建築都市システム			
1	7	9	7	1	2	2	3	8	3	43

・ 19 年度より，教員から申請のあった全ての授業に TA を配置した。

(工学部現況調査表より抜粋)

資料 1-5-4 少人数クラスの編成状況

教育地域科学部

科目名	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	備考
学校教育相談研究 (前期)	120 名	71 名	104 名	124 名	4 グループ (最終的には 5~6 名のグループ) に分かれ事例研究
学校教育相談研究 (後期)	119 名	67 名	102 名	128 名	
総合学習研究 (前期)	107 名	124 名	138 名	145 名	9 ブロックに分かれ活動
学習過程研究 (後期)	68 名	142 名	149 名	142 名	

医学部

科目名 (医学科)	構成人数	年度
総合教養ゼミナール	10 名程度 × 9 コース	16 ~ 19 年度
入門チュートリアル	8 名程度 × 13 班	16 ~ 19 年度
チュートリアル 1	"	17 ~ 19 年度
循環器系チュートリアル	"	17 ~ 19 年度
消化器系チュートリアル	"	17 ~ 19 年度
神経系チュートリアル	"	18 ~ 19 年度
基本的診療技能 (医療面接・診断学実習)	8 ~ 9 名程度 × 12 班	18 ~ 19 年度
臨床実習	2 ~ 3 名程度 × 36 班	19 年度
医学英語 5	20 名まで	18 ~ 19 年度
実用医学英語	"	18 ~ 19 年度
科目名 (看護学科)	構成人数	年度
基礎看護学実習	5 ~ 6 名程度 × 10 班	16 ~ 19 年度
基礎看護学実習	"	16 ~ 19 年度
地域看護学実習	1 ~ 5 名程度	16 ~ 19 年度
地域看護学実習	"	16 ~ 19 年度
成人看護学実習	5 ~ 6 名程度 × 10 班	16 ~ 19 年度
成人看護学実習	"	16 ~ 19 年度
老人看護学実習	5 ~ 6 名程度 × 10 班	16 ~ 19 年度
小児看護学実習	"	16 ~ 19 年度
母性看護学実習	"	16 ~ 19 年度
精神看護学実習	"	16 ~ 19 年度
助産学実習	1 名 × 3 ~ 4 施設	16 ~ 19 年度

工学部

科目名	履修者数 (H19)	構成人数	年度
学際実験・実習			16～19年度
(部門)エコロジー & アメニティ	53名	1～15名程度で11班	
デジタルクリエイター	8名	4名程度で1班	
知能ロボット	23名	〃	

(事務局資料)

工学部においては、入学時の全学生を対象としたプレースメントテストの実施とそれを基にした補習授業の適宜開設によって、学生の能力向上に成果を上げている【資料1-5-5～7】。

資料1-5-5 プレースメントテスト(英語の概要)

<p>英語ステップアップ 工学部専門教育を理解するためには、英語は非常に重要です。工学部では、高校の英語で一定のレベルに達していない学生に対して補習授業(英語ステップアップ)を行います。 補習授業は、工学部の正規の科目と連動していて、補習授業に合格しないと連動する正規の科目も合格しません。</p> <p>英語プレースメントテストの実施 ・4月9日(水)9:00～10:20に行われる数学プレースメントテストの後、10:30～11:50に同じ教室で行います。 ・対象は工学部新1年生全員です。(欠席者は、補習授業(英語ステップアップ)の履修が強制されません。) ・内容は、高校英語の基本事項です。問題の解答時間は60分です。 ・マークシート方式で行うので、必ずHB又はBの鉛筆と消しゴム及び学生証を持ってきて下さい。</p> <p>結果発表 ・前期「英語ステップアップ」履修者・履修クラスの指定は、 4月15日(火)各学科掲示板に掲示します。 ・「英語ステップアップ」は、4月16日(水)から開始します。授業時間割は、同封の授業時間割を参照して下さい。</p> <p>英語ステップアップに連動する授業科目</p> <table border="1"> <tr> <td><u>機械工学科</u></td> <td>機械英語</td> <td>3年後期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>電気・電子工学科</u></td> <td>技術英語</td> <td>2年前期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>情報・メディア工学科</u></td> <td>情報技術英語</td> <td>3年後期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>建築建設工学科</u></td> <td>西洋建築文化史</td> <td>2年前期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>材料開発工学科</u></td> <td>技術英語演習</td> <td>4年前期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>生物応用化学科</u></td> <td>科学技術英語演習</td> <td>4年後期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>物理工学科</u></td> <td>外書講読</td> <td>3年後期</td> <td>(必修)</td> </tr> <tr> <td><u>知能システム工学科</u></td> <td>科学英語基礎</td> <td>3年前期</td> <td>(必修)</td> </tr> </table>				<u>機械工学科</u>	機械英語	3年後期	(必修)	<u>電気・電子工学科</u>	技術英語	2年前期	(必修)	<u>情報・メディア工学科</u>	情報技術英語	3年後期	(必修)	<u>建築建設工学科</u>	西洋建築文化史	2年前期	(必修)	<u>材料開発工学科</u>	技術英語演習	4年前期	(必修)	<u>生物応用化学科</u>	科学技術英語演習	4年後期	(必修)	<u>物理工学科</u>	外書講読	3年後期	(必修)	<u>知能システム工学科</u>	科学英語基礎	3年前期	(必修)
<u>機械工学科</u>	機械英語	3年後期	(必修)																																
<u>電気・電子工学科</u>	技術英語	2年前期	(必修)																																
<u>情報・メディア工学科</u>	情報技術英語	3年後期	(必修)																																
<u>建築建設工学科</u>	西洋建築文化史	2年前期	(必修)																																
<u>材料開発工学科</u>	技術英語演習	4年前期	(必修)																																
<u>生物応用化学科</u>	科学技術英語演習	4年後期	(必修)																																
<u>物理工学科</u>	外書講読	3年後期	(必修)																																
<u>知能システム工学科</u>	科学英語基礎	3年前期	(必修)																																

(工学部資料)

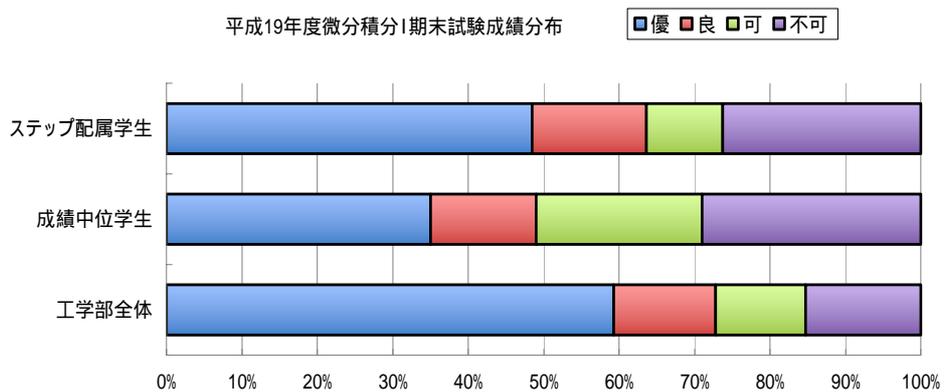
資料1-5-6 平成19年度工学部補習授業一覧と履修者数

科目名	履修者数	
	前期	後期
数学ステップアップ	100名	21名
英語ステップアップ	94名	30名
物理ステップアップ	13名	

(事務局資料)

資料 1-5-7 補習授業の成果

「ステップ配属学生」は、補習受講者を意味する（対象 99 名）。補習を受けた学生は、受けていない成績中位の学生（100 名）と比較して、期末試験の合格率高いだけでなく、優の成績を修める者が多い。補習受講者の入学時のプレースメントテストの平均点は 34.1 点、成績中位の学生は 52.7 点、上位を含めた全体の平均は 65.1 点であった。なお、補習授業の出席率は、例年 95% 前後である。



(工学部数学懇話会資料)

計画 1-6「学生ボランティアの組織化及び施設・設備の充実などを進め、身体障害者学生の学習環境を改善する。」に係る状況

平成 13 年度に設置された障害学生就学支援連絡会議では、障害学生の受け入れに当たり、個々の学生ごとに修学支援ワーキンググループを設置し、本人の希望を反映する配慮、ボランティア学生の配置や科目 T A の配置等、障害学生の修学を具体的に支援した【資料 1-6-1～2】。

資料 1-6-1 障害学生就学支援連絡会議

「障害学生就学支援連絡会議」の整備について

1 整備する理由

現在在学中又は今後入学する身体に障害を有する学生（以下「障害学生」という。）の就学支援に関する基本的事項を検討するため、学長直属の会議として平成 13 年 4 月 18 日に設置した「障害学生就学支援連絡会議」を構成委員を中心に整備する。

2 検討事項

障害学生に対応する支援組織に関する事項

障害学生に対応する施設・設備に関する事項

障害学生に対して本学が行う就学支援の内容に関する事項

その他必要な事項

3 障害学生就学支援連絡会議の構成（平成 19 年 4 月 1 日現在）

学長	福田 優
理事（教育・学生）副学長	中川 英之
理事（経営・大学改革）事務局長	高梨 桂治
教育地域科学部長	黒木 哲徳
医学部長	眞弓 光文
工学部長	鈴木 敏男
保健管理センター長（理事（研究・評価）副学長）	伊藤 春海
共通教育センター長	山根 清志
総務部長	西岡 衛
財務部長	吉田 光則
学務部長	中村 直

（事務局資料）

資料 1-6-2 身体障害者学生に対する修学支援の具体例

平成 16 年 4 月、介助を業務とする団体と介助業務請負契約の締結

平成 13 年 4 月、重度の障害を持つ学生が入学したことに伴い、学生・教職員による学内ボランティア組織を立ち上げ、介助等のソフトウェア的支援、あるいは社会福祉センター職員のボランティアによるトイレ介助等、各種修学支援を行ってきたが、実験系の卒研（4 年次）に対応するため、ボランティア主体で進めてきた支援から介助者による支援が必要である旨学生から要望があり、介助を業務とする団体と、研究室における卒業研究を中心とした 1 日 6 時間の介助業務請負契約を締結した。

その他

聴覚障害の学生への FM 補聴器の貸与

（事務局資料）

平成 16 年度より構内のバリアフリー化を推進し，身体障害者学生の学習施設・設備環境を改善した【資料 1-6-3】。

資料 1-6-3 構内のバリアフリー化



(事務局資料)

計画 1-7「学生相互の交流や課外活動を支援する施設・設備の充実を図る。」に係る状況

学生交流や課外活動を支援するため，平成 17 年度に策定した学内外の課外活動施設等の整備計画を踏まえるとともに，施設の老朽度や緊急度，学生からの要望に基づき，学生会館内の談話室の改修，学生食堂ホール・トイレの改修，テーブル・椅子の更新等を順次行うなど，施設・設備の充実を図った【資料 1-7-1】。

特に，平成 19 年度には，学生から修学環境全般に係るアンケート調査を行い，具体的な整備も含め学生のニーズに対応した【P245 資料 1-7-2～3】。

資料 1-7-1 課外活動施設等の主な改修整備状況



(事務局資料)

資料 1-7-2 課外活動施設等に係る施設・設備的な整備状況（平成 19 年度）

<p>【文京キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館玄関一部の自動ドアへの改修 ・ 体育館のフロア及び更衣室の照明増設，照明の人感センサーへの切り替え ・ 学生宿舎 B 棟・C 棟屋上への物干し場の設置 ・ 厚生会館 2 階トイレの改修 ・ 弓道場施設の一部改修 ・ 大学会館 2 階扉の改修及び廊下の照明増設 等 <p>【松岡キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館の耐震補強工事 ・ 体育館の暗幕修理 ・ 体育館の仕切りネット取替え ・ 野球場の砂入れ整備 等
--

（事務局資料）

資料 1-7-3 学生アンケートに基づく修学環境の整備・充実（文京キャンパス関係）

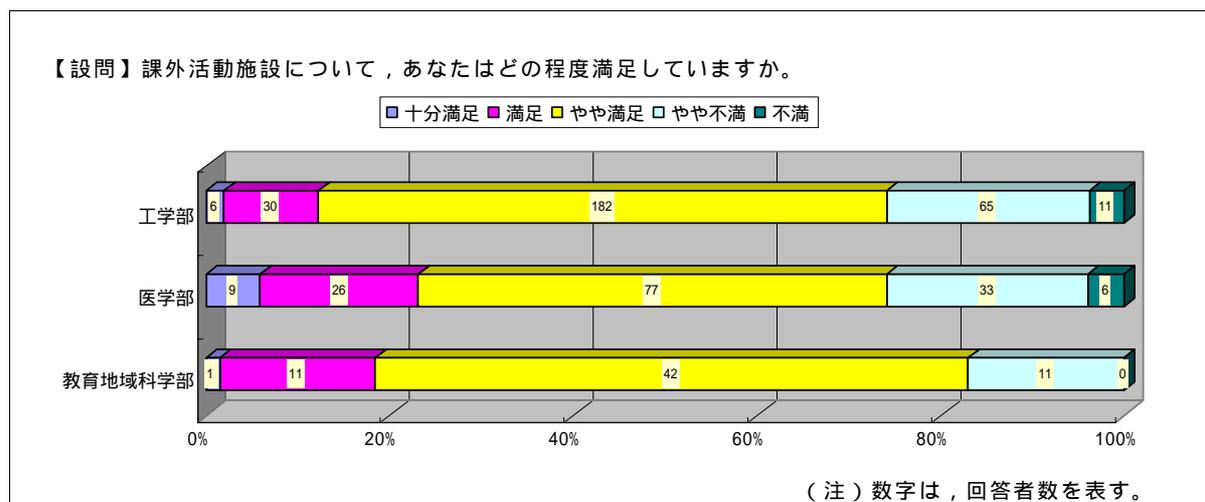
学生の視点による修学環境の改善を図るために、平成 19 年 11 月に両キャンパスにおいて 339 名の学生から聴き取り調査を行った。この結果、計 478 件の意見があり、全ての意見への対応を検討し、一部は実行した上で、学生にその結果を回答した。以下は、文京キャンパスに関する学生相互の交流や課外活動を支援するための意見への対応状況である。

区分	意見・要望等	対応策等
自習室・休憩室	・ 自習室が欲しい。 ・ 試験期間中に空いている教室を自習室として開放してほしい。 ・ 休憩スペース，仮眠室が欲しい。	・ 現在，学生から希望があれば，随時講義室，演習室を貸し出しており，今後は自学自習用として特定の講義室を決めて対応することを検討しています。なお，全学生にノートPC必携とし，学内各所に（無線LAN）アクセスポイントを整備して，自学自習環境の改善を現在検討しています。 ・ 工学部では，1号館1号棟と2号棟の間のピロティに自習室（多目的室）を設けていますので，ご利用ください。 ・ 生協2階にはラウンジがあり，常時50席ほどありますので，ご利用ください。 ・ 将来的には，大学会館改修の中で学習・休憩の多目的利用室としての活用を検討しています。
	・ 生協，食堂の利用時間を延ばしてほしい。 ・ 食堂が狭い，広くしてほしい。 ・ 食堂が混んでいる。席を増やしてほしい。 ・ もう一箇所，学食，又はファーストフード店があるとよい。 ・ 大学周辺にコンビニやファーストフード店があるとよい。	・ 生協も営業時間を延長することを検討していますのでご利用ください。 ・ 食堂を広くすることやもう一つ作ることは財政的，スペース的に難しい状況です。 ・ 大学構内へのコンビニ誘導等については，今後検討します。
	・ 時間つぶしのできるカフェなどがあると良い。	・ 将来的には，大学会館改修の中で学習・休憩の多目的利用室としての活用を検討していますので，それまでは，大学会館1階の談話室及び学部の自習室や生協2階のラウンジスペースをご利用ください。
	・ 生協2階のカフェスペースが十分に機能していない。	・ カフェスペース周辺を整理整頓して，くつろぎスペースとして利用出来るよう生協に申し入れています。
食堂・生協（売店）等	・ みんなで集える場所がほしい（教育地域科学部の前にテーブルを置くとか）	・ 教育地域科学部に限っては，1号館改修工事の関係で，当面学部前にテーブル等集える場所を設置するのは，難しい状況です。 ・ 大学全体の整備の中で検討します。
	・ 売店や，書店がもっと遅くまで開いていると良い。研究などとして遅い時間帯にも利用したい。	・ ショップ満天は営業時間延長を検討しているとのことですが，ブックカフェ明日輪は時間延長検討していないとのことですので，再度生協に申し入れています。
	・ 工学部2号館や総合棟にも自動販売機が欲しい。 ・ パンやカップ麺，アイスクリームの自動販売機を多くしてほしい。	・ 生協に相談して，出来る限り設置する方向で検討します。なお，アイスクリームの自動販売機は以前設置してしたが，ほとんど利用が無いため取り止めたとのこと。再度申し入れています。
	・ サークル棟を午後9時以降や土，日，祝祭日も使用させてほしい。	・ 大会前などに集中的に練習を行いたい等の要望があります。その時には，申請に基づき許可していますので，学生系に相談してください。
サークル・体育館	・ 部活の規模を大きくしてほしい。部室が少ない。	・ 財政的に非常に厳しい状況です。要望については長期計画の中で提案したいと考えています。
	・ グランドの草を刈ってほしい。	・ 年2回，学生系において草刈りを行っています。なお，グラウンド・テニスコート等の使用サークルにも声を掛けていますのでよろしくご協力ください。
	・ 広い芝生スペースがほしい。	・ 教育地域科学部に確保されているので，そちらを利用してください。
	・ テニスコートに照明がほしい。	・ 要望については長期計画の中で検討します。 なお，危険等，緊急を要する場合は対応していく予定です。
	・ 野球場のネットを補修してほしい。	・ 体育館の更衣室・トイレをきれいにしてほしい。
	・ 体育館の更衣室・トイレをきれいにしてほしい。	・ トイレは毎日清掃していますが，建物の年数も相当経過していますので，順次検討の上，整備していく予定です。なお，更衣室・便所の照明器具取替え及び増設を行い，明るいトイレに改善しました。
	・ 体育館をもっと自由に使いたい。 ・ スポーツ施設が欲しい。	・ 現時点では，体育サークル優先となっていますが，使用可能になるよう使用サークルに連絡を取りますので，学生課に相談してください。また，スポーツ施設については財政的に大変厳しい状況ですが，長期計画の中で提案したいと考えます。
・ 土日のアカデミーホール使用について，学生への配慮がほしい。	・ 大会前等の練習で，大学会館及び課外活動施設が予約で詰まっていますので，練習場所が無い場合は相談にのりますので，学生系まで来てください。	

（事務局資料）

課外活動施設の整備状況は学生に概ね好評である【資料 1-7-4】。

資料 1-7-4 課外活動施設の整備に関する学生の満足度



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

b) 「小項目 1」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 学生支援に関わる教務課・学生課・就職支援室・国際課が個別に担当してきた窓口業務を有機的に連携させた「学生支援センター」(文京キャンパス)及び同様な業務を担当する「松岡キャンパス学務室」(松岡キャンパス)の設置,さらにメンタルヘルスも分担する「なんでも相談窓口」の開設,「ほやほや夢ポスト」の設置や「外国人留学生支援会」の設置によって,学習支援を含め学生支援に一括して対応する体制が整備された。
2. 全教員のオフィス・アワーの設定や助言・指導教員制度の活用,TAの積極的活用や少人数クラスの編成,シラバスの利便性向上,「障害学生就学支援連絡会議」等による身体障害者学生の学習環境改善などによって,学習相談・助言・支援の組織的対応が強化された。
3. 学生の視点に立った修学環境の整備を行うために全学的な調査を行い,その結果を踏まえ,学生の期待に応えたきめ細かな修学環境支援が行われている。
4. これら取組により,学生の学習活動展開の基盤となる学習支援体制が整備された。

小項目2「社会人や留学生を含めて、全学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるように、学生相談や経済的支援の体制を強化する。」の分析
a)関連する中期計画の分析

計画 2-1「保健管理センターや学生相談室の機能を強化する。」に係る状況

保健管理センターは、所長（副学長）以下、それぞれのキャンパスに医師，カウンセラー，看護師，学校医を必要数配置し，学内教員や地域社会の支援を得る形で機能強化に努めてきた。特に，精神的・身体的な健康相談については，専門医の協力を得て，平成 18 年度には 3,520 件に対応し，十分な支援が行えた【資料 2-1-1～3】。

さらに学生相談室では，平成 17 年度に「何でも相談窓口」を設置し，就職相談，修学相談，健康相談等の案内窓口としてすべての相談に対応できる体制を構築し，平成 19 年度には，9,323 件の相談に対応した【P234 資料 1-3-3】。

資料 2-1-1 保健管理センター，学生相談室の機能強化

機能強化の取組	具体的な事業
定期検診等の受診率向上， 特殊健康診断の充実等	<ul style="list-style-type: none"> ・定期検診等の学生への周知連絡方法の複数媒体活用 ・実験，研究において身体に有害な物質を継続して使用する学生に対する特殊健康診断の実施 ・留学生健康診断受診率向上のための改善の実施
精神的，身体的健康相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の内科相談，心理・学生相談，保健相談に加え，医学部の協力を得て，文京キャンパスでの精神科医（H17.12～：月1回，H18年度～：月2回），産婦人科医（H18.9～，月1回）の相談・診療開始 <p>精神科医のコメント 「専門医としての月2回の相談・診察の必要性を痛感している。」</p> <p>産婦人科医のコメント 「どこを受診して良いか分からなかったり，どんな診察があるのか不安だったり，今まで思いとどまっていた者が多い印象を受ける。」</p>
心理・学生相談機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談と連携を図るため，カウンセラーが学生相談室相談員，同運営委員会委員として企画等に参加する体制の構築 ・不登校や引きこもり学生の立ち上がり支援のためのネットワーク構築 ・心身の健康教育を進めるための講演，講義の実施 ・カウンセラーの定期的面接等，学業不振者へのメンタルヘルス支援
健康に係る啓発等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころの健康」をテーマにした公開シンポジウム等の開催 ・AED設置（文京キャンパス5台，松岡キャンパス2台）に伴う救命救急講習会の開催
環境衛生・伝染病予防に係る指導強化	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため，附属病院感染制御部等との連携強化 ・感染症対策のため，他各学部の特性に応じた検査，ワクチン接種等の実施
健康増進に係るその他の専門業務	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外に対する教育活動，社会貢献

（事務局資料）

教育 4

中項目 4 学生の支援「計画 2-1」

資料 2-1-2 健康相談業務内容

文京キャンパス

相談内容	相談日	受付時間
健康相談 (内科医師)	月曜日～金曜日	8:30～17:00 予約制
健康相談 (泌尿科医師)	第1・3月曜日	10:00～12:00 予約制
健康相談 (婦人科医師)	第4木曜日	16:00～18:00 予約制
カウンセリング (臨床心理士)	月曜日～金曜日	8:30～17:00 予約制
一般相談 (看護師・保健師)	月曜日～金曜日	8:30～17:00

※医師に相談を希望される時は前もって事務室までご連絡下さい。
 ※保健管理センターから他の医療機関へ紹介した場合、保険証が必要です。
 ※親元を離れている方は、遠隔地扶養者保険証を取り寄せておかないと全額個人負担となります。
 ※血圧計、視力計、握力計、身長体重計等の測定機器があります。自由にご利用ください。

カウンセリングの予約は、電話、手紙、メールでも結構です。
 <事務室> 看護師・保健師
 TEL:0776-27-8513 内線2261
 <教官室> カウンセラー(臨床心理士)
 e-mail: i030077@u-fukui.ac.jp

松岡キャンパス

相談内容	相談日	受付時間
健康相談 (内科医師)	第1・2・3金曜日	15:00～17:00 予約制
健康相談 (整形外科医師)	第2・4 火曜日	16:00～17:00 予約制
健康相談 (産婦人科医師)	第1・3 水曜日	16:00～17:00 予約制
健康相談 (精神科医師)	第1・3 水曜日	17:00～18:00 予約制
カウンセリング (臨床心理士)	月曜日～金曜日	9:30～17:00
一般相談 (看護師・保健師)	月曜日～金曜日	9:00～17:00

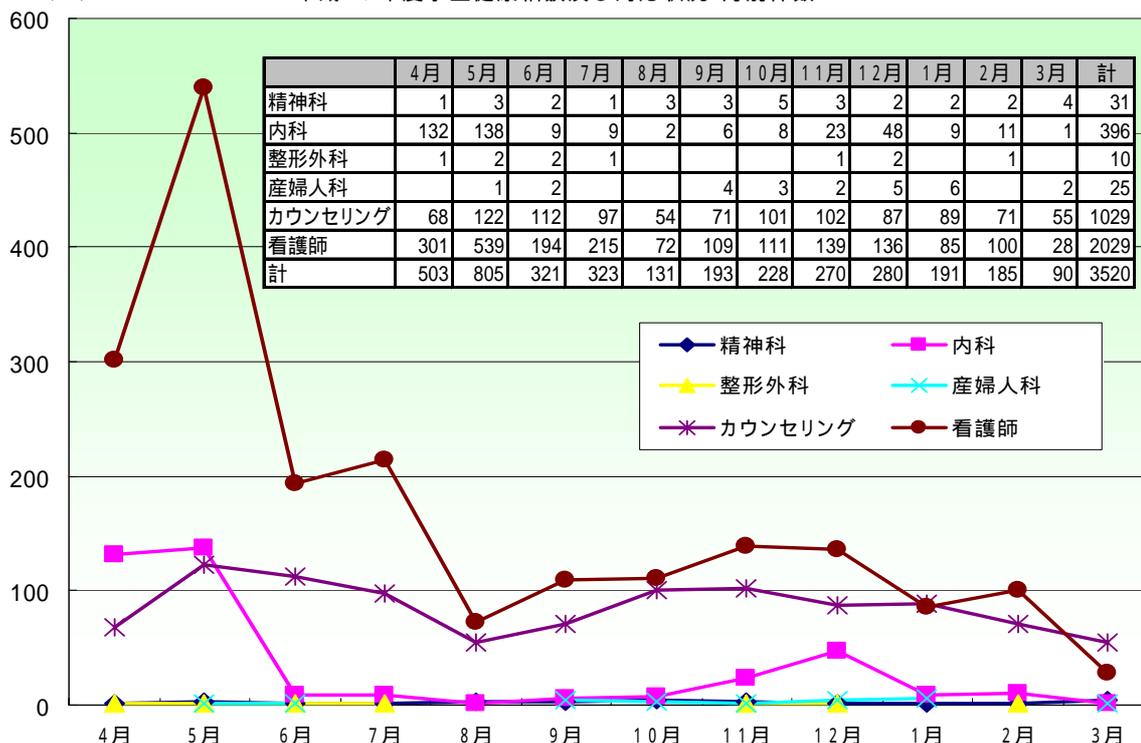
※医師に相談を希望される時は前もって事務室までご連絡下さい。

口頭ないしは電話やEメール、センター玄関口の相談箱への投書でも結構です。
 <事務室> 看護師・保健師
 TEL:0776-61-8575 内線2122
 <教官室> カウンセラー(臨床心理士)
 TEL:0776-61-8567 内線2121
 e-mail:hoken@fmsrsa.fukui-med.ac.jp

(本学HP「保健管理センターHP」より)

資料 2-1-3 学生健康相談件数

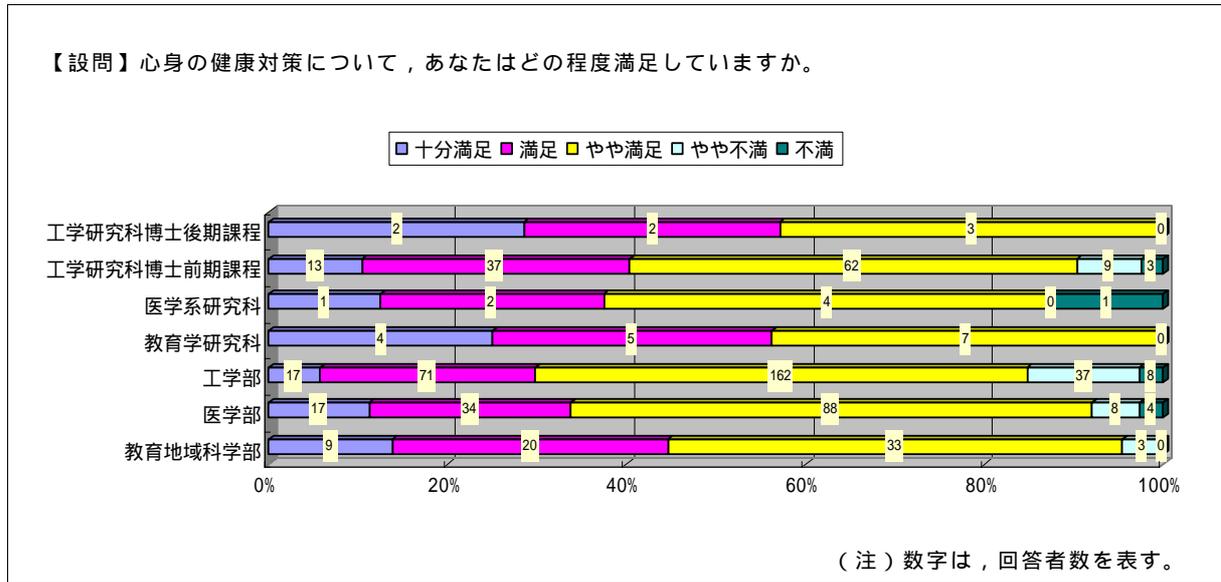
(人) 平成 18 年度学生健康相談及び対応状況 月別件数



(保健管理センター資料)

「心身の健康対策」に学生は概ね満足している【資料 2-1-4】。

資料 2-1-4 「心身の健康対策」に関する学生の満足度

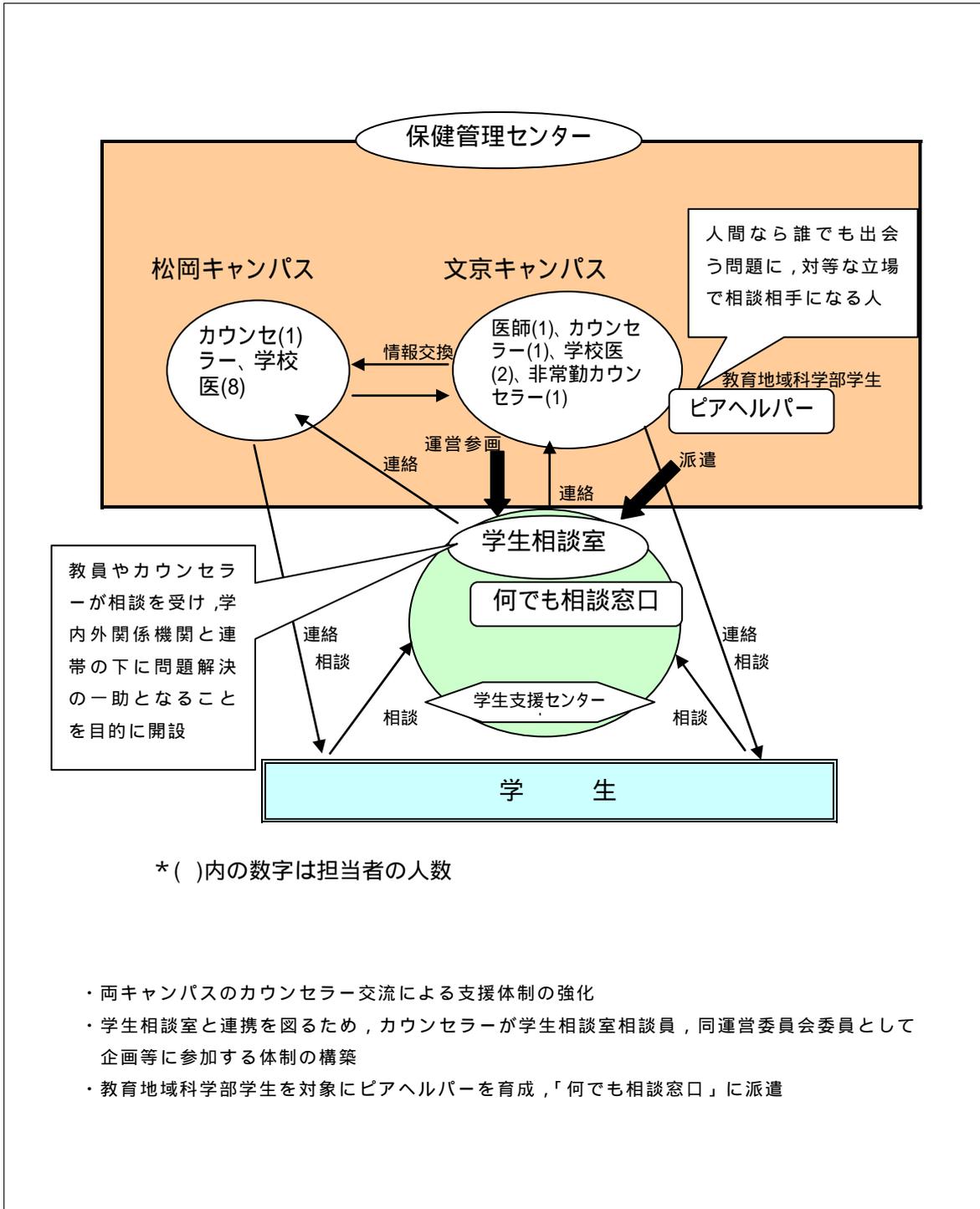


(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

計画 2-2「学生のメンタルヘルスのために保健管理センターを中心とした組織体制の充実を図る。」に係る状況

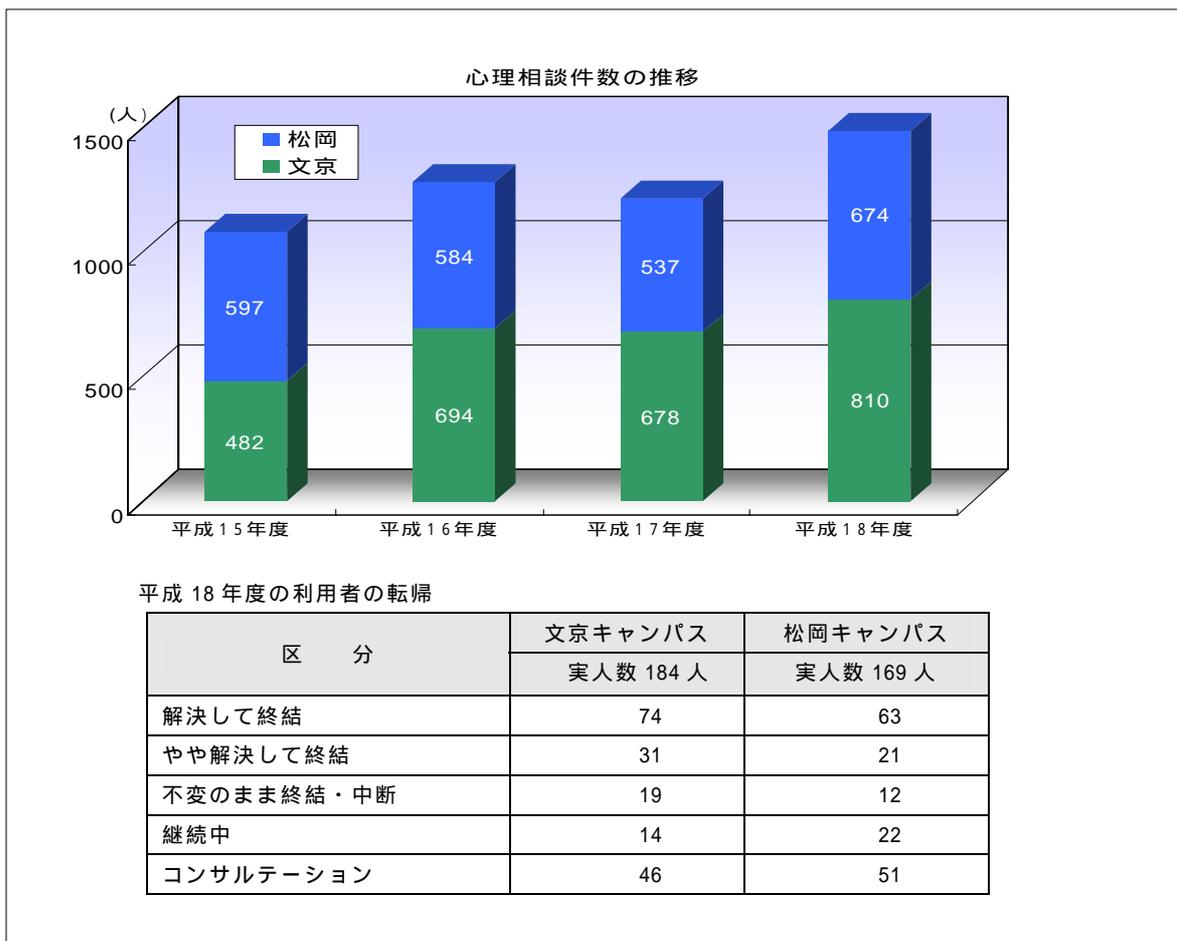
両キャンパスの保健管理センター所属カウンセラーの交流，学生相談室との連携，ピアヘルパーの育成・派遣等により学生のメンタルヘルスのための組織体制を充実した【資料 2-2-1】。これにより，年毎に増加するメンタルヘルス相談に十分な対応を行い，解決に導いている【P251 資料 2-2-2】。

資料 2-2-1 メンタルヘルスのための体制整備



(事務局資料)

資料 2-2-2 心理相談延件数



(保健管理センター自己点検評価報告書抜粋)

保健管理センター医師，カウンセラー，看護師及び事務職員より構成される「実務者会議」及び各キャンパスのカウンセラーによる「意見交換会」をほぼ毎月1回開催するとともに，支援の必要な学生について症状等の理解を深めるため，カウンセラー，教員，精神科医及び大学院生との「文献講読会」を定期的で開催し，学生支援体制を強化した【資料 2-2-3】。

資料 2-2-3 実務者会議での学生に係るテーマ等

平成19年度は，以下のテーマ等で計9回開催した。

- ・ 新入生（学部学生）UPI 調査一次報告
- ・ 定期健康診断について
- ・ 平成19年度学生支援プログラム申請について
- ・ 年報について
- ・ 第9回救急救命講習を終えて
- ・ 麻疹，風疹の予防対策について
- ・ こころの健康のための資料について
- ・ 感染症予防対策について

(保健管理センター資料より抜粋)

計画 2-3 「教職員に対し、学生相談に対応できる能力を養うための研修を行う研修会を開催する。」に係る状況

教職員を対象として、学生相談に対応できる能力等を涵養するための研修の一環として、「学生指導研究会」を定期的で開催した。参加者からは研修の有用性が評価された【資料 2-3-1】。

資料 2-3-1 学生指導研究会の実施状況

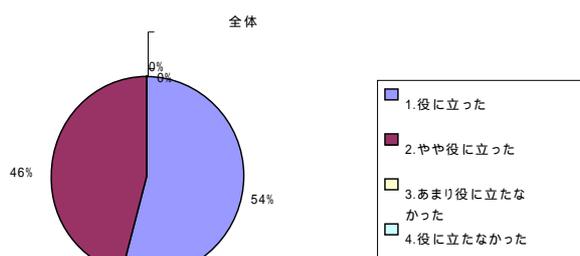
平成15年度	【講演】 法人化後の学生支援の在り方について:伊藤 正文(名古屋大学 副総長) 【協議題】 法人化後の学生支援の在り方について	平成15年9月24日
平成16年度	【講演】 早稲田大学人間科学部におけるe-schoolの実施と評価:野嶋 栄一郎(早稲田大学人間科学部 教授) 【協議題】 各学部のカリキュラムの現況と課題について	平成16年9月14日
平成17年度	【講演】 高等学校における進路指導について:東光 正浩(アドミッションセンター 客員教授) 【講演】 大学生のメンタルヘルスケアについて:梅澤 有美子(保健管理センターカウンセラー) 【協議題】 大学の導入教育について	平成17年9月12日
平成18年度	【講演】 留学生相談の現状と課題について:中島 清(留学生センター 教授) 【協議題】 福井大学外国人留学生支援会の発足に当たって	平成18年9月13日
平成19年度	【講演】 福井大学災害ボランティア活動支援センターの教育支援活動:福井 卓雄(災害ボランティアセンター副センター長) 【講演】 自己教育力の醸成を促す総合的な学生支援:本田 知己(機械工学専攻 准教授)	平成19年9月19日

平成 19 年度学生指導研究会 参加者 アンケート 結果

- 1) 実施日:平成 19 年 9 月 19 日
- 2) 参加者数 33 名
- 3) 回答者 26 名
- 4) 回答率 78.8%

問 1 あなたにとって、今回の研究会は、学生の教育及び学生生活上の諸問題を把握し、学生に対して適切な指導助言を行う上で、どの程度役に立ちましたか。

- 1.役に立った 14 名, 2.やや役に立った 12 名, 3.あまり役に立たなかった 0 名
- 4.役に立たなかった 0 名



5) 参加者からのコメントの一例

【教員】

- ・私自身、授業は教育の実験と心得、いろいろなことを試みてきましたが、情報の共有の必要性を感じている。
- ・大学で行われている様々な試みを知るきっかけとなり、情報の共有に役立った。
- ・具体的な問題解決法の発見は未だ難しいが、効果の検証と共に新しく発展させていくことが重要に思われた。

【事務職員】

- ・学生生活上の諸問題を一緒に考えるという意味でとても大切な研究会だと思う。
- ・各学部の状況、要望事項の共有ができてよかった。
- ・大学内でのすばらしい取組について、先生方の努力がよくわかり非常に参考になった。

(事務局資料より)

保健管理センターが中心になって教職員及び学外者を対象に、近年の大学生についての理解を深め、特に現代の社会問題の一つである「こころの健康」の涵養支援のための研修会を平成17年度より定期的を開催した【資料2-3-2】。

資料2-3-2 こころの健康に関する講演会などの開催状況

年度	日時	内容及びテーマ		参加人数
平成17年度	平成18年 2月17日 (金)	保健管理センター・ 公開講演会	「こころの健康とニート問題」 キャンパス・メンタルヘルスへのアプローチ	54
	平成18年 3月2日 (木)	保健管理センター・ 公開シンポジウム	「こころの成長と職業観形成支援」 キャンパス・メンタルヘルスへのアプローチ	44
平成18年度	平成18年 11月24日 (金)	保健管理センター・ 公開講演会	「笑い与健康」 おおいに笑いましょう	100
	平成18年 12月9日 (土)	保健管理センター・ 公開シンポジウム	「若者のこころの成長とキャリア形成を支援する取り組み」 こころの健康について考える	37
	平成18年 12月23日 (土)	保健管理センター・ 公開シンポジウム	「若者のこころの成長とキャリア形成を支援する取り組み」 こころの成長について考える	60
	平成19年 2月15日 (木)	保健管理センター・ 公開シンポジウム	「若者のこころの成長とキャリア形成を支援する取り組み」 就職とニートについて考える	38
平成19年度	平成19年 6月29日 (金)	キャンパス・メンタルヘルス研修会	「文京地区の現状と問題点」 「学生から受ける印象」 「現状を踏まえた意見交換」	25

参加者のコメント

- ・心と思考と言葉と自分が感じるもの、発するものについて深く考えることができました。
(学生 平成18年12月9日)
- ・データにより新しい解釈を得ることができました。青年期像は、この10年で大きく変化している事実を、教える側が知り発達支援者として、相互に成長するものとして関与していけたらと思う。
(大学教員 平成18年12月23日)
- ・自分の若いときは、社会が変わったということが理解でき、若い人たちの考え方が変わったのだから自分たちの接し方も勉強していかなければならないと思った。
(保護者 平成19年2月15日)

(保健管理センター資料)

計画 2-4「大学教育入門セミナーの内容や新入生合宿研修を充実する等，大学生活への早期適応を支援する。」に係る状況

学生の大学生活への早期適応を支援するため，「大学教育入門セミナー」を開講し，さらにボランティア等に関する共通講義を追加するなど充実を図った。なお，当該セミナーは学生から好評を得ている【資料 2-4-1～3】。

資料 2-4-1 大学教育入門セミナー

大学教育入門セミナーは，大学生活へスムーズに導入するための 6 回の共通講義と，各学科の特徴に応じ，勉学意欲を高める 9 回の個別授業で構成されている。

1 年生前期の 2 単位必修科目。



大学教育入門セミナーを充実するため，次のような改善を行った。

共通講義の充実

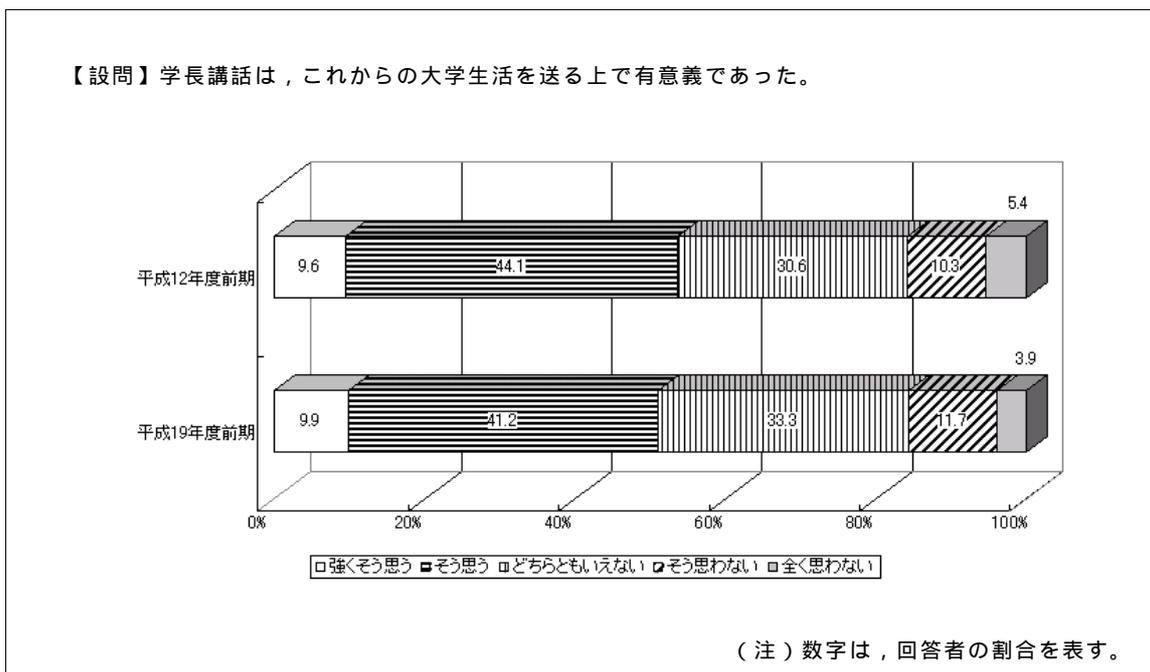
- ・平成 16 年度 共通講義を 5 回から 6 回に充実

講義内容の充実

- ・学部長講話の実施
- ・外部講師による，ボランティアに関する講義の実施
- ・ハラスメント防止対策専門部会委員による，ハラスメントに関する講義

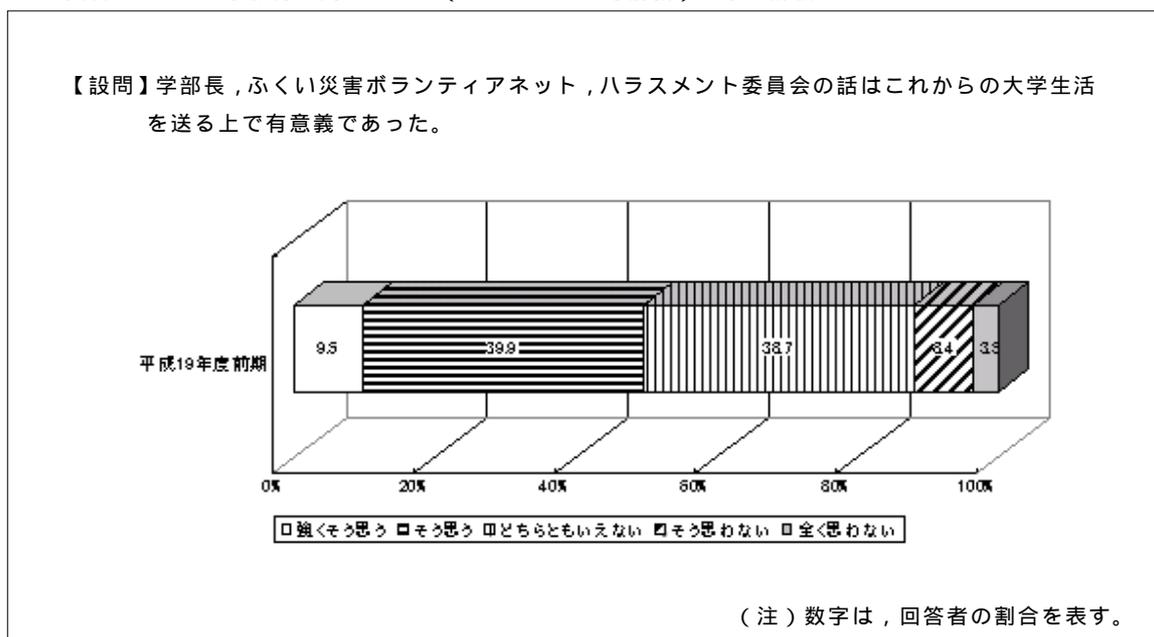
(共通教育センター資料)

資料 2-4-2 大学教育入門セミナー（学長講話）の学生評価



(共通教育センター資料)

資料 2-4-3 大学教育入門セミナー（ボランティア等講義）の学生評価



(共通教育センター資料)

新入生の大学生活への早期適応を図るため、各学部・学科ごとに1泊の新入生合宿研修を適宜改善しつつ実施した【P256 資料 2-4-4～5】。これら合宿研修は新入生から好評を得ている【P257 資料 2-4-6】。

資料 2-4-4 新入生合宿研修実施状況（平成 16 年度～平成 19 年度）

実施年度	学部	課程・学科	期日	参加数 (人)
平成 16 年度	教育地域科学部	学校教育課程発達科学系 3 コース	5 月 15 日～16 日	38
	医学部	医学科・看護学科	5 月 11 日～12 日	155
	工学部	機械工学科	4 月 9 日～10 日	104
		電気・電子工学科	4 月 16 日～17 日	105
		情報・メディア工学科	4 月 9 日～10 日	100
		建築建設工学科	4 月 23 日～24 日	109
		材料開発工学科	4 月 16 日～17 日	116
		生物応用化学科	4 月 23 日～24 日	110
		物理工学科	4 月 17 日～18 日	80
知能システム工学科	4 月 16 日～17 日	90		
平成 17 年度	教育地域科学部	学校教育課程発達科学系 3 コース	5 月 14 日～15 日	40
	医学部	医学科・看護学科	5 月 10 日～11 日	154
	工学部	機械工学科	4 月 15 日～16 日	113
		電気・電子工学科	4 月 15 日～16 日	120
		情報・メディア工学科	4 月 8 日～9 日	107
		建築建設工学科	4 月 22 日～23 日	110
		材料開発工学科	4 月 16 日～17 日	116
		生物応用化学科	4 月 22 日～23 日	84
		物理工学科	4 月 16 日～17 日	76
知能システム工学科	4 月 16 日～17 日	100		
平成 18 年度	教育地域科学部	学校教育課程発達科学系 3 コース	5 月 13 日～14 日	38
	医学部	医学科・看護学科	5 月 9 日～10 日	154
	工学部	機械工学科	4 月 14 日～15 日	108
		電気・電子工学科	4 月 14 日～15 日	120
		情報・メディア工学科	4 月 14 日～15 日	100
		建築建設工学科	4 月 14 日～15 日	100
		材料開発工学科	4 月 14 日～15 日	116
		生物応用化学科	4 月 21 日～22 日	84
		物理工学科	4 月 14 日～15 日	85
知能システム工学科	4 月 14 日～15 日	110		
平成 19 年度	教育地域科学部	理数教育コース	4 月 21 日～22 日	45
		学校教育課程発達科学系 3 コース	4 月 27 日～28 日	35
	医学部	医学科・看護学科	5 月 8 日～9 日	154
	工学部	機械工学科	4 月 13 日～14 日	102
		電気・電子工学科	4 月 13 日～14 日	111
		情報・メディア工学科	4 月 13 日～14 日	90
		建築建設工学科	4 月 14 日～15 日	88
		材料開発工学科	4 月 13 日～14 日	94
		生物応用化学科	4 月 20 日～21 日	93
物理工学科		4 月 13 日～14 日	90	
知能システム工学科	4 月 13 日～14 日	110		

(事務局資料)

資料 2-4-5 合宿研修の改善例

(教育地域科学部)

- ・発達科学系 3 コースの実施に加えて、平成 19 年度から理数教育コースへも実施を拡大した。また、教育問題に関するビデオ鑑賞を行った討論会や、外部講師による講演会を実施し、内容の充実を図った。

(医学部)

- ・新入生合宿研修に医学部生として知っておかなければならない救急措置の講義・実習を新規に取り入れて、内容の充実を図った。

(工学部)

- ・少しでも早く大学生活に慣れるように、ゲームやスポーツ交流を重点的に実施してきた。また、外部講師による講演、就職状況説明、学生生活上の説明及び学科ガイダンス等、内容の充実を図った。

(事務局資料)

資料 2-4-6 平成 19 年度新入生合宿研修参加学生からのコメント

- ・上級生・先生方の体験談が聞けて大変良かった。(教)
- ・ディスカッションばかりすると聞いていたので、少し不安だったけど、すごく中身が濃く充実し、とても楽しい 2 日間になったので、この合宿に参加することが出来て良かったと思います。(教)
- ・同学年の人達との交流で、これからの学校生活での支えになると思いました。(医)
- ・班別討議において、世代間を問わない活発な交流が行われて、普段、交流のない同級生とも交流ができた。(医)
- ・これから大学で学ぼうとしていることの壮大さを実感した。(工)
- ・グループ別発表会はグループメンバーと仲良くなれる機会だし、プレゼンの練習としても面白かったです。(工)
- ・友達との親密さをより増すことができ、先輩や先生方の貴重な話を聞くことができた。楽しいと共に、これからの大学生活を送る上でも意義のある合宿だった。
- ・同じクラスにいながら今まで知らなかった人達と知り合えたこと、討論でみんな真剣に話し合い様々な意見が聞けて新鮮で、自らの見識が深まりました。(医)
- ・班の中で、すてきなまとまり(協力体制)がとれてよかったです。(医)
- ・医者や医療に対する素朴な考えを聞くことができ、有意義だった。(医)



新入生合宿研修の様子

(事務局資料)

計画 2-5 「長期履修制度の拡大を図る。」に係る状況

長期履修制度について、工学研究科が平成 15 年度に導入以来、学生の要望に応えるため全ての研究科に導入し、活用されている【資料 2-5-1～3】。

資料 2-5-1 全学の長期履修制度

福井大学大学院長期履修学生規程（平成 16 年 4 月 1 日 福大規程第 62 号）抜粋

（趣旨）

第 1 条 この規程は、福井大学大学院学則（平成 16 年福大規程第 2 号。以下「大学院学則」という。）第 35 条の規定に基づき、長期履修学生について、必要な事項を定める。

（長期履修期間）

第 2 条 本学大学院が、長期履修学生に対し、その計画的な履修を認める期間（以下「長期履修期間」という。）は、教育学研究科修士課程、医学系研究科修士課程及び工学研究科博士前期課程においては 4 年以下、医学系研究科博士課程及び工学研究科博士後期課程においては 6 年以下とする。

（福井大学規則集より）

資料 2-5-2 教育学研究科の規程

福井大学大学院教育学研究科規程（抜粋）

（夜間主コース及び夜間主・学校改革実践研究コース）

第 2 条の 2 各専修に夜間主コースを、学校教育専修及び障害児教育専修に夜間主・学校改革実践研究コースを置く

（教育方法の特例）

第 6 条 教育学研究科における授業及び研究指導は、教育学研究科委員会が教育上特別の必要があると認める場合は、夜間その他特定の時間又は時期において行うことができる。

2 現職教員等の社会人である学生で、前項に規定する教育方法の特例による授業又は研究指導を受けようとする者は、書面をもってその旨教育学研究科長に願い出て、その許可を受けなければならない。ただし、夜間主コース及び夜間主・学校改革実践研究コースの学生については、この限りでない。

（長期履修学生）

第 6 条の 2 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを申し出たときは、教育学研究科委員会の議を経て、長期履修学生としてその計画的な履修を認めることができる。

（福井大学規則集より）

資料 2-5-3 長期履修制度の活用状況

（人）

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
教育学研究科（M）	3	0	1	6	8
医学系研究科（M）				1	1
〃（D）				0	0
工学研究科（M）	0	0	2	0	1
〃（D）	1	0	1	1	1

備考：各年度の人数は新規利用者数

（事務局資料）

教育学研究科において、長期履修制度を適用した3年間履修の教員免許取得プログラムを導入(平成18年度)し、社会人の入学者が増加した【資料2-5-4】。

資料2-5-4 教育職員免許取得プログラム実施状況

入学年度 専修	氏名	入学前取得免許	許可免許	備考
		取得希望免許		
平成19年度 学校教育	A	なし 小学校1種, 中学校(国語・英語)1種, 高校(国語・英語)1種	小学校1種	
平成19年度 障害児教育	B	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種	小学校1種	
平成19年度 数学教育	C	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種
平成19年度 英語教育	D	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成19年度 英語教育	E	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成18年度 学校教育	F	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種, 高校 (英語)1種	小学校1種	
平成18年度 障害児教育	G	なし 小学校1種, 中学校(数学)1種, 高校 (数学)1種, 養護学校1種	中学校(数学) 1種	
平成18年度 数学教育	H	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種

(教育地域科学部現況調査表)

計画 2-6 「入学料・授業料免除の方法の改善など奨学制度の充実を検討する。」に係る状況

入学料・授業料免除の審査に当たり、入学前の学校の成績が用意できない者のために入試成績を利用して成績を審査するという緩和策を平成 16 年度に導入したほか、社会人入試における成績優秀者に一定数の授業料免除を行う制度を平成 19 年度に新設した【資料 2-6-1～2】。

資料 2-6-1 授業料等の免除制度

福井大学入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する規程（抜粋）	
（平成 16 年 4 月 1 日 福大規則第 68 号）	
（大学院入学時成績優秀による場合）	
第 10 条の 2 優秀な成績で大学院に合格した者については、当該研究科長の推薦及び本人の申請に基づき、委員会の議を経て、学長は、入学後の授業料を免除することができる。	
2 免除の許可を受けようとする者は、所定の期日までに、授業料免除申請書に保証人が連署し、次の各号に掲げる書類を添えて学長に申請するものとする。	

（福井大学規則集より）

資料 2-6-2 優秀な成績の入学者

現職教員等，企業等に勤務する者で入学試験選抜等における優秀な成績の入学者		
平成 19 年度実績	前 期	後 期
授業料半額免除	10 名	11 名
工学研究科博士前期課程特別選抜（推薦入試）において優秀な成績で合格した者		
平成 19 年度実績	前 期	後 期
授業料半額免除	20 名	20 名

（事務局資料）

本学の前田征利理事からの寄付金による新たな奨学金制度の創設(平成 19 年度)、卒業後の福井県嶺南地区への医師就職を条件とした医学部学生対象の奨学金制度(平成 19 年度)、基礎医学研究者を目指す医学系研究科大学院生対象の奨学金制度(平成 19 年度)を整備した。さらに、「緊急医師確保対策」の一環として、卒業後の県内医療機関勤務を条件とした医学科学生への奨学金(福井県が措置)支給が計画されている【資料 2-6-3～6】。

資料 2-6-3 本学独自の奨学制度

福井大学前田征利奨学金		
1) 資格：成績優秀・健康状態良好	学部学生 3 名	学部生
2) 対象者：学部長及び研究科長から推薦された者（留学生を除く）	大学院生 3 名	4 万円/月額 大学院生
3) 対象学年：最終学年の者		7 万円/月額
嶺南医療振興財団医学生奨学金貸与事業		
平成 19 年度からの事業開始		
1 人当たりの貸与金額は、年額 1,753,800 円（1 年生のみ 2,117,800 円）		
平成 19 年度実績	医学部医学科学生 6 名	貸与金額 10,886,800 円

（事務局資料）

資料 2-6-4 前田征利奨学金受給者からのコメント

学生 A：専攻している分野も年齢も違う方々と話すことにより、物事をいろいろな角度からみることができるようになり、視野が広がりました。まだまだ今回だけでは話足りない思いですので、またこのような機会があれば是非参加させてもらいたいと思いました。

学生 B：(社長は)ご自身の中に強い信念を持った方で、多くの分野に興味をお持ちだということも感じた。強い信念を持つことは、これから自分が社会に出ていく上で非常に大切なことであり、多くのことに興味を持つことは、自分に魅力を持たせることにつながるのだと感じました。

学生 C：前田社長、福井大学職員の方々や福井大学の学生の方々とは、普段ではお会いする事がなかったと思います。今日会えて本当によかったですし、こういった縁を大切にしたいと感じました。

学生 D：ほんの数時間の懇談でしたが、社会の大先輩から大きなエールをいただき、これから先の学業、またその先の将来に向けてより一層努力していこうと思いました。ありがとうございました。

(事務局資料)

資料 2-6-5 医学生奨学金

奨学金貸与事業について

財団法人 嶺南医療振興財団

医学生奨学金貸与事業

当財団は、福井県嶺南地域の医療を担う医師確保のため、医療関係機関ならびに医療関係者の支援を行う事により、嶺南地域の医療の振興に寄与することを目的として設立いたしました。
この目的を達成するため、平成19年度より「医学生奨学金貸与事業」を実施いたします。

事業の概要

1. 事業内容
将来、福井県嶺南地域の公的な病院および診療所に勤務しようとする、福井大学医学部医学科生および福井県内の高校を卒業した医学部医学科生へ奨学金を貸与する。
2. 人数
50名【毎年5名程度の新入学生】
〈平成19年度は2・3年生も対象に募集〉
3. 事業期間
平成19年度から平成31年度の予定

(嶺南医療振興財団HPより)

資料 2-6-6 基礎医学研究者育成奨学金

大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項
平成 20 年 3 月 6 日 博士課程委員会

(趣旨)

第 1 この要項は、大学院医学系研究科博士課程における基礎医学系分野(基礎医学及び社会医学系分野をいう。以下同じ。)の研究者育成を図ることを目的とし、当該分野に入学した学生に給付する奨学金について必要な事項を定める。

(対象)

第 2 この奨学金は、日本の医学部医学科を卒業し、かつ、基礎医学系分野に入学し、将来基礎医学系研究者を目指す学生に給付する。ただし、社会人大学院生で常勤職員として本務先を有する者は除く。

(奨学金の申請)

第 3 前項の資格を有する学生が、奨学金給付を希望する場合は別に定める申請書を医学系研究科長に提出するものとする。

(給付の決定)

第 4 医学系研究科長は、奨学金給付の申請があった場合には、博士課程委員会の議を経て、給付の有無を決定する。

(奨学金の額及び給付方法)

第 5 奨学金の額は「国立大学法人福井大学における授業料その他の費用に関する規程(平成16年福大規則第26号)」に規定する、大学院生の入学金及び授業料相当額とする。

2 奨学金の給付は、学生が入学料または授業料を支払った後、事務が支払い済みであることを確認して当該学生の指定した口座に振り込むものとする。

3 入学料相当額については入学手続き後、授業料相当額については、年額の二分之一をそれぞれ4月及び10月の授業料納付期間後に支払い済みの確認を行い速やかに振り込むものとする。

(給付期間)

第 6 授業料相当額は基礎医学系分野に入学後4年間分、入学料相当額は1回限りとする。

2 留学等のため休学した場合は、休学許可期間の給付を中断する。

3 入学後の在学期間が4年を超えた場合、または退学した場合は、給付を中止する。

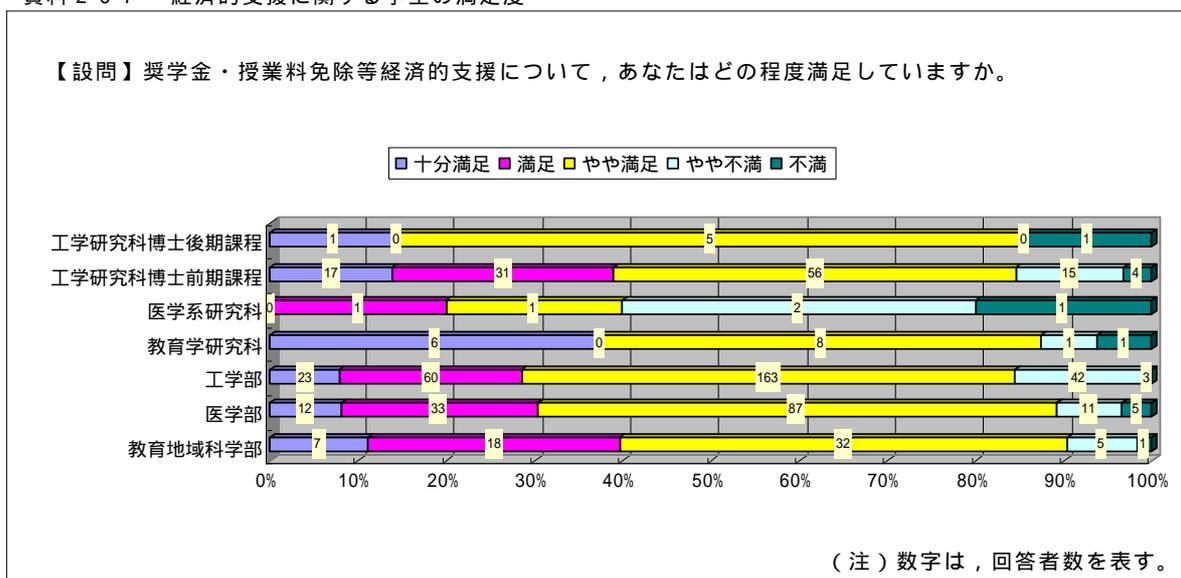
(奨学金の返還)

第 7 奨学金は、返還を要しない。

(事務局資料)

本学の経済的支援は学生に概ね好評である【資料 2-6-7】。

資料 2-6-7 経済的支援に関する学生の満足度



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 学生の生活相談に適切に対応するため、学生支援センター内の「何でも相談窓口」の設置や教職員に対する研修会を定期的実施するなど、組織的生活指導体制が構築された。その結果、年間数千件にも及ぶ学生からの様々な相談に対応できた。保健管理センターを中心とした学生のメンタルヘルスケアに対する支援体制が強化された。その結果、年々増加する心理相談件数に適切に対応し、多くが解決をみたことは特記される。

これらの取組により、心身とも健康で充実した学生生活が送れるよう、学生相談の体制が強化された。

2. 社会人入試における成績優秀者に一定数の授業料免除を行う制度の新設など、より学生に恩恵があるよう入学金・授業料免除の制度を改善した。さらに、中期計画期間内に 3 件の奨学金制度を創設した。これらの取組を含め、経済的支援は学生から好評を得ている。

小項目3「学生が将来を見通し意欲的に学生生活を送れるように、就職支援や進路相談の体制を強化する。」の分析

計画 3-1「インターンシップを取り入れるなど、実社会体験の機会を拡充する。」に係る状況

将来を見通す一環として実社会体験の機会を拡充することとなる、様々なインターンシップ制度を整備した【P44 資料 1-8-1】。

教育地域科学部及び工学部では、学部学生を対象に、就業体験を目的に単位を認定する授業科目としてインターンシップ(1単位)を実施しており、学生の就業意欲の向上に役立っている【資料 3-1-1】。

資料 3-1-1 教育地域科学部の地域実践科目インターンシップ実施状況例

コース名	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
生涯学習			大野市役所1		
異文化			福井県文化振興事業団1 福井放送株式会社1 福井県奥越高原牧場1 鯖江市役所1 福井県立図書館1 金津創作の森1 福井県国際政策課1 福井市みどり図書館1 株式会社アイビックス1	福井県立病院1 福井県国際マーケット戦略課1 福井テレビジョン放送株式会社1 福井県民生活協同組合1 福井県立図書館1 金津創作の森1 春江図書館1 敦賀市役所商工観光課1 株式会社親和コンサルティング1	福井ヤクルト販売株式会社1 福井県国際交流協会1 福井銀行5 福井県立美術館2 福井県 税務課1 福井県国際・マーケット戦略課1 勝山市役所福祉・児童課1 福井県文化振興事業団1 福井市立みどり図書館1
行政社会	福井銀行1 セーレン1 ホームみつわ1	ラプリー牧場1 マリージョゼ1 永田司法書士事務所1 神田司法書士事務所1 特別養護老人ホーム1	越前松嶋水族館1 株式会社日刊県民福井1 三国町役場1 福井県文化振興事業団1 敦賀市役所 市民生活部生活防災課1 ラプリー牧場1	永田司法書士事務所1 社会福祉法人足羽福祉会愛全園 財団法人福井県文化振興事業団	福井県 販売開拓課1
地域環境	県衛生環境研究センター 3		福井県雪対策・建設技術研究所1 福井県海浜自然センター2 福井県自然保護センター2	大野市役所1 福井県自然保護センター2	福井県雪対策2 福井市環境事務所2 福井健康福祉センター1 福井県衛生環境研究センター2 株式会社サンワコン2 福井市園芸センター1 福井市自然史博物館1
計	6名	6名	21名	15名	26名

(就職委員会資料より)

医学部では地域医療など医療現場体験の機会を拡充するため、平成20年度から卒前臨床実習における外部関連医療機関における研修期間を約4週から7週に延長した。

工学研究科では、高度専門知識の習得などを目的とした派遣型高度人材育成協同プランに基づく長期インターンシップを平成18年度に設け、平成18年度は8名、平成19年度は10名を企業に派遣した。さらに、創業型実践大学院工学教育の技術経営カリキュラムに基づく中期インターンシップを平成18年度より実施している。これら取組によって大学院生の実社会体験の機会が拡充された【P264 資料 3-1-2】。

資料 3-1-2 長期派遣型インターンシップ及び中期インターンシップの実施状況

長期派遣型インターンシップ実施状況			
年度	派遣先	専攻	人数
平成18年度	セーレン(株)	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	2
	福井コンピュータ(株)	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	(株)ネスティ	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	(株)NTTデータ北陸	博士前期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	2
	(株)NTTドコモ北陸	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	富士通(株)	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	3
合計			10
平成19年度	(株)ネスティ	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	(財)若狭湾エネルギー研究センター	博士前期課程 原子力・エネルギー安全工学専攻	1
	(株)システムラン	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	(株)NTTデータ北陸	博士前期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	2
	(株)アイ・オー・データ機器	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	(株)富士通研究所	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	2
	マコー(株)	博士後期課程 物質工学専攻	1
	ソニーEMCS(株)美濃加茂テック	博士前期課程 情報・メディア工学専攻	1
	(独)産業技術総合研究所	博士前期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	1
	(独)産業技術総合研究所	博士後期課程 ファイバーアミニティ工学専攻	1
合計			12
中期インターンシップ実施状況(創業型実践大学院)			
年度	派遣先	専攻	人数
平成18年度	Precision System Science	材料開発工学	1
	日立化成工業(株) 研究開発本部	材料開発工学	1
	日華化学(株)	知能システム工学	1
	アイテック(株)	生物応用化学	1
	アイテック(株)	生物応用化学	1
	(株)日本化学工業所	機械工学	1
	セーレン(株) 研究開発センター	生物応用化学	1
	神戸工業試験場	ファイバーアミニティ工学	1
合計			8
平成19年度	(株)日本化学工業所	ファイバーアミニティ工学	1
	(株)タカギセイコー	ファイバーアミニティ工学	1
	東工シャッター(株)	ファイバーアミニティ工学	1
	サカイオーベックス(株)	ファイバーアミニティ工学	2
	(株)アタゴ	ファイバーアミニティ工学	1
	(財)若狭湾エネルギー研究センター	生物応用化学	1
	小林化工(株)	ファイバーアミニティ工学	1
	エスエス製薬(株)	電気・電子工学	1
(独)建築研究所	建築建設工学	1	
合計			10

(事務局資料)

教育学研究科では、附属学校と連携し、平成17年度からインターンシップを先導的に試行し、院生や学校の方から高い評価を得た。この試行的取組は、教職大学院でのインターンシップにつながった【資料3-1-3】。

資料 3-1-3 インターン経験者のコメント抜粋

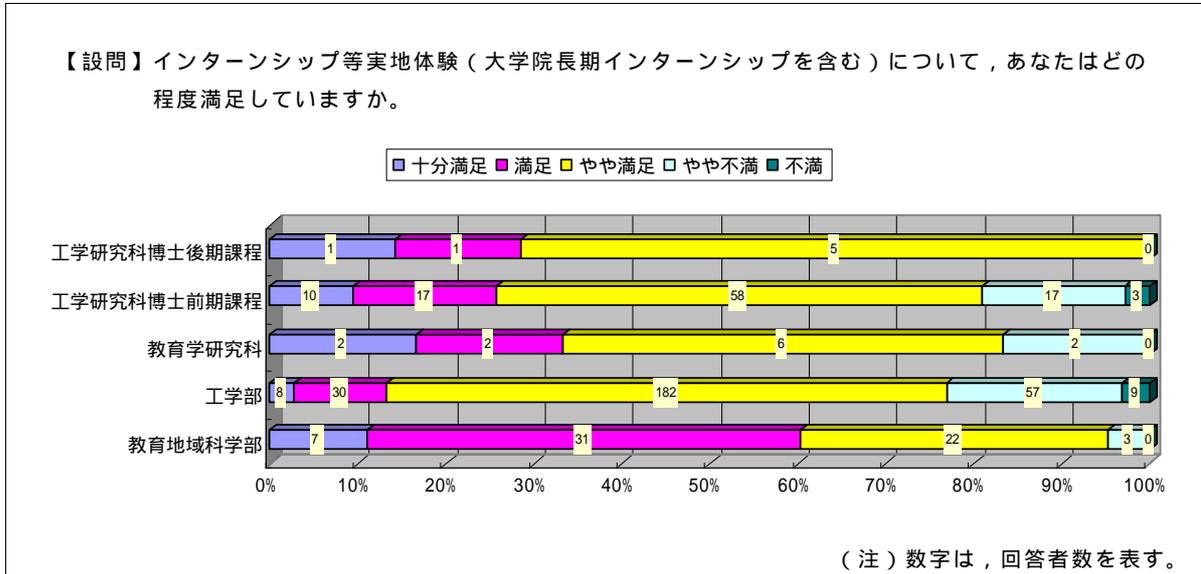
このインターン活動で見てきた授業を先事例として、今年度授業を行うことができたので、本を読んで考えたことだけでなく、自分が実際に見てきた中で得た感触をいかして、自分の授業を組み立てることができたのは大きかった。

もう一つは、授業だけでなく、日常的に学校にすることで授業と授業の間や放課後の様子、行事や研究会の前後の様子を身をもって体験することが大学院生の間にできたことは、今後の教育活動に多いにプラスになった。丁度、大学生でいることと学校へ勤めに行くことの間にある移行期間を過ごすことができたように思っている。おかげで現在もインターンを行った附属小学校で、講師としてお世話になっているが、この1年を終えて振り返っても、学校の様子や生活のリズムや年間の行事の流れ方などで戸惑ったりすることなく、初めて現場に来た人に比べて柔軟に対応することができたように思う。

(教育学研究科 現況調査表より)

インターンシップ等による実地体験に参加した学生の評価は概ね良好である【資料 3-1-4】。

資料 3-1-4 インターンシップに参加した学生の満足度

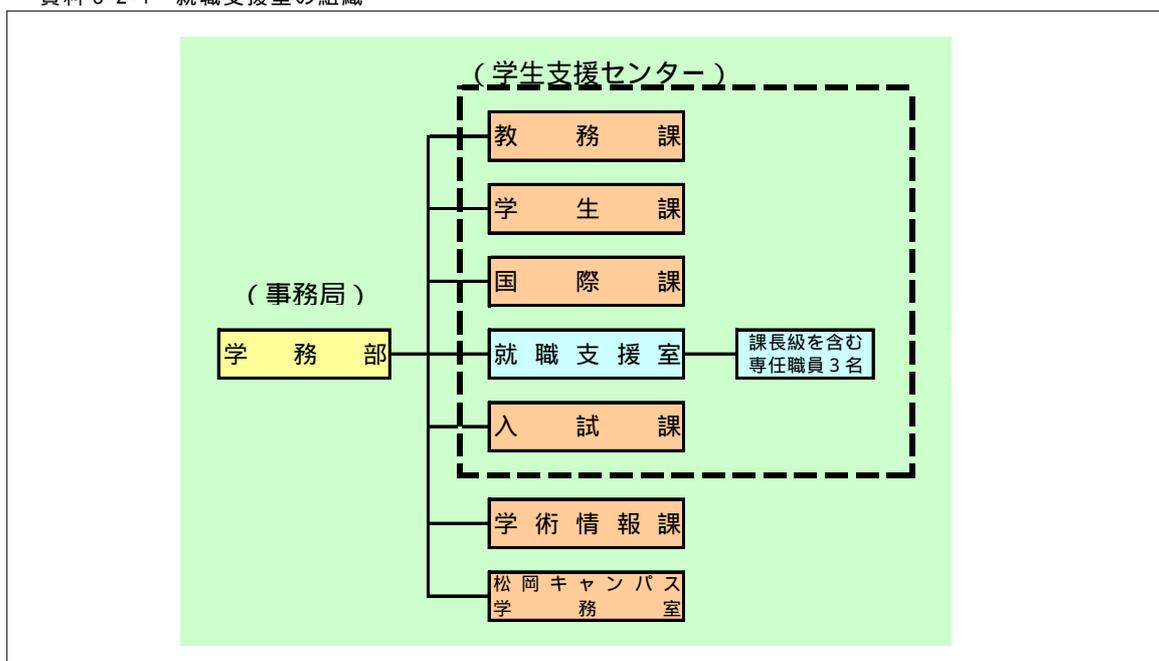


(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

計画 3-2 「就職室」の設置等，学生の進路相談体制を充実し，就職ガイダンスや企業・病院説明会を充実させる。」に係る状況

専任職員を配置した「就職支援室」を平成 16 年度に設置し，大学全体の就職状況を把握し，より良い進路指導ができるよう体制を整備した。さらに，就職支援室は平成 18 年度に設置された学生支援センターと密接な連携をとり，学生の進路相談体制が強化された【資料 3-2-1】。

資料 3-2-1 就職支援室の組織



(事務局資料)

進路調査等を行うなど学部毎の学生の就職希望等のデータを基に，学部の状況に応じた種々のガイダンスやセミナーを適宜実施した。これらガイダンスの開催は学生から好評を得ている【資料 3-2-2～3】。

資料 3-2-2 就職支援に関する活動状況 (平成 19 年度)

月 日	支援事業の名称等	テーマ&概要等	参加学生数
4月	20(金) 公務員講座募集ガイダンス(福大生協)	公務員試験対策学内講座説明会	115名
	9(水) 公務員講座募集ガイダンス(福大生協)	公務員試験対策学内講座説明会	83名
5月	11(金) 福井県インターンシップ制度事前説明会	・講演「企業が求める人材」 ・「福井県インターンシップ制度」説明	123名
	18(金) 就職(教職)ガイダンス - 福井県教員採用試験説明会 - - 京都市教育委員会教員採用説明会 -	・講演「教員採用試験に向けての心構え」 ・教員採用志願書作成の留意事項	111名
	21~25 教員採用試験模擬面接 (教育地域科学部就職委員・本学)		29名
	29(火) 教員採用模擬試験 (有料) (福大生協)	・教養，専門，論作文 各 2000 円 ・専門は申し込み時に 17 科目から選択	18名

6月	1(金)	公務員試験対策講座 (有料) (福大生協)	・教養, 専門併せて 13 科目 ・全 240 コマ (一般行政職ほか対応)	受講生 78 名
	上旬	福井県インターンシップ制度	エントリーシートの送付	89 名
	22(金)	就職ガイダンス - これからの就職活動 - (毎日コミ・ディスコ・人材情報センター)	・就職活動すべてのポイント教えます ・職務適正テスト ・見落としがちな就職活動の落とし穴	230 名
7月	7(土)	インターンシップ事前研修会	福井県インターンシップ参加申込者の 事前研究会	80 名
	27(金)	教員採用試験論文勉強会		24 名
8,9月		インターンシップ実施		89 名
10月	19(金)	就職ガイダンス - インターネット活用講座 - (リクルート・福井県就職支援機構)	・インターネット等の活用法 ・就職活動の心得と県内企業の 雇用情勢について	240 名
	26(金)	就職ガイダンス - エントリーシート作成講座 - (毎日コミ・アイバック)	・エントリーの仕方と エントリーシートの書き方まで ・福井大学求人票閲覧システムの活用法	234 名
	12(金)	福井県インターンシップ事業報告会		24 名
11月	9(金)	就職ガイダンス ・産業職業研究セミナー (講演会) ・職業適性テスト (無料) (福井県雇用能力開発機構)	各企業の人事担当者から, 企業の求める 人材と採用試験等の説明を受ける ・職業適性テスト ・自己分析・自己適性の仕方	137 名
	16(金)	就職(教職)ガイダンス - 教員採用試験対策講座 - (時事通信出版局)	・教職を目指す学生の心構え ・教員採用試験対策から採用のポイント	27 名
12月	7(金)	就職ガイダンス - 卒業生と就職を語る会 -	・各業界で活躍する OB・OG による就職 体験報告及び意見交換を行う	77 名
	14(金)	就職ガイダンス ・面接講座 (日経ディスコ) ・SPI 模擬試験 (福大生協)	・企業訪問・面接の基本マナー ・面接のポイント ・SPI 基礎能力測定・性格適性検査	201 名
	24(月)	企業説明会 - 産学官連携本部 - (参加企業 7 2 社)	各企業人事担当者から企業の求める 人材と採用試験等の説明を受ける	244 名
1月	11(金)	就職ガイダンス - 就職活動体験報告会 - (本学学 生 6 名)	・本学先輩方の就職活動の流れ ・実践的な就職活動体験談	115 名
	26(月)	就職講座 (福大生協)	・メディア活用講座 ・就職活動のためのメディア活用法	10 名
2月	7(木)	教育地域科学部 企業説明会・懇談会(企業 35 社)	各企業人事担当者から企業の求める 人材と採用試験等の説明を受ける	28 名
	12~15	教員採用対策 (福応会関係者・教育地域科学部就 職委員)	教員採用模擬面接	18 名
	13~14 18~19	合同企業説明会(企業 240 社)	各企業人事担当者から企業の求める 人材と採用試験等の説明を受ける	延 772 名

備考: 就職相談(毎週水曜日), 企業模擬面接(毎週木曜日)に実施

(事務局資料)

資料 3-2-3 学生からの就職支援に対する評価例

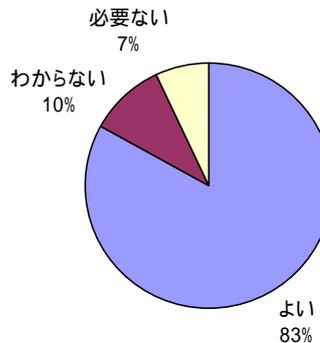
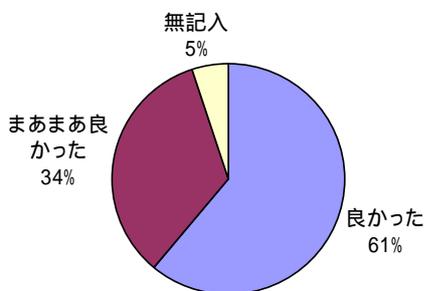
卒業生と就職を語る会（報告書）

学部3年次生，大学院1年次生を対象に，職業観や仕事の現実に対する理解を深めるため，福井県内の企業等に勤務する教育地域科学部及び工学部のOB4名（福井県警察本部，（株）福邦銀行，セーレン（株），（株）福井村田製作所）を迎え，平成19年12月7日（金）に「卒業生と就職を語る会」を開催した。

参加学生に対するアンケート結果

（出席者77名 回答者41名（教育地域科学部16名，工学部（25名）回収率53%）

【設問】本日のガイダンスを受けて良かったですか。 【設問】今後もOB，OGと語る会を開いた方が良いですか。



（事務局資料）

企業の情報収集等を図るため，県内外の企業の人事担当者による学内合同企業説明会を適宜開催した【資料3-2-4】。参加企業数は年々増加している。

資料 3-2-4 企業説明会年度別実施状況

年度	事項	参加企業数	参加学生数
平成	学内合同企業説明会	130社	延720名
	教育地域科学部企業説明会	23社	69名
平成	学内合同企業説明会	158社	延508名
	教育地域科学部企業説明会	34社	40名
平成	学内合同企業説明会	218社	延637名
	教育地域科学部企業説明会	42社	42名
	地域共同研究センター企業説明会	60社	286名
平成	学内合同企業説明会	240社	延772名
	教育地域科学部企業説明会	35社	28名
	産学官連携本部企業説明会	72社	244名

2009年3月卒業（修了）予定の学生が対象!!

福井大学学内合同企業説明会

県内外企業240社が参加!

福井大学ホームページで1月16日より事前参加申込受付開始!!

2008年2月 13日(水)、14日(木)、18日(日)、19日(月)

第1部 10:00~13:00 / 第2部 14:00~17:00

会場 福井大学文京キャンパス 総合研究棟13階会議室

プログラム 各開催日：第1部、第2部 各々30社参加

※参加企業詳細は、福井大学ホームページに掲載しています。

福井大学ホームページからアクセス! 福井大学ホームページ <http://www.fukui.ac.jp/>

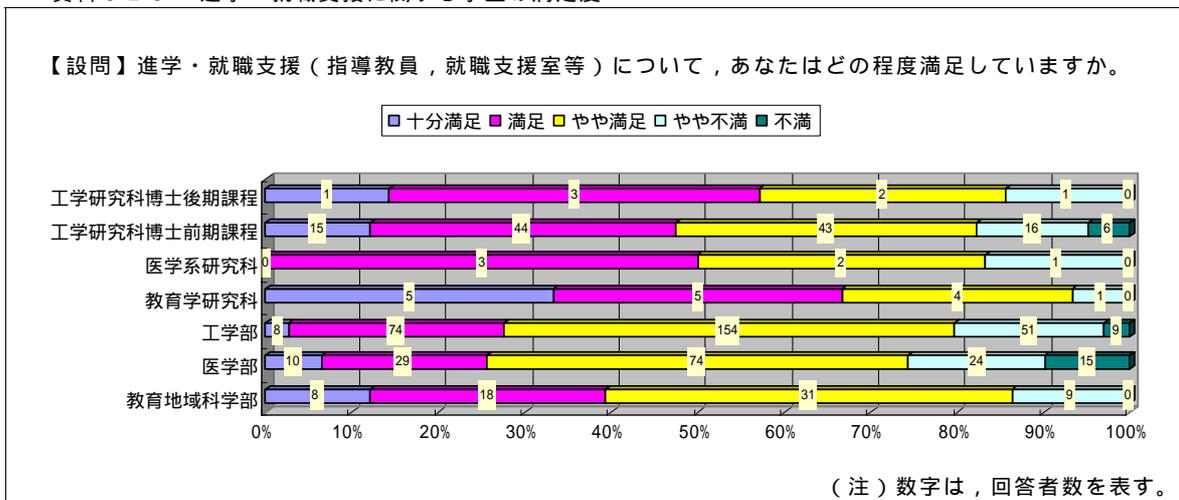
在学者・ご家族の方へ 就職支援/進路 福井大学求人情報システム(学内専用)

主催：工学部及び工学部工学研究科博士前期課程 就職担当委員会 就職担当 電話：97-9730

（事務局室資料）

学生は進学・就職支援に概ね満足している【資料 3-2-5】。

資料 3-2-5 進学・就職支援に関する学生の満足度



(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

計画 3-3「就職指導については，一元体制をとり，個別の企業訪問等を通して就職先の開拓に積極的に取り組む。」に係る状況

就職支援室では求人情報のデータベース化・Web による閲覧によって就職支援体制を強化した。求人情報は年々増加している【資料 3-3-1～2】。

資料 3-3-1 求人票閲覧システム



こちらは、福井大学 学務部就職支援室・各学部就職委員が運営・承認の「福大 求人票 閲覧システム」です。福井大学への求人企業が全て掲載してあります。

- 2008年3月卒業予定学生対象**
- [2008年3月卒業予定学生はこちら](#) 2008年3月卒業予定学生の方はこちらからログインください。
- 2009年3月卒業予定学生対象**
- [2009年3月卒業予定学生はこちら](#) 2009年3月卒業予定学生の方はこちらからログインください。
- 2010年3月卒業予定学生対象**
- [2010年3月卒業予定学生はこちら](#) 2010年3月卒業予定学生の方はこちらからログインください。
- 2011年3月卒業予定学生対象**
- [2011年3月卒業予定学生はこちら](#) 2011年3月卒業予定学生の方はこちらからログインください。

(事務局資料)

資料 3-3-2 3月卒業生対象の求人票の推移

(件)

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
求人総数	1437	2086	2477	2631
福井県内企業	117	150	144	140
その他企業	1320	1936	2333	2491

(事務局資料)

就職支援室では個別の企業訪問回数を増やすとともに、ハローワークや企業等が実施する企業説明会に積極的に参加し就職先の開拓を推進した【資料 3-3-3】。

資料 3-3-3 就職支援室による就職先の開拓状況

県、就職サイト企業、商工会議所等が主催する、就職担当者と企業の人事担当者が採用情報を交換するセミナー等に就職支援室職員及び学部就職委員が積極的に参加。

県内外の企業の人事担当者を招いて、直接、企業の情報収集等を図るための学内合同企業説明会の開催。

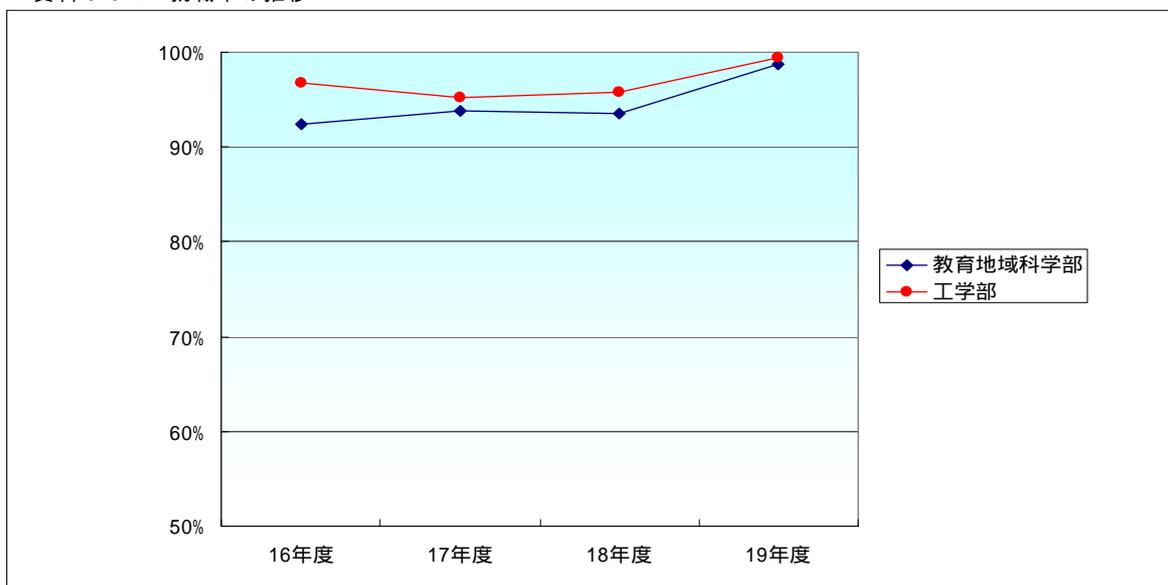
- ・教育地域科学部（主として県内企業） 企業 50社 2月に1回
- ・工学部（県内外の企業） 企業 240社 2月に2回（延べ4日）
- ・地域共同研究センター（主として県内企業） 企業 71社 12月に1回 等

学生が就職している県内の企業を中心に、人事担当者を訪問。

(事務局資料)

教育地域科学部や工学部における就職率は高い水準で維持され、外部のランキングでも高い評価がなされており、これは計画 3 - 2 とあわせ取組が成果をあげた証左である【資料 3-3-4 ~ 5】。

資料 3-3-4 就職率の推移



(事務局資料)

資料 3-3-5 就職に係る外部の評価

06 春版

「就職」本当に強い200大学

順位	大学名	所在地	2006					参考			
			院含む	卒業 (終了) 者総数	就職決定 者数	進学 者数	就職率	就職率			
								05	04	03	02
21	群馬社会福祉大学	群馬		126	118	0	93.7	-	-	-	-
22	中部学院大学	岐阜		298	274	5	93.5	87.9	87.9	-	85.2
23	宮崎国際大学	宮崎		48	42	3	93.3	88.2	-	92.2	-
23	諏訪東京理科大学	長野		269	210	44	93.3	-	-	-	-
25	金城大学	石川		194	181	0	93.3	92.5	-	-	-
26	明治薬科大学	東京		100	320	85	93.3	91.4	89.8	84.1	85.5
27	福井県立大学	福井				41	92.9	-	-	-	-
28	福山平成大学	広島				3	92.9	91.0	87.6	85.5	82.2
29	東京薬科大学	東京		759	481	240	92.7	86.5	83.1	86.0	81.6
30	愛知学泉大学	愛知		227	202	9	92.7	-	-	72.3	-
31	九州工業大学	福岡		1808	1041	684	92.6	92	-	-	90.7
32	福井大学	福井		1282	889	319	92.3	94.0	88.5	85.5	86.2
33	国際医療福祉大学	栃木		859	771	21	92.0	91.8	-	-	-
34	東京電機大学	東京		2170	1619	408	91.9	89.0	78.6	82.3	84.6

国立大学法人中では
第2位

(読売ウィークリー 2006.8.13より)

教育 4

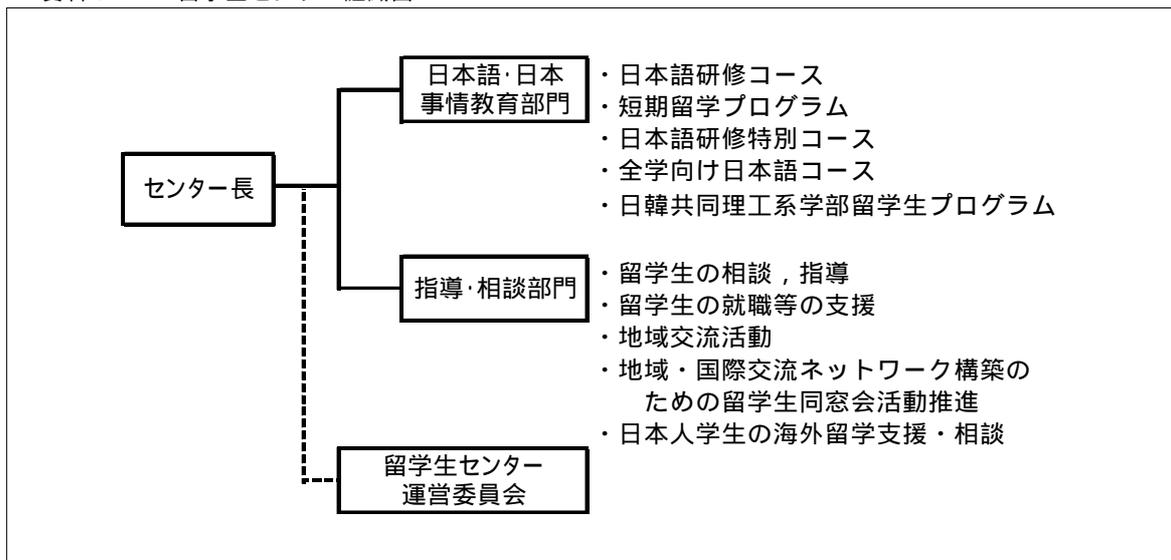
中項目 4 学生の支援「計画 3-3」

計画 3-4 「留学生センターを中心に留学生の進路支援の活動を強化する。」に係る状況

留学生センターに留学生指導・相談部門を設置しており、その専任教員が各学部指導教員と連絡を取りながら留学生の進路支援及び進学相談を実施できる体制を整備している【資料 3-4-1】。

また、専任教員による企業や経済団体の訪問や留学生に対するガイダンスなどにより進路支援を行った。留学生からの就職・進学相談件数は年 70 件程度にのぼっている【資料 3-4-2】。

資料 3-4-1 留学生センター組織図



(事務局資料)

資料 3-4-2 留学生の進路支援の実施状況について

相談内容

進学，就職，研究・学習を中心に事件・事故，生活一般，異文化適応，精神衛生等を含む相談を年間 200 件以上受け，必要に応じ関係教職員を交えて問題を解決しています。最近の傾向として，卒業後日本以外の国に留学したいという相談や，求職の相談，更には就職のための英語学習相談などが増えています。

また，地域交流活動，就職支援の活発化に伴い，関係機関や企業からの来訪相談も多いです。（年間約 50 件）。

在学中の留学生だけでなく，卒業留学生，日本人学生，国際交流の手がかりを！という市民の皆さん，どなたでも来訪相談を歓迎いたします。

相談実績

年度	教育地域科学部	医学部	工学部	合計
平成 16 年度	64	-	187	251
平成 17 年度	48	2	153	203
平成 18 年度	37	0	167	204
平成 19 年度	58	1	136	195

（留学生センターHP「福井大学で学ぶ留学生への情報」）

「留学生と県内企業との交流会」を開催して意見交換の場を設定する等の取組を行い【資料 3-4-3】，留学生の就職状況改善に寄与した【P274 資料 3-4-4】。

資料 3-4-3 交流会での意見交換

（企業感想）

- ・県内の留学生の優秀な人たちと交流できて，弊社に興味を持った留学生が多数いた。
- ・中国人留学生と何人かとコンタクトが取れたことは点は，良い出会いの場として評価できると思う。
- ・今回の企画は，大変良かったと思います。産業の国際化の中で，企業も国際的な人材の登用が必要になっています。

（留学生感想）

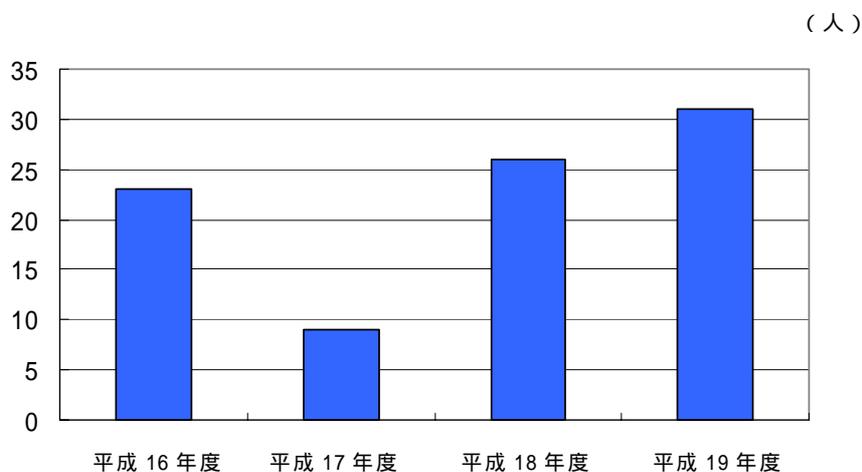
- ・福井における留学生に対する具体的な求人状況が把握できた。
- ・企業と直接話すチャンスがとても少ないので，今回の懇談会ではたくさんの企業と話すことができ満足であった。



（事務局資料）

資料 3-4-4 留学生の就職状況

留学生の国内就職実績



平成 18 年度本学留学生就職先実績一覧

企 業 名	所 属	留 学 生 国 籍	企 業 所 在 地
(株)マキタ	工学研究科知能システム工学専攻	中国	愛知県安城市
江守商事(株)	教育研究科教科教育専攻技術専修	中国	福井県福井市
(株)キュービカ	工学研究科建築建設工学専攻	中国	大阪府豊中市
(株)アタゴ	工学研究科応用生物化学工学専攻	中国	福井県福井市
(株)アタゴ	教育研究科教科教育専攻国語専修	中国	福井県福井市
(株)ダイフク	工学研究科機械工学専攻	中国	大阪市
(株)古河オートメディア・ルーツ	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	滋賀県甲良町
(株)光通信	教育地域科学部異文化交流講座	中国	東京都
富士通(株)	工学研究科電気電子工学専攻	韓国	東京都
メイテックフィールダー	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	神戸市
三菱電機 (HMI 研究)	工学研究科機械工学専攻	中国	名古屋市
ソニーLSI デザイン(株)	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	横浜市
日本電気(株)	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	東京都
本田技研工業(株)	工学研究科電気電子工学専攻	中国	東京都
日本電産シパウラ(株)	交換留学生 (工学部機械工学科 4 年)	中国	福井県小浜市
オプトラン(株)	工学研究科ファイバ・アメリティ工学専攻	中国	川越市
グローバルリンク(株)	工学研究科システム設計工学専攻知識情報システム	中国	東京都
(株)ジャロック	工学研究科建築建設工学専攻	中国	福井市
(株)フォーラムエンジニアリング	工学部材料開発工学科	中国	東京都
シンフォニー(株)	教育研究科教科教育専攻技術専修	中国	名古屋市
(株)サイバーフロンティア	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	東京都
ギャレックス(株)	工学部応用生物化学科	中国	武生市
藤田光学(株)	教育研究科教科教育専攻技術専修	中国	鯖江市

(事務局資料)

計画 3-5 「大学院への進学率や国家試験等の合格率の向上を目指す指導を行う。」に係る状況

大学院への進学率の向上を図るため、工学部では平成 18 年度に早期履修制度を導入した【資料 3-5-1~2】。教育学研究科および医学系研究科では、大学院への進学率向上を図る一環として、平成 20 年度に大学院カリキュラムを新規に整備した【P76 資料 2-4-1~5】。さらに、平成 20 年度における教職大学院の設置（教育学研究科）【P108 資料 2-2-7】や新規な奨学金の設置（医学系研究科）【P276 資料 3-5-3】は、大学院への進学率向上につながる取組である。これらの結果、大学院への進学率は相応な水準で維持されている【P277 資料 3-5-4】。

資料 3-5-1 早期履修制度実施要綱

福井大学大学院工学研究科大学院科目早期履修制度実施要項

1. 制度の趣旨

本学学部在籍学生で、本学大学院工学研究科への進学を志望する特に優秀な者について、その能力の高度な発展を期し、早期に大学院教育に接する機会を提供するとともに、学部と大学院の一貫教育を確立するため、教育上の特例措置として、学部在籍学生の大学院授業科目の早期履修制度を実施するものである。

2. 実施する学科

機械工学科、電気・電子工学科、材料開発工学科、物理工学科

3. 出願資格

本学工学部 4 年次生以上に在学し、卒業研究に着手する見込みの者で、早期履修をしようとする学期開始の前月末までに学部卒業に必要な単位（4 年次生で履修する必修単位は除く。）を全て修得する見込みの者

4. 早期履修可能な科目

別表（博士前期課程教育課程表）指定のとおり

5. 出願手続

1) 出願期間

前期： 4 月 1 日～ 4 月 10 日（土・日曜日、祝日を除く。）9:00～17:00

後期： 10 月 1 日～ 10 月 10 日（土・日曜日、祝日を除く。）9:00～17:00

2) 出願書類

早期履修願書（所定用紙）

成績証明書（直近の学期の成績を含むもの）

既に本研究科の入学試験に合格している場合は合格通知書のコピー

3) 出願場所

学務部教務課教務第一係

6. 選考方法

これまでの工学部における履修状況に基づき、当該学科で審査する。さらに、別表中の「工学研究科共通」科目及び各専攻の「専攻共通」科目以外の科目（講座開講科目）については、授業科目担当者による面接を実施する。

7. 審査結果の発表及び早期履修手続

上記 5 の出願期間終了後 1 週間以内に、当該学科掲示板に掲示する。

8. 成績評価

本制度のための特別な基準は設定せず、通常大学院科目の基準で評価を行う。

この単位は、学部卒業のための単位としては認定されないため、注意すること。

9. 修得単位の大学院科目としての認定

修得した科目の単位は、翌年度に工学研究科博士前期課程の当該学科を基礎とする専攻に入学した場合に限り、本人の申請に基づき、入学後、大学院工学研究科博士前期課程修了のための単位として認定される。ただし、8 単位を限度とする。

【単位認定申請の方法】

1) 単位認定願の申請時期

4 月上旬の所定日（当該専攻掲示板に掲示する。）

2) 提出書類

単位認定願書（所定用紙）

学部の成績証明書

3) 提出先

教務課大学院係

資料 3-5-2 大学院授業科目早期履修者数一覧

大学院進学者の約 12%が早期履修制度を活用している。

学 科 名	平成 18 年度		平成 19 年度	
	前期	後期	前期	後期
機械工学科	0	0	0	5
電気・電子工学科	6	9	0	2
材料開発工学科	14	17	4	21
物理工学科	8	3	2	3
合 計	28	29	6	31

(教務課資料より)

資料 3-5-3 大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項

大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項

〔平成 20 年 3 月 6 日〕
博士課程委員会

(趣旨)

第 1 この要項は、大学院医学系研究科博士課程における基礎医学系分野(基礎医学及び社会医学系分野をいう。以下同じ。)の研究者育成を図ることを目的とし、当該分野に入学した学生に給付する奨学金について必要な事項を定める。

(対象)

第 2 この奨学金は、日本の医学部医学科を卒業し、かつ、基礎医学系分野に入学し、将来基礎医学系研究者を目指す学生に給付する。ただし、社会人大学院生で常勤職員として本務先を有する者は除く。

(奨学金の申請)

第 3 前項の資格を有する学生が、奨学金給付を希望する場合は別に定める申請書を医学系研究科長に提出するものとする。

(給付の決定)

第 4 医学系研究科長は、奨学金給付の申請があった場合には、博士課程委員会の議を経て、給付の有無を決定する。

(奨学金の額及び給付方法)

第 5 奨学金の額は「国立大学法人福井大学における授業料その他の費用に関する規程(平成 16 年福大規則第 26 号)」に規定する、大学院生の入学金及び授業料相当額とする。

2 奨学金の給付は、学生が入学金または授業料を支払った後、事務が支払い済みであることを確認して当該学生の指定した口座に振り込むものとする。

3 入学金相当額については入学手続き後、授業料相当額については、年額の二分之一をそれぞれ 4 月及び 10 月の授業料納付期間後に支払い済みの確認を行い速やかに振り込むものとする。

(給付期間)

第 6 授業料相当額は基礎医学系分野に入学後 4 年間分、入学金相当額は 1 回限りとする。

2 留学等のため休学した場合は、休学許可期間の給付を中断する。

3 入学後の在学期間が 4 年を超えた場合、または退学した場合は、給付を中止する。

(奨学金の返還)

第 7 奨学金は、返還を要しない。

(事務)

第 8 奨学金に関する事務は、学務部松岡キャンパス学務室において処理する。

(その他)

第 9 この要項に定めるもののほか、実施に関し必要な事項は、医学系研究科長が定める。

附 則

1 この要項は、平成 20 年 3 月 6 日から実施する。

2 この要項により奨学金を給付決定された者が、5 名に達した時点で見直しを行う。

(事務局資料)

資料 3-5-4 大学院進学状況

年 度 等		教育地域科学部	工学部	医学部
平成 19 年度 (H20.3 卒業)	本学大学院	19	234	0
	他大大学院	3	35	3
平成 18 年度 (H19.3 卒業)	本学大学院	17	234	0
	他大大学院	4	25	4
平成 17 年度 (H18.3 卒業)	本学大学院	22	239	6
	他大大学院	6	27	
平成 16 年度 (H17.3 卒業)	本学大学院	20	246	4
	他大大学院	3	27	
平成 15 年度 (H16.3 卒業)	本学大学院	22	261	3
	他大大学院	3	11	

(事務局資料)

教員免許・各種資格試験（教育地域科学部）、医師・看護師国家試験（医学部）の合格率向上のため、国家試験対策を指向した合同講義の実施、国家試験関連図書の優先的購入、助言教員等の配置や試験準備に適した少人数学習用教室の設置など様々な取組を実施した。これらの結果、試験合格者数・合格率は相応な水準で維持されている【資料 3-5-5～6】。

資料 3-5-5 教員免許・各種資格取得状況（教育地域科学部）

取得免許（学校教育課程）

教員免許種類	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		合 計	
	二種	一種	二種	一種								
幼稚園	0	20	0	18	0	27	0	19	1	20	1	104
小学校	15	79	10	94	7	98	10	93	6	91	48	455
中学校	10	98	6	97	7	104	9	97	3	94	35	490
高等学校	0	97	0	98	0	98	0	94	0	103	0	490
特別支援学校	0	11	3	13	2	18	7	19	1	17	13	78
計	25	305	19	320	16	345	26	322	11	325	97	1,617

取得資格

各種資格	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合 計
社会教育主事	10	10	9	5	10	44
学芸員	15	10	6	7	10	48
学校図書館司書教諭	21	12	9	4	22	68

(教育地域科学部現況調査表)

資料 3-5-6 国家試験合格状況（医学部）

医師国家試験合格状況

回（年度）	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第98回（平成15年度）	95	95	92	96.8%	9	1	11.1%	104	93	89.4%	88.4%
第99回（平成16年度）	96	95	85	89.5%	10	2	20.0%	105	87	82.9%	89.1%
第100回（平成17年度）	98	98	94	95.9%	15	10	66.7%	113	104	92.0%	90.0%
第101回（平成18年度）	114	114	107	93.9%	12	6	50.0%	126	113	89.7%	87.9%
第102回（平成19年度）	107	107	97	90.7%	12	5	41.7%	119	102	85.7%	90.6%

看護師国家試験合格状況

回（年度）	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第92回（平成15年度）	67	57	56	98.2%	0	0	0.0%	57	56	98.2%	91.2%
第93回（平成16年度）	64	55	54	98.2%	2	2	100.0%	57	56	98.2%	91.4%
第94回（平成17年度）	62	56	56	100.0%	1	1	100.0%	57	57	100.0%	88.3%
第95回（平成18年度）	66	56	56	100.0%	0	0	0.0%	56	56	100.0%	90.6%
第96回（平成19年度）	65	58	58	100.0%	2	2	100.0%	60	60	100.0%	90.3%

保健師国家試験合格状況

回（年度）	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第90回（平成15年度）	67	67	66	98.5%	4	3	75.0%	71	69	97.2%	92.3%
第91回（平成16年度）	64	61	53	86.9%	3	0	0.0%	64	53	82.8%	81.5%
第92回（平成17年度）	62	61	52	85.2%	9	8	88.9%	70	60	85.7%	78.7%
第93回（平成18年度）	66	64	64	100.0%	8	7	87.5%	72	71	98.6%	99.0%
第94回（平成19年度）	65	65	64	98.5%	1	1	100.0%	66	65	98.5%	91.1%

助産師国家試験合格状況

回（年度）	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第87回（平成15年度）	67	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	96.2%
第88回（平成16年度）	64	4	4	100.0%	0	0	0.0%	4	4	100.0%	99.7%
第89回（平成17年度）	62	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	98.1%
第90回（平成18年度）	66	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	94.3%
第91回（平成19年度）	65	4	3	75.0%	0	0	0.0%	4	3	75.0%	98.1%

（医学部現況調査表より）

b) 「小項目3」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 将来を見通す実社会体験の奨励を図るため各種インターンシップ制度を整備した。短期から長期まで派遣期間が異なるものが整備され、学生のニーズに応じて選択できる体制となっていることは特記できる。
2. 就職支援体制の一元化・強化のために「就職支援室」を設置した。さらに続いて設置した「学生支援センター」を就職支援室と連携させることにより、学生の進路相談体制も強化した。この結果、学生の就職率は高い水準で維持された。就職状況に対する高い外部評価は本学の就職支援体制が優れていることの証左である。
3. 留学生センターにおける留学生指導相談部門の設置や、企業との交流会の実施などの取組によって、留学生の就職状況は改善された。
4. 早期履修制度の導入や大学院カリキュラムの新規整備及び各種資格試験への適切な対応等によって、大学院への進学率及び各種資格試験の合格率は、法人化後相応な水準で維持された。

中項目4の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 「学生支援センター」や「松岡キャンパス学務室」の設置、「なんでも相談窓口」の開設などによって進路相談を含め学生支援を一括して対応する体制が整備された。さらに、全教員のオフィス・アワーの設定やシラバスの利便性向上などによって、学習相談・助言・支援など学生への組織的支援体制が強化された。
2. インターンシップ制度活用による実社会体験の奨励や就職支援体制の一元化・強化のための「就職支援室」の設置、留学生センターの就職支援体制の強化、就職支援の活発な取組等によって学生ならびに留学生への進路相談・就職支援体制が強化され、就職率は高い水準で維持された。
3. メンタルヘルスケアを含め健康相談に適切に対応できるよう保健管理センターを中心とした支援体制を整備・充実し、その結果多数の相談件数が適切に対処された。
4. 新規な奨学金制度の創設や入学金・授業料免除制度の改善によって、経済的支援が推進された。

優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

従来から教務課や学生課などが個別に担当していた窓口業務を一体化した「学生支援センター」や「なんでも相談窓口」の設置及び保健管理センターの機能強化によって、メンタルヘルスケアを含め学生からの相談に一括して応じられる組織的支援体制が構築でき、多くの学生相談に対応している。(計画 1-1, 2-1~2)

(改善を要する点)
該当なし

(特色ある点)

専任職員を配置した「就職支援室」の設置や留学生センターにおける「留学生指導相談部門」の設置など就職支援体制が強化され、学生の就職支援・状況が改善することが期待される。(計画 3-2, 3-3, 3-4)